

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

Center for Humanities, Science and Religion

2024 年度 研究活動報告書

March/2025

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

Center for Humanities, Science and Religion

2024 年度 研究活動報告書

~~~~~

# 2024 年度 研究活動報告書

## 目 次

~~~~~

目次	i
----	---

❖ 2024 年度研究活動一覧 ❖

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）	3
研究目的・成果概要 ーセンター長 鍋島直樹	3
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）研究活動一覧表	3

❖ 主 要 研 究 活 動 概 要 ❖

<グリーンケア講座>

2024 年 7 月 9 日 ❖ グリーンケア講座 ❖

「傾聴のコツ：話を「否定せず、遮らず、拒まず」	8
-------------------------	---

2024 年 7 月 17 日 ❖ グリーンケア講座 ❖

「スピリチュアルケア」	23
-------------	----

2024 年 12 月 11 日 ❖ グリーフケア講座 ❖	
「ビハーラ活動—物語を紡ぐ—」	24
＜特別講義＞	
2024 年 6 月 11 日 ❖ 特別講義 ❖	
「地域に開かれた寺院」	28
2024 年 6 月 13 日 ❖ 特別講義 ❖	
「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」	34
2024 年 6 月 25 日 ❖ 特別講義 ❖	
「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」	37
2024 年 10 月 9 日 ❖ 特別講義 ❖	
「実践真宗学のフロンタイン」	40
2024 年 11 月 20 日 ❖ 特別講義 ❖	
「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」	43

＜特別公演＞

2024 年 6 月 5 日 ❖ 特別公演 ❖	
「みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～」	47

2024 年 6 月 19 日 ❖ 特別公演 ❖	
「みすゞの読んだアンデルセン童話」	50

＜シンポジウム＞

2024 年 5 月 22 日 ❖ シンポジウム ❖	
「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」	53

2025 年 1 月 15 日 ❖ 新春シンポジウム ❖	
「臨床宗教師の現在と近未来」	56

＜研究会・セミナー＞

2024 年 6 月 21 日 ❖ 研究会 ❖	
「大乘仏教の国際関係論：日本の事例からの考察」	60

2024 年 11 月 22 日 ❖ 新書発表会 ❖	
Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義における関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の 再発見)	61
2025 年 3 月 23 日 ❖ シンポジウム ❖	
「システム論から考えるスクールカウンセリング」	62
＜その他＞	
2024 年 6 月 5 日～26 日 ❖ 研究展示 ❖	
「みんなちがって、みんないい。 童謡詩人金子みすゞ展～まなざしの源泉～」	63
2024 年 11 月 26 日 ❖ ディスカッション形式講演会 ❖	
幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第 2 弾 「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」	67
＜協力事業等＞	
2024 年 10 月 2 日 ❖ 顕真アワー❖	
「自死をみつめて～死と大いなる慈悲～」	68

❖ その他 ❖

個人研究業績	71
年間事業一覧	84
チラシ・新聞記事	95

2024 年度 研究概要・研究活動一覽

2024 年度世界仏教文化研究センター 応用研究部門 研究経過報告書

提出日：2025 年 3 月 18 日

研究代表者	鍋島 直樹	所 属	文学部
		職 名	教授
研究課題	世界の苦悩に向き合う智慧と慈悲—仏教の実践的研究		

1. 研究成果（達成度）の概要

研究計画に則り人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センターは、研究展示『金子みすゞ』1 回、グリーフケア講座 3 回、シンポジウム 2 回、特別講義 5 回、被災者・自死遺族交流、病院 workshop 7 回、ジェンダーと宗教研究センターとグローバル・アフェアーズセンターと社会的孤立支援センターは各 1 回特別講義を開催し、平等と非暴力と平和、cosmological plurality を願い求めた。

2024 年度、本センターは日本仏教看護ビハーラ学会年次大会「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に」を協力して開催し、K-GURS、日本グリーフ&ビリーブメント学会、日本宗教学会、日本佛教学会等で、鍋島直樹「死別の悲しみと共に生きる—ボランティア僧侶としての遺体安置所での死別悲嘆ケア」、那須英勝「信仰者の自己理解と自己表象の学術的評価の方法についての再検討」、打本弘祐「病者に向き合う仏教者の養成—龍谷大学「臨床宗教師研修」における試み」、能美潤史「『御文章』に関する新たな解釈への疑義」、高田文英他編『真宗の教学と実践』、Chen, Ching-Chang, and Nina C. Krickel-Choi. (2024) “Reimagining IR’s biomedical foundations: East Asian medicine and the need for cosmological plurality.” Cambridge Review of International Affairs 等が刊行され、世界の苦悩に心寄せ、仏教教学と実践の意味を問い、心の平安と世界の安穏を願う研究を志している。

特に、岩田真美ほかジェンダーと宗教研究センターと研究展示『みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ～まなざしの源泉～』を文部科学省、金子みすゞ記念館、金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、長門市、下関市、大阪府立中央図書館、Yunus Social Business Research Center 等に支援を賜り開催できた。金子みすゞの童謡は、西條八十、与謝野晶子、野口雨情らの心を動かし、大正 15 年、みすゞは童謡詩人会に二人目の女性として迎えられた。しかしみすゞが 25 歳の頃、夫から詩作や投稿仲間との文通を禁じられた。困難の中でみすゞは 3 冊の童謡詩集を清書し「私と小鳥と鈴と」などの未発表作品も綴った。世界の全ての存在に必ず意味がある。自他の弱さを知り、互いの個性を認め合っていきたい。その願いが、みすゞの「みんなちがって、みんないい。」に込められている。

PD 西村慶哉と RA 釋大智、RA 山本未久は、①研究展示、シンポジウム、特別講義設営、②成果概要、③HP 更新、④年次報告書作成、⑤日本印度学仏教学会、龍谷史学会で研究発表した。若手研究者の大学院生らも多く発表し学部生と学び合った。

2. 研究成果

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）2024 年度研究活動一覧表

設定された成果	当初の目標	達成度	備考
グリーフケア講座	2 回	3 回	①金田諦應（カフェ・デ・モンク主宰）「傾聴のコツ：話を「否定せず、遮らず、拒まず」」[2024 年 7 月 9 日（火）] 協力：実践真宗学研究科 ②谷山洋三（東北大学大学院文学研究科教授）「スピリチュアルケア」[2024 年 7 月 17 日（水）] ③新堀慈心氏（あそかビハーラ病院緩和ケア看護課長、浄土真宗本願寺派僧侶）「ビハーラ活動—物語を紡ぐ—」[2024 年 12 月 11 日]

特別講義	2 回	5 回	①柱本惇（龍谷大学文学部非常勤講師、浄土真宗本願寺派布教使・明覚寺住職、元あそかビハーラ病院ビハーラ僧）「地域に開かれた寺院」[2024 年 6 月 11 日(火)] ②鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」[2024 年 6 月 13 日（火）] ③安食真城（龍谷大学宗教部課長、浄土真宗本願寺派覚浄寺住職、豊郷町教育委員会委員、NPO 法人にじいろ Biwako 理事）「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」[2024 年 6 月 25 日（火）] ④長尾菜摘（実践真宗学研究科 2 年・臨床宗教師研究生）・長岡阿衣瑠（実践真宗学研究科 2 年・ハワイにおける国際伝道研究生）「実践真宗学のフロントライン」[2024 年 10 月 9 日（水）] ⑤上杉智英（京都国立博物館主任研究員）「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」[2024 年 11 月 20 日（水）]
特別公演	1 回	2 回	①矢崎節夫（童謡詩人金子みすゞ記念館館長）「みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～」[2024 年 6 月 5 日（水）] ②柴崎大輔・北尾知子（JULA 出版局）「みすゞの読んだアンデルセン童話」[2024 年 6 月 19 日（水）]
シンポジウム	1 回	2 回	①Mark Unno, Professor, Oregon University「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」[2024 年 5 月 22 日（水）] ②「臨床宗教師の現在と近未来」[2025 年 1 月 15 日（水）]
ワークショップ	7 回	7 回	臨床宗教師・臨床傾聴士研修ワークショップ 下記 7 回の計画のうち、5 回実施できた。 ①あそかビハーラ病院・特別養護老人ホームビハーラ本願寺（現地研修）2024 年 10 月 1 日（火） ②東日本大震災被災地（仙台震災遺構・全壊寺院・遺族交流）[2024 年 6 月 3 日（月）～6 月 4 日（火）] ③特別養護老人ホーム「常清の里」〔中止〕 ④橘保育園・橘デイサービスセンター統合型社会福祉施設（現地研修）〔中止〕 ⑤被爆寺院・広島平和記念資料館研修（現地研修）[2024 年 10 月 4 日（金）] ⑥NCC 宗教研究所 EU 神学生との宗教間対話（現地研修）[2024 年 11 月 15 日（金）] ⑦神戸赤十字病院、阪神淡路大震災記念・人と防災未来センター（オンライン研修）[2024 年 12 月 13 日（金）]
関連講義の開講	15 講	16 講	2024 年度大学院講義 ①「臨床宗教師・傾聴士実習」 ②「臨床宗教教育研究」 ③「グリーフケア論研究」 ④「ビハーラ・スピリチュアルケア論研究」 ⑤「実践真宗学研究」 ⑥「真宗人間論研究」 ⑦「真宗教義学研究」 ⑧「現代宗教論研究」 ⑨「宗教心理学研究」 ⑩「宗教教育学研究」 ⑪「生命倫理論研究」 ⑫「人権・平和論研究」（今年度休講） ⑬「カウンセリング論研究」 ⑭「地域・寺院活動論研究」 ⑮「精神保険学研究」 ⑯「社会実践特殊研究」
大学院教育プログラム展開	2 回	2 回	①東北大学の協力による臨床宗教師研修プログラム ②キリスト教 NCC 宗教研究所との宗教間対話
大学院生実践研究活動報告	1 回	1 回	①大学院実践真宗学研究科実習研究活動報告会 [2024 年 10 月 31 日（木）]
年次報告書	1 冊	1 冊	
新聞記事等		10 回	①「慈愛の童謡詩人紹介 鍋島教授ら「みすゞ展」、文化時報、[2024 年 6 月 14 日] ②「金子みすゞ展 みんなちがってみんないい。」、本願寺

			新報、[2024年6月20日] ③「『優しさの源泉』に仏さま 龍谷大学／金子みすゞ展 「みんなちがって、みんないい。」、本願寺新報、[2024年7月1日] ④「日本仏教看護・ビハーラ学会 20周年 原点見つめ未来へ」、文化時報、[2024年7月2日] ⑤「命の尊さを味わう―神戸佛教連合会」、文化時報、[2024年12月17日] ⑥「神戸市佛教会 金子みすゞに深い仏教心」、週刊仏教タイムス、[2025年1月1日] ⑦「亡き人の愛情と共に 阪・神淡路大震災 30年」、本願寺新報、[2025年1月1日] ⑧「こんなつらい思いを他の誰にもさせたくない 被爆者・高蔵さんの証言」、文化時報、[2025年1月1日] ⑨「赤ちゃん思う数珠」、文化時報、[2025年1月17日] ⑩「臨床宗教師の現在と近未来」龍谷大学でシンポジウム」、本願寺新報、[2025年2月20日]
協力事業	2回	4回	①日本仏教看護・ビハーラ学会第20回年次大会 「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」 主催：日本仏教看護・ビハーラ学会第20回年次大会実行委員会 共催：龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 大会長：鍋島直樹氏（龍谷大学教授） 会場：龍谷大学大宮学舎 [2024年6月22日(土)～23日(日)] ②顕真アワー「自死を見つめて～死と大いなる慈悲～」 講師：鍋島直樹（龍谷大学文学部教授） 会場：龍谷大学大宮学舎本館2階講堂 主催：龍谷大学宗教部 [2024年10月2日(水)] ③本願寺神戸別院「釈尊成道会」 記念講演「金子みすゞの眼差し みんなちがって、みんないい」 講師：鍋島直樹（龍谷大学文学部教授） 主催：神戸市佛教連合会 [2024年12月8日(日)] ④日本臨床宗教師会理事会・フォローアップ研修 会場：大正大学7号館751教室 主催：日本臨床宗教師会 [2025年3月2日(日)～3日(月)]
ホームページにおける 成果公開	有	有	世界仏教文化研究センター、人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センターのホームページにおいて、研究目的、年間成果一覧表、特別講義やシンポジウムの成果報告をPDとRAが行った。また、世界仏教文化研究センターのFacebook、X（旧twitter）等のSNSにおいて各種事業の案内を行った。
研究展示	有	有	「みんなちがって、みんないい。童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～」[2024年6月5日～6月26日]

ジェンダーと宗教研究センター（GRRC） 2024年度研究活動一覧表

設定された成果	当初の目標	達成度	備考
研究展示	有	有	「みんなちがって、みんないい。童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～」[2024年6月5日～6月26日]（共同主催）
講演会	1	1	幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾「働く―ジェンダーと重圧・社会進出について―」[2024年11月26日]
ホームページにおける 成果公開	有	有	ジェンダーと宗教研究センターのホームページにおいて公開。

国際紛争解決班(グローバル・アフェアーズ研究センター(GARC))

2024 年度研究活動一覧表

設定された成果	当初の目標	達成度	備考
研究会	1 回	1 回	林佩瑩 氏 (国立政治大学宗教学大学院 (台湾)・准教授)「大乘仏教の国際関係論: 日本の事例からの考察」[2024 年 6 月 21 日 (金)]
特別講義	1 回	1 回	石之瑜 教授新書発表会「Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義に於ける関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見)」[2024 年 11 月 22 日 (金)]
成果物		1 件	国際学術誌『Third World Quarterly』特集号「Political Healing in East Asian International Relations」の刊行 【掲載論文 (研究員のみ記載)】 陳慶昌、他共著 <i>Political healing in East Asian international relations: what, why and how</i> 清水耕介・野呂靖共著 <i>Political healing and Mahāyāna Buddhist medicine: a critical engagement with contemporary international relations</i> 山本アンドレイ <i>Conflict as imbalance: political healing of and through emotions in Korea</i> 陳慶昌、他共著 <i>Embodying the state differently in a Westphalian world: an ontological exit for the Diaoyu/Senkaku Islands dispute</i> 陳慶昌、他共著 <i>Rethinking China-Taiwan relations as a yin-yang imbalance: political healing by Taiwanese Buddhist organisations</i>

社会的孤立回復支援センター 2024 年度研究活動一覧表

設定された成果	当初の目標	達成度	備考
シンポジウム	1 回	1 回	「システム論から考えるスクールカウンセリング」[2025 年 3 月 23 日 (日)]

主要研究活動概要

❖ 傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」 ❖

~~~~~

❖ グリーフケア講座 ❖

|      |                                         |
|------|-----------------------------------------|
| テーマ  | 傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」                 |
| 開催日時 | 2023 年 7 月 9 日（火）15:15～16:45            |
| 開催場所 | 大宮学舎西翼 2 階大会議室                          |
| 講 師  | 金田諦應（カフェデモンク主宰）                         |
| 司 会  | 鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）                         |
| 主 催  | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープンリサーチセンター |
| 参加人数 | 15 名                                    |

【開催概要】



2024 年 7 月 9 日（火）15:15 より、本学大宮学舎西翼 2 階大会議室において、グリーフケア講座「傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」」が開催された。講師はカフェデモンク主宰である金田諦應氏がつとめられた。カフェデモンクは、東日本大震災における復興支援の最中に生まれる。国境なき医師団が撤退しようとして

いるときだった、人々は帰らないでほしいと必死に引き留めていた。その時、金田氏は、「僧侶はここまで必要とされているだろうか」と感じ、「僧侶」が被災地を巡回しながら人びとの「文句」を聴くカフェ「カフェデモンク」を始める着想を得た。

石巻市・気仙沼市・南三陸町がカフェデモンクの主な活動地域であった。実は、震災の犠牲者の 3 分の 2 が南三陸町であったことを後に知ることになる。カフェにはスピリチュアルペインに関する問い「何故私だけが助かったのか」「助けることができなかった私はどうすればいいのか」が飛び交った。答えが見つからない問いに、当初は金田氏も逃げ出したくなったという。しかし、答えを用意するのではなく、答えが落ちるのを待つのが

傾聴のコツであり、「人は必ず立ち上がる（レジリエンス）」と金田氏は述べられる。経験談として2歳の息子を震災で亡くし、スピリチュアルの悲しみに苦しんでいた母親からの問いについて話された。

母親は金田氏に「息子はどこにいるの？」と問う。長い沈黙のあと金田氏は「どこにいて欲しい」とたずねる。再び長い沈黙のあと、「光があふれ、お花が沢山咲いている場所」と答えた。この会話が交わされる間は、実に1時間であったという。「沈黙」を待つことも傾聴活動では大切であるという。それは、こちらから答えを用意しないことが傾聴であるからである。そして2年後に再会した際、母親は「与えられた命を、大切に生きる」、6年後には「私の経験を語りたい」と言うようになっていったという。傾聴を続けることで少しずつではあるが、母親は立ち上がっていった（レジリエンス）という。すなわち人は話を聴いてもらうことで、心が和らぐ・安心感が得られるのである。「聴く」ということを深めていかなければならない。ただし、相手が話しはじめるまでじっと待つ根気強さも必要である。



金田諦應氏



司会の鍋島直樹本学教授

また、傾聴とはナラティブアプローチ、すなわち相手の語る物語を全て受け入れ共感することだという。ゆえに傾聴は善悪の価値判断をしたり、自分の価値観（信仰）から話すのでもなく、無条件に相手の物語を受け入れる事が大切である。例えば自殺念慮を抱く男性に「地獄に落ちる」や「極楽に生まれる」などの一般的価値観を伝えることはあまり意味がなく、自殺希念に至

る心の道筋に慈悲（愛）をもって向き合い、共感し、共に歩んでゆく姿勢が大切であると金田氏は自身の経験則を通して述べられた。

また、傾聴には場をほぐす力も必要（遊び心・無防備・自己距離化）と金田氏はいう。その意味で臨床宗教師は「ケアアーティスト」と称してもいいという。それは傾聴を通してモノクロームの世界に色付ける存在であるという自身の気づきに基づくという。厳しい場所であるからこそ場を彩るユーモアが必要なのである。そこにはケアする側、され

❖ 傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」 ❖

る側が互いに響きあう色即是空の世界が広がると金田氏は振り返る。

以上のように、「傾聴」を行う際には、相手の言葉や言葉の裏側に潜む感情に共感すること、自身の価値観からの答えを提示しないこと、相手から言葉が自然に落ちてくるのをじっと待ち、程よい距離と熱量で相手の語りを聴き続け、苦しみに向き合い続ける姿勢が大切であると総括し、講座は結ばれた。



記念写真

(文責：P D 西村慶哉)

Cafe de Monk

初めに・・・

NHK：東北発未来塾



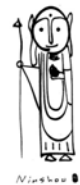
Cafe de Monk

令和6年7月9日 龍谷大学実践真宗学講座

# 傾聴のコツ



否定せず  
遮らず  
拒まず



カフェデモンク主宰 金田 諦應

Cafe de Monk

## 明鏡止水



Cafe de Monk

引き寄せあう力

花無心招蝶 蝶無心尋花  
花開時蝶来 蝶来時花開  
吾亦不知人 人亦不知吾  
不知従帝則

花無心にして蝶を招き  
蝶無心にして花を尋ぬ  
花開く時 蝶来たり  
蝶来る時 花開く  
吾も亦 人を知らず  
人も亦 吾を知らず  
知らずとも 帝則に従う

Cafe de Monk

## 臨床宗教師の傾聴

- ◎ 臨床宗教師の傾聴を支えるスキルはそれぞれの信仰によって培われた成熟度がその基底部分を支える
- ◎ 臨床宗教師の傾聴は、現場から立ち上がる「言葉」「出来事」と、己が信仰(教義)とを厳しく対峙させ、無限に循環させるところに成立する。
- ◎ 臨床宗教師の傾聴スキルは、積み重ねることではなく、むしろ削ぎ落していく過程で熟成される。そして削ぎ落してもその場に凍として立ち続ける事が出来る力、その力が傾聴活動を支え続ける。

Cafe de Monk

## 臨床宗教師の傾聴

- 結果を求めているのではない
- 結果に満足してはならない
- 達成感という言葉は存在しない
- 下心の排除

風の如く来り 風の如く去る

花一輪咲けばいい

放下遊化

十牛圖  
入聲垂手



横山大観  
無我童子

没蹤跡

捨

Cafe de Monk

崩壊と再生(復活)  
2011年3月11日  
震災当夜の出来事



2011年3月12日 日の出 南三陸町

揺れが収まり、津波が去った被災地に降る無情の雪。そして美しく輝く星空。三陸海岸に浮かぶ無数の遺体。宇宙は「生と死」を包み込む。

私たちの存在を越えた宇宙の哲理を感じる自己と、星空の下に浮かぶ無数の死体、そして人々の慟哭に引き寄せられる自己があった。あの時の私の中には宇宙の冷徹な哲理と慈悲が同時に存在していた。

Cafe de Monk



活動の始まり 火葬場就経ボランティア 栗原市斎苑

破壊され凍り付いた心 凍り付いた時空

49日追悼行脚 教理・教義の崩壊 Cafe de Monk



戸倉海岸の瓦礫の中

遺体とヘドロの匂い。お師の声は叫びになり、教師は歌う讃美歌がみつからない。神仏の姿を見失ってしまふ。追悼行脚では、學んできた教義教理が崩れていく感覚に震われた。この状況をどのように理解し、向き合えばいいのか。大衆宗教の中核をなす中核では、すべての運動は虚妄であると聞く。ならばこの現実も虚妄なのか。虚妄なのに信じている自分がいる。この観の意味は何なのだ！神仏の姿を見失った時、私たちの歩みはそこから始まった。そして、現物を素手素足で歩いた。。「体制的な宗教のきまり事」に従って活動するのではない。教団と教義は更新され続けなければならない。その時、宗教は世界の最前線にグループ（組織）し始める。

Cafe de Monk

傾聴移動喫茶  
Cafe de Monk  
の始まり



破壊され、凍り付いた時間と空間を再び繋ぎ合わせ共に未来への物語を紡ぐ

「Cafe de Monk」はお坊さんが運営する喫茶店です。  
Monkは英語でお坊さんのこと。もとの平穏な日常に戻るには長い時間がかかると思います。  
「文句」のひとつも言いながら、ちょっとひと息つきませんか？  
お坊さんもあなたの「文句」を聴きながら、一緒に「悶苦」します。

カフェのBGM:セルニアス・モンクのjazz



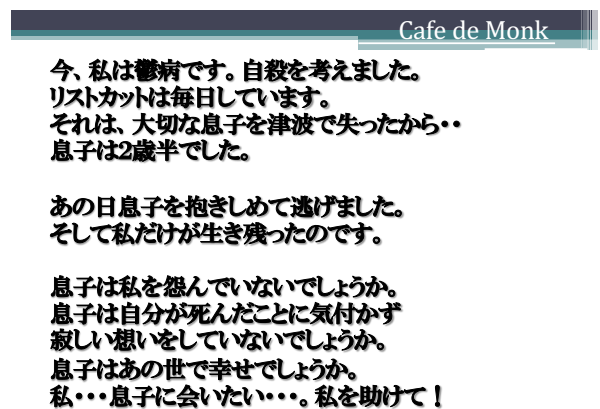
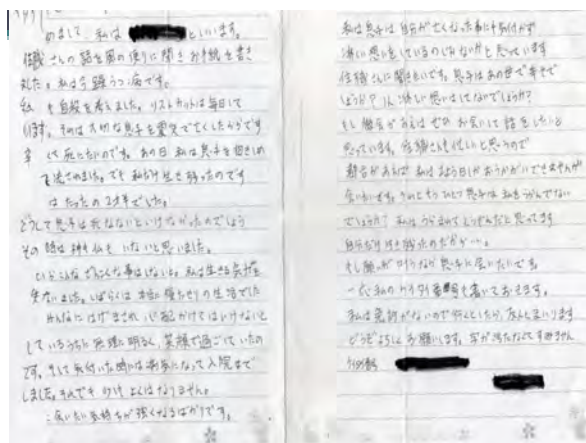
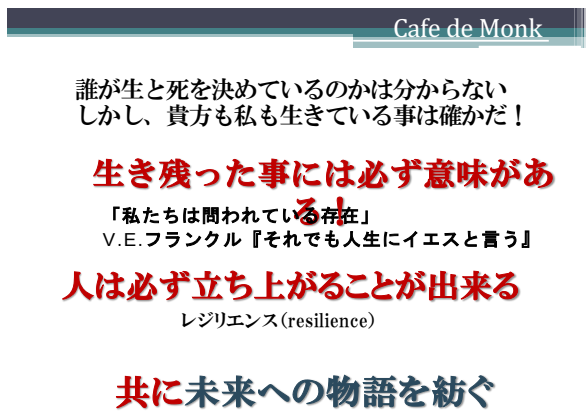
Cafe de Monk

|       |         |      |        |
|-------|---------|------|--------|
| 死者    | 15,884人 | 石巻市  | 3,961人 |
| 行方不明者 | 2,633人  | 気仙沼市 | 1,431人 |
| 震災関連死 | 1,407人  | 南三陸町 | 836人   |
|       | 19,924人 | 亶理町  | 288人   |
|       |         |      | 6,516人 |

◎ どうして俺、生き残って、孫が死んだ？  
◎ だれが生と死の境を決めてる？  
◎ 孫の遺体が見つからねえ  
◎ 助けることが出来なかった

あらゆる宗教的言語を拒絶する妻み

逃げ出した自分がいた



Cafe de Monk

母親との会  
話

長い沈黙

息子は今どこにいるの？

再び長い沈黙

お母さんだったらどこにいて欲し  
い？

再び長い沈黙

光があふれ、お花が沢山咲いている場所

沈黙 ヴィトゲンシュタイン：言語ゲームの終焉

Cafe de Monk

沈黙の会話

答えが落ちてくるのを  
じっと「待つ」

傾聴活動ではこちらから答えを用意しな  
い

Cafe de Monk

お母さん、光があふれ、お花が沢山咲いている場所  
にいて欲しい

光が溢れ、お花が沢山咲いている所にいて欲しい

Cafe de Monk

そして2年の歳月が流れる……

和尚さん、会って話したいことがある

Cafe de Monk

お母さんは海が見える緑の中に住んでいた

Cafe de Monk

小さな位牌の前には、お地蔵様が微笑んでい  
た

Cafe de Monk

私：今、どのような暮らしをしているの？  
母：あれから色々あって、今は大切な人と暮らしてる  
私：お母さんのこと、大切にしてくれてる？  
母：いや、めっちゃめちゃに、いじめられてる（笑）  
私：えっ？そりゃ大変だ！  
母：違うの、お前はね、心ばかり使うから鬱病になるんだって、  
身体を使えて、登山で鍛えられてる。  
私：へえ～そうなんだ。びっくりした。  
母：冬山にも登るんだ。雪の中じゃ、立ち止まったら死んでしまうの。  
だから、必死に登るんだ。だから、体力もついてきた。  
私：凄くない？  
母：それだね、この前、2000メートルの山に登ったの。とても辛かった・・・。  
でもね、とても不思議な事があったんだ。  
私：えっどんなこと？  
あと少しで頂上！っていう所で、ふっと後を振り返ったの。  
そしたらね、今まで登っていたんだけど、崖に隙間が出来て、  
その間から光が差し込んだの。光が当たった所に沢山のお花が咲いていて、  
「ああ～っ！ここだ！って。前に和尚さんに話した。  
お花が咲いて、光が溢れている所って、ここだ！」  
「ここに息子がいるって！」  
「私が死んだら、この風景も見ることができない。  
そしたら私、息子を二度死なせることになる。  
私、生きなくちゃ！息子と一緒に生きなくちゃって、そう思ったの・・・」

生と死は長い線で繋がっているのではないと思う  
生と死は裏と表。  
いつ裏返るか誰にも分からない。  
災難も、人ごとではないと思う。  
いつ降りかかるか誰も分からない。

◎ いまこの場所で、一生懸命生きる

◎ 与えられた命を、大切に生きる

意味の再構成 否定的な問題が自分にと  
って意味のある出来事へと変化する

Cafe de Monk

私の経験を語りたい



二歳半の命に新たな意味と価値が与えられる

Cafe de Monk

「傾聴」とは・・・

傾聴とは医療・看護・福祉等の対人援助職やコミュニティ  
(地域社会作り)・対人関係に必要なスキル

- 自分の聞きたいことを聞くのではなく、**相手  
が話したいこと、伝えたいこと**を、受容的・  
共感的な態度で真摯に“聴く”行為や技法
- それによって相手への理解を深めると同時に、  
相手も自分自身に対する理解を深め、**納得の  
いく判断や結論**に到達できるようサポートする

コンパッション コミュニティー  
慈愛に溢れた地域社会

Cafe de Monk

どうして人は話を聴いてもらうだけで元気になれるのか？

人間には本来「自己再生能力」（立ち上がる力）  
を持っている **レジリエンス** 海の再生・復活 虎徹の母

- 悩みの原因や、これまでの経過などを**整理**
- 話を論理立てて、順序よく伝える工夫
- 自分の境遇に**共感・伴走**してくれる安心感

自分の悩み事を客観的に見つめることが  
でき、解決策の第一歩が見えてくる

意味の再構成 否定的な問題が自分にと  
って意味のある出来事へと変化する

相手が語り始めるまで根気強い傾聴が必要



Cafe de Monk

「聞く」と「聴く」の関係



「聞く」 ← 「聴く」

相手の様々な情報を得る  
\* 家族関係  
\* 仕事の内容  
\* 経済的背景 等々

\* その情報を使い相手の過去現在未来の物語を描き出す  
\* 人間を総合的にみる

コミュニケーション(対話)とは情報を渡し合う行為ではない  
様々な情報を「聞く」、その人を包括的に「聴く」「観る」「感じる」こと、全感覚・全神経をフル回転させ、イメージする。

Don't think. FEEL!

Don't think. feel ! It's like a finger  
pointing away to the moon. Don't  
concentrate on the finger, or you will miss  
all the heavenly glory.

Cafe de Monk

傾聴とは相手の人生の物語を全て  
受け入れ共感すること

ナラティブ・アプローチ

相手の語り(物語)を通して解決に導く方法

エビデンス・ベースト・メディスン  
(データや検査に基づく医療)

ナラティブ・ベースト・メディスン  
(病状や人生への「語り」を大切に医療)

例：風邪を引いたおばあちゃん  
：パソコン3分間診療

「病状に対するストーリー」によく耳を傾けて、患者の考えや不安に共感してあげることが必要。その上にデータや検査に基づく医療を提供する(ナラ-エビ)

Dogma-based Religion

(教義に基づく宗教)

Narrative-based Religion

(物語と対話に基づく宗教)



Cafe de Monk

相手の語りを「受け入れる」難しさ

傾聴は全てをそのまま受け入れる事から始まる

唯識：遍計所執性

これまでの人生経験→フレーム【我見】  
私たちは知らず知らずのうちに自分のフレームに当  
てはめて他者を理解してしまう癖がある



傾聴は自分と世界への眼差しを問い  
続ける事で深まっていく

フレームを、他者の語る物語によってしなやかに変化させていく

インプロビゼーション (improvisation)

例：被災地の幽霊話 (憑依した魂)

Cafe de Monk

傾聴とは自分自身をもっとよく知るこ  
と

自分の思考のクセを客観視する

自分の信念・価値観を客観化する→生履歴の記述

グリーンケアやスピリチュアルケアの専門訓練

会話を記録する → 「傾聴力」を高め、自分の思考のクセを知る  
会話記録の検討する → 仲間同士が検討し合い、第三者の見方を学び  
お互いの傾聴能力を高める

あらゆる宗教の人間観・世界観の学び  
宗教者としての経験・実践

唯識三年 倶舎八年



傾聴とは相手を映し出す「鏡」になること

視野狭窄

- 人は苦しんでいるとき、悲しんでいるとき、それを解決するのにどこから手をつけたらいいかわからなくなる
- 優先順位、思考が堂々巡りし、客観視することが出来ない

自己防衛本能

心が凍りつき、固まってしまった人は、自分の苦悩に  
気づかない、気づく事に躊躇していることがある

- 溢れ出した断片的な言葉を自分自身で拾って話をつなぎ合わせる  
それは、〇〇だから、苦しいんですね  
「それは、〇〇ということが、悲しいんですね」といっ  
たように代弁してあげる。  
「自分は苦しんでいるんだ」「自分は悲しいんだ」と気づ  
くことができる。

聴く側の人は、自分の価値観を一旦脇に置き、できるだけ  
透明になって、話している相手をそのまま映す鏡になる



Cafe de Monk

傾聴は、善・悪の価値判断をする場でない

物事の判断→一般的価値観と自分の価値観をすり合わせる

一般的な価値観とは、多くの人が共有している最大  
公約数的なもの(地域の価値観)

自死念慮を抱く男性の相談

皆さんだったらどう答えますか?

相談者：死にたいくらい辛いんです。

会 員：みんな辛い中、生活しているんですよ。

駄目ですよ、そんな事考えたら。

相談者：自殺はいけない事ですか

会 員：いいませんよ。ご両親も悲しみます、地  
獄に堕ちますよ

それし会話は自己逃避

励まし会話・安請け合い会話

一般論・価値観の押しつけ会話

開かれた会話、閉ざされた会話

辛い 共感 私の気持ち



Cafe de Monk

傾聴は慈悲(愛)の心が全て

慈悲は厳しい言葉

慈→一切に他を想う気持ち  
悲→どうにもならない現実

逃げ出したくなる自分との対話(戦い)  
そこに踏みとどまる力 耐性が求められる

悲しみ、苦しみに共感し、その場に踏み止まる姿勢が「慈  
悲」

時に慈悲・愛は暴走す  
る

- \* 全体を俯瞰する視線(スピリチュアルセンシティブ)
- \* 遠く宇宙の彼方から注がれる視線(賢治の視線)

知慧によってコントロールされた慈悲がケアの場を開いてい  
く

慈と悲：自己矛盾→宗教者を突き動かすエネルギー



Cafe de Monk

暴走する慈悲 位相の異なる慈悲

被災地三度目のクリスマス。この頃から少しずつ光が失われ、闇が深まっていくように、自分自身の心と体に変化が現れ始める。

思考が前に向かない。焦れば焦る程心が不安定になる。倦怠感が体中に広がる。「鬱」…一瞬その言葉が耳に浮かんできた。

季節は確実に春に向っていった。大地には少しずつ光が戻り、そして萌え始めてきた。その頃からまるで嘘のように体に力が湧いてくる。一体この力は何処から来るのだろうか。何か私を越えた大きな力にもよおされている感覚だった。それを**神の使命**と云ってもいい、**弥陀の本願**と云ってもいい、そういう力がストンと落ちてきた。それは一周忌行脚の時、海岸を吹き抜ける再生の風の中で**超人の生死**を感じ取った、あの時と同じ感覚だった。そして闇を潜り抜け、光にもよおされて復活した自分がいた。

闇から抜け出したその頃から私たちの活動から**力みが抜け**、まるで**観世音菩薩が進化**するかの如く飄々とした活動に変化していく。

自力の慈悲 ← 他力の慈悲

Cafe de Monk

参考資料

耐性力=自己を保つスキル

生活の全てが**継続**を完成させるためにあらわなければならない

- \* 自己の身心を整える
- \* 環境を整える (半径20メートルの平穩)
- \* 場を整える為の徹底した準備

戒律

切に他を想う心 (慈悲・愛) は「戒律」となって心の底から湧き上がる

Cafe de Monk

傾聴に必要な場を開く力

(傾聴空間を作るスキル)

大乘空観哲学 “空”

\* 時間・空間の固定化を排除する限りない開放性あらゆる時間・空間を引き寄せる寛容性

- 禅堂 被災地に禅堂を建てる  
(瓦礫の中→避難所→仮設集会所→復興住宅)
- 維摩の**方丈** (維摩経)

時間・空間等の概念の固定化を排除する限りないイメージ力

Cafe de Monk

参考資料

傾聴活動は「自他」の境界線を越える作業である

カフェデモンクという傾聴空間は、被災地瓦礫の中に立つ「禅堂」だった。修行僧は、前にも曲まらず、後ろにもあえがず、左右にもふれず、天と地を貫いて坐す。傾聴姿勢は坐禅そのものである。**入る者を拒まず、去る者を追わない鏡の様な心**。苦悩を抱えたものはその鏡に自己を投影し、苦悩の意味を知る。意味は自己展開しそしてそれぞれの物語が紡がれていく。

大慈大悲の禅。そもそも修行は自己の問題から発するものではない。切に他を想う動機から修行は始まる。他を想う心は同時に自己に向かう心になる。そうして、自己と他己は循環しつづける。自他不二は観祿を繰り返しながら永遠に循環する。循環し始める時、固まった時空はほぐされ、それぞれの物語が動き出す。

Cafe de Monk

参考資料

闇から光へ 3度目のクリスマス



ラジオカフェデモンク  
2011年10月～2012年9月  
2013年4月～2014年4月

日野原重明先生に出演して頂いたラジオカフェデモンク収録の後、雑談で話を思い出した。

「100歳を過ぎてまだやらなければならないことがあるとお聞きしました。先生の手帳にはこの先20年程の予定が書かれていると聞いています。お疲れになりませんか」

少し時間をおき、微笑みながらこうお答えになった事を思い出す。

「金田さん、私の仕事を私の仕事としていたら**疲れますが**、これらの仕事は神様から与えられた**使命**なのです。私は**神様の道具**に過ぎません。道具は使えなくなったら終わり。そしてその時は神様に召される時なのです。ですから**決して疲れない**のです。」

Cafe de Monk

参考資料

鎌田龍雄師の言葉

彼らには**空の世界**を与うるべきであろう。だから、彼ら死刑囚に接し、いやくも、教誨をしようとする者が、彼らの前に、偉大な空間を展開し得なかったなれば、到底、教誨の目的は達せられないのだと思う P153

邪念を持っていたのでは、彼らの前に、堂々と坐ったとき、兄弟たちは、その空気に圧倒されて、慰められるどころか、反対に、ゴタゴタとした心境に苦しめられて来るだろう。だから、宗教者は、これらの妄念を去った**空間の心境**を、彼らの前に展開するのでなければ、到底、教誨の目的は達せられないのだと思う

堀川恵子「教誨師」 P154～P155

Cafe de Monk

傾聴に必要な場をほぐす力

- 「真面目な軽ろみ」 遊び心
- 「暇げ」なたたずまい 無防備
- ちょっと高い所からの視点 自己距離化

臨床宗教師はケアアーティスト

厳しい場所こそユーモアが必要である。少し高い所から、全体を見る感性と視点。そこからそれぞれが置かれている状態を笑いに変える。人はその笑いの中から生きる力を得る事が出来る。ユーモアは愛の即興アート。共に悲しみと喜びの境界線ギリギリまで降り、そこから表現される神の言葉、仏の言葉。ユーモアは切に他を想う心、愛の心で貫かれなければならない。一瞬に開かれる未来への物語。ほぐしほぐされる時、そこにはケアする者、ケアされる者の区別はない。互いに響き合う「色即是空 空即是色」の世界が立ち上がる。

Cafe de Monk

「暇げで、軽みな佇まい」が人の心を開く

悲しみを引き寄せる力  
やる気満々の人に人は寄りつかない

そこにいることが特別ではなく、何か昔からずっとそこにいたような、空気のような存在。思わず話してしまうような雰囲気

専門職の下心  
費用対効果

心のケアお断り



Cafe de Monk

参考資料

篠田龍雄師の言葉

だが、この時の私のボンヤリ姿は、非常に彼らに好感を与え、死刑囚と教誨者としての私との両者の隔たりを、空けてしまっ、いよいよ兄弟間を深めたようである。こんなところに、仏教で云う「空じる」と云う空観哲学の価値があるのだと思った

P155

堀川恵子「教誨師」

Cafe de Monk

ガンジー和尚の傾聴のコツ

- ◎ 相手が「答え」を出すまでひたすら待つ  
答えがすぐ近くに見える場合もある。しかし、傾聴活動では答えは出さない
- ◎ 別問ではない  
引き出すのではない、溢れるもの溢れる言葉を受けとめる
- ◎ 上手なうなずきは人の心を動かす  
百通りのうなずきは、話を引き出す力。ワザとらしいうなずきに注意
- ◎ 言葉の裏を読む 通りに受け取ってはいけない時  
沢山のさみしさを溢れた「さみしくね」言葉の先、唇を読む
- ◎ 「方言」という重要なことば  
方言には、独特の文法、間がある。感情表現・感情表出



Cafe de Monk

共感疲労を防ぐ為には

- ① 「解決策」は必ずしも要らない  
沢山の人の関わりの中で解決は見付け出される(仏典の物語)
- ② あせって「結果」を求めない  
傾聴→伴走→自立には長い時間がかかる  
適当な間隔を考える時間を与える 関わり続ける事
- ③ 伴走はするけど、背負わない(自分の役割と限界を知る)  
視覚障害マラソンランナーの伴走者
- ④ 自分にも「話を聴いてくれる人」を持つ  
振り返り スーパーバイザー 仲間
- ⑤ 逃げ場所、放し場所を出来るだけ多く確保する  
趣味等々 温泉 折り →心のクランクチェック!

Cafe de Monk

ご静聴有り難う  
ございました



ケアアーティスト ガンジー-金田

## 資料編

## 參考資料

## ある人の物語

被流獄が三年に上るに及び春の日、東北大学で宗教学の著名な研究者・宗教学者を集めたシンポジウムが開かれた。壇上には日本を代表する宗教学者山崎昭博氏、井沢真作氏（東京大学）、大阪大学文学部部長、国学院大学黒川照生氏等、そして被流者ら活動することの御披露のメンバー川上直哉博士、私もその水席に就いた。壇上に並びつて、会場からの質問に一人一人、答へた来た者の男性が皆驚かすかも知れず、どうやら普通科の生徒と何年かお悪く候へてゐたらしい。しかし私の定年たる60歳は、壇上では「若さ」の代名詞となつてゐた。壇上から「若さ」といふ言葉を聞かされたのは、久しぶりで「今はこの夜を宗家の力で乗り切ろう！」と思つて居たところであつた。会が終わつたら、直ぐここをステッカーから取り、彼の人に駆け寄り、もう少し話を聞かせて欲しいと思つた面影を懐かし。

彼は石巻市港に住まひてゐる。津波で家を失つた。その後、再び同じく女性と恋を交はれた。離別した後に、病院の入退院を繰り返して、自殺未遂を企てたこともあった。

「君が今の生活を楽しんで居るとすれば、それ以後、後継者としてカフサを関与することを。それから彼との『有角の肉を喰ふ』が楽しみだ。」

彼を年が暮れた日、カエに一人の女を伴って来た。何処に聞いてみると新しい彼女とい事だった。彼女の男は普通で可愛かった。

「本当は遠く岡山から来たものかもしれないが、今まで近所の宗廟の方の陰に隠れていた。本日に感謝して。で、最後に俺を救ったのはこの女だ」

彼女とは以前勤めていた酒造で一緒に働いていた彼女で、退職後、交流はなかった。黒澤明監督の「生きる」から上映された舞台の演劇で偶然出会った。照れがなかった彼女は、穏やかな女で、男の心をつかまなかった。何故か彼ももしたくない。それでいいのだ。

「俺は、彼女と結婚して、彼女と手を取り、成長の道へ歩んで来た。それでは、それぞれの物語が立ち上がるまで、一緒に歩む。彼女が同行先が引き返る時の長い時間共に共に歩んで来た。それだ。」

## 參考資料

涙の老女たち

[illegible]

その数段住宅の空間には様々な出来事が現在した。下ネタで命の高より戸惑い悩まされながら育る気たち。柏木先生。そして先生を  
通していきよきとチーケン先生の言葉。チーケン先生の言葉はモノマの胸で響く。そればかりでなく。先生の胸に伝わる

ファウゼンモックは**解放と寛容の空間**。そこには様々な人々が登場し、それぞれの役割を演ずる。  
大衆劇場は曲線に**濃厚**である。舞台が千手千眼と三蔵法師の一つ。この紙張は下り柱に立って展開していく。小衆と大衆の違いを説明するに足る。劇場界土曜にはヨーロッパ地方（方面）を弄して、大衆の心をつかむのである。

「我々がなすものに寄与せよ」大衆劇場の基本となるべき言葉を擧げ、「**権限の一説**」で大衆劇場の組織的発展計画を見出さずには。  
紙張から出ていくのは**空想の園地化の物語**である。園地から**解放された空間**に人々や動物が生きていないイマジナリで**意識し役割を演じた**として消えていくのだ。イメージは常に両面性をもちつつ、一つの壁めきの内にその存在を示す。インド風異質は時空の固定化を拒絶すると述べていくのだ。

## 參考資料

**臨床宗教師**

- ◎ 社会で起るあらゆる出来事を整理・理解出来る人
  - ◎ その出来事から起つてくる人間の喜怒哀楽をイメージ出来る人
  - ◎ その喜怒哀楽から起つてくる人間の心の動きに対処できる人
  - ◎ あらゆる土地の歴史・精神土壌・信仰・言語を理解できる人
  - ◎ あらゆる宗教・信仰の有り様に通じている人
  - ◎ あらゆる儀式とその意味について理解し、そして行える人
  - ◎ 他者の価値観から物事を考えられる人
  - ◎ 他者が語る物語に感心し、耳を傾ける人
  - ◎ 他者の価値観から解決への橋頭を築ける人
  - ◎ 自己の信仰に基づき、自己の身体、心の維持についてストイックな人
  - ◎ 自己と他者の境界線が曖昧なく透明な人
  - ◎ 自分自身で現像を見つめる能力を持てる人
  - ◎ 感心を引き寄せる力を持っている人
  - ◎ 風のように流れ、風のように去るその痕跡を残さない人
  - ◎ いとも腹立たずに行っている人
  - ◎ あらゆる業種との間で共同・協調作業が出来る人
  - ◎ 遙か遠い宇宙の彼方から視点を持っている人
  - ◎ 限らない人間と共存が出来る人
- そういふ人に依頼がたい

## 參考資料

現場から立ち上がる言葉（出来事）の一つ一つに注意深く向き合い、その中から真理を読み取る。迷い悲しみの中にこそ真理はあるのだ。私たちには「現場から感じ取り、現場から創造する能力」が求められたのである。悟りや救いを饒舌に説く事は宗教・宗派の自己満足になっても、一人一人の救いにはならない。宗教・宗派的な文脈で語られる「救い」ではなく、その人の物語の文脈で語られる「救い」が自然に落ちてくるまでじっと待つ、これが現場を歩く宗教者に求められた「佇まい」であり「耐性」なのだ。

言葉＝出来事

## ケセン語の聖書

## 參考資料

## 死者と生者を繋ぐ力

**用精** Transitional Object **生と死を繋ぐツール**

○ ○ ○ 明確な教道に裏付けはない  
その土壌の風土から生まれたもの  
それを道して別次元にアクセスす  
る



被災地における霊的現象と心のケア



儀式の力



Cafe de Monk

参考資料

死者と生者を繋ぐ  
帰ってきた願いあなた

カフェデモンクには心の奥底にある様々な想いを引き出す役者達がいます。お地蔵様はその一人だ。地元の童元さんに協力を頂いて手のひら地蔵を作った。「津波で大切な人を亡くした方に差し上げます」とメッセージを添えて集会所の片隅にそっと並べる。お地蔵様の優しい微笑みの前に佇む人。やがて亡き人への切ない想いを語り出す。そしてみんなでの手のひらを添え、亡き人に想いを込める。涙顔はやがて笑顔になり、ほんの少し前に向かって歩く事が出来る。

やがてお地蔵様は集会所で作るようになった。そんなある日、南三陸町で夫を亡くした女性がやって来た。旦那様に似た少し太めのお地蔵様を作る。「和尚さん、私の夫は眼鏡をしていたの。だから眼鏡刻んで頂戴」ふくらした顔に眼鏡を刻む。出来上がった地蔵様をじっと見つめ、少しの沈黙。そして呼び出す「なんで、なんで逃げなかったの！あと少し上に登ったら助かったのに。あなたはいつも人の事はばかり考えて、私の事も考えて頂戴！」長い間心の奥に貯まっていた言葉が喉を切ったように溢れ出す。「あちらの世界に行こうかと何度も思った、でも残された子供達の事を考えると出来なかった・・・」

一ヶ月後、焼き上がったお地蔵さんを届ける。眼鏡の奥にはにっこりと笑う優しい目があった。「ほんとに貴方はおバカさんなんだから！」すねた語り口で吹き、そして微笑みを返す。新しい家族の物語が始まった瞬間だ。

Cafe de Monk

参考資料

儀式のチカラ

被災地における霊的現象と心のケア  
死者と生者を繋ぐ物語



Cafe de Monk

参考資料

あらゆる宗教的感情への対

- \* 風土が他動的状況になったとき、あらゆる宗教感情(アニミズム ~悟りの宗教)がインドラの箱を開けた様に解き放たれる

- \* 震災などの予測不可能な環境では、今まで隠されていた人間の感知能力が高ダイナミックレン

宗教者としての幅広さと奥深さが要求される  
現場から感じ取り、現場から創造

Dogma-based Religion (教義に基づく宗教)

Narrative-based Religion (物語と対話に基づく宗教)

Cafe de Monk

参考資料

◎ 憑依現象の始まり 2012年6月~2013年2月

「自他不二」「境界線が透明になっていく感覚」  
傾聴活動がピークに達した頃の研ぎ澄まされた感覚

自殺したい・・・

「自殺したい、沢山の亡くなった人が身体に入ってくる、自殺したい」と振り絞るような声で電話がある。緊急性を感じ来寺を勧める。1時間程して婚約者、母、妹に引きずられるようにやって来る。〇〇市在住。今回の地震での目立つ被害はない。被災地を訪問したこともない。介護職として働いていたが、2012年6月頃から憑依が始まり、勤務不能となる。お寺にはごく希にはあるが同じような症状を訴える方が来る。その経験から彼女の背景を探る。

Cafe de Monk

参考資料

憑依例(震災犠牲者)

娘を迎えにいかなくちゃ

「わかな~わかな~は何処だ！」津波発生を知らされた後、妻とメールで娘を小学校に迎えに行く相談。「渋滞で動きがとれない」「それなら俺がいく」。危険を覚悟で海岸通りを走る。途中で津波に巻き込まれ、暗闇に落ちる。「娘は何処だ！娘を迎えに行かなくちゃ」「苦しいのか？お前は今何処にいる？」「わからない。暗い。俺は死んでいるのか？」  
「お前は死んでいる」「俺は死んでいるのか？津波で死んだのか？何人死んだ？」「二万人近く死んだ」「そんなに死んだのか！」そのような会話が2時間近く続く。「光が見えるか？光に向かって進みなさい」「見えない、瓦礫と死体で光が見えない」やがて死を受け入れ本堂へと向かう。しかし儀式の最中も男は娘への想いを訴え続ける。その都度儀式を中断し、男に語り続ける。「光を想え！」儀式が終わり、焼香をした瞬間、彼女の憑依状態は解ける。この様な状況で逝ってしまった人が沢山いたことを思う。

Cafe de Monk

参考資料

◎ 対処方法 (事前説明)

- \* 傾聴 ◎ 最長7時(膨大なエネルギーの消費)  
◎ 途切れ途切れの言葉を集める
- \* 儀式 施食会(施餓鬼会)



Cafe de Monk

参考資料

\* 施食会（施餓鬼会）

- ◎ 死者供養の一つとして定着している
- ◎ お盆の行事と併修
- ◎ 呪術性の高い経文（真言）
- ◎ 加持祈禱性（結印）
- ◎ 音楽性がある
- ◎ 自然災害・戦争等の犠牲者
- ◎ 不特定の死者にたいする供養
- ◎ 教義と民俗（土俗宗教）との集合

Cafe de Monk

参考資料

「甘露門」

「雲集鬼神招請陀羅尼」  
「破地獄門開咽喉陀羅尼」等の呪術性のある陀羅尼が詠まれる。そして最後は「諸仏光明真言灌頂陀羅尼」で終わる。

「あらゆる世界に住まう魂を諸佛に施しを与える。それらを転じて仏・法・僧の三宝に供養せよ。大いなる悟りへの道を導き、現世に禍を起す事なかれ」と促す。

Cafe de Monk

参考資料

キーワード

「暗闇から光を目指して進みなさい」と語りかける チベット死者の書

「諸仏光明真言灌頂陀羅尼」  
(オン・アボキヤ・ペイロシャノウ・マカボガラ・マニハンドマ・ジンバラ・ジンバラ・ハラバリ・タヤウン)

手の所作

手の平を広げ、五本の指端から五色の光明を出し、苦に生きる衆生を救うという所作

洒水(聖水)を撒水(きつすい)

「洒水が身体にかかった時は一瞬熱さを感じた。その時、和尚さんが引き上げ、自分は下から押し上げるようなイメージをもった」

儀式が終わり、仏前に焼香 憑依状態が解ける

Cafe de Monk

参考資料

基本姿勢

- ◎ 靈魂やあの世の存在については問題にしない。
- ◎ その経験がその人にとってどのような意味を持つかを問題にする。
- ◎ 徹底した頓轡（最長：8時間）
- ◎ 教理・教義の枠（フレーム）に入れない  
宗教が合理的になった？
- ◎ 信頼関係の構築（精神病を否定）

Cafe de Monk

参考資料

能の世界

死者と生者を繋ぐ物語

死者(幽霊)と諸国一見の僧



「自他不二」「境界線が透明になっていく感覚」研ぎ澄まされた感覚。  
「この人だったら大丈夫かもしれない」と思った「引き寄せられ、向き合い、そして同期・同調(シンクロニシティ)」していく。宗教儀式が媒介し、そして安定へと向かう。

Cafe de Monk

参考資料

◎ 津波の霊たちについて

2011年11月～2016年11月 約5年間取材  
リチャード・ロイド・バリー  
英「サ・タイムズ」紙アジア編集長および東京支局長。20年以上、東京に暮らす。1969年生まれ、英国・マージーサイド州出身。オックスフォード大学卒業。1995年に「インディペンデント」紙の特派員として来日。2002年より「タイムズ」紙へ。  
日本、朝鮮半島、東南アジアを主に担当。これまでにアフガニスタン、イラク、コンゴなど28カ国・地域を取材し、イラク戦争、北朝鮮危機、タイ・ミャンマーの政変、東日本大震災などを報じてきた。2005年には、インド洋大津波の取材と二重被爆者の故・山口重氏へのインタビューでBBC(英国放送協会)の番組の「今年の外国特派員賞」を受賞



Cafe de Monk

参考資料

初期の憑依例

福島県出身の22歳女性。仕事はスナック勤務（国分町）。両親は離婚。母に育てられる。仙台へ出て夜の仕事を。同じく夜の仕事をしている男性と交際。妊娠するが堕胎。その後、男性から売春を強要され、苦悩の末、自殺。最初母が供養していたが、母が再婚をし、弟が生まれてから供養が中断し寂しさと切なさを訴えて憑依する。

中期の憑依例

戦時中広島で戦死した海軍兵。船が攻撃を受け被爆。下半身を損傷する。戦友が海中より引き出す。その途中に再び攻撃。戦友は粉々に吹き飛ばされる。「私は帝国海軍〇〇であります。私のせいで戦友を死なせてしまいました！」とその自責の念を鬼気迫る声で訴えた。

（この頃より水に関係する方が憑依し始める）

Cafe de Monk

参考資料

不思議な少年「順哉」

順哉は高校生。水泳部に所属し毎朝「朝練」に向かう。その途中、交差点で車と接触し死亡。「両親は今でも俺の事を想ってくれて、供養もちゃんとしてくれてる。だけど、居心地がいやら彼女の中にいるんだ」と語る。「そろそろ出ていかなと想ってる。だけどさ、この子の中にはとんでもないのが住んでるよ。」

そして、彼女の中に居座る二人の男について語り出す。「白い袴をつけた男がいるよ。この人はそんなに邪悪じゃないと思う。でももっと深い所に鎧甲をつけた紫色をした武士がいるようだ。おれ関わるのは嫌だからそっとしてるんだ」

順哉は儀式を受ける際二個の塩おにぎりを供えるように語る。「朝練」に行く時、母が練習後に食べるように用意してくれたそう。そのおにぎりを食べないで遊ってしまったことが心残りと言う。儀式が終わり焼香する前におにぎりを食べる。「美味しい」と一言。憑依状態が解ける。不思議な少年だった。

Cafe de Monk

参考資料

後期の憑依例（震災犠牲者）

娘を迎えにいかなくちゃ

「わかな～わかな～は何処だ！」津波発生を知らされた後、妻とメールで娘を小学校に迎えに行く相談。「渋滞で動きがとれない」「それなら俺がいく」。危険を覚悟で海岸通りを走る。途中で津波に巻き込まれ、暗闇に落ちる。「娘は何処だ！娘を迎えに行かなくちゃ」「苦しいのか？お前は今何処にいる？」「わからない。暗い。俺は死んでいるのか？」「お前は死んでいる」「俺は死んでいるのか？津波で死んだのか？何人死んだ？」「二万人近く死んだ」「そんなに死んだのか！」「そのような会話が2時間近く続く。「光が見えるか？光に向かって進みなさい」「見えない。瓦礫と死体で光が見えない」やがて死を受け入れ本堂へと向かう。しかし儀式の最中も男は娘への想いを訴え続ける。その都度儀式を中断し、男に語り続ける。「光を想え！」儀式が終わり、焼香をした瞬間、彼女の憑依状態は解ける。この様な状況で遊ってしまった人が沢山いたことを思う。

Cafe de Monk

参考資料

お母さんごめんなさい

妻が母親役

「ごめんなさい、ごめんなさい、お母さんごめんなさい」「どうしたの？」「よっちゃんの手を離してしまった、おかあさんごめんなさい、怒らない？ねえ怒らない？」津波が来る。弟のよっちゃんと手を繋ぎ逃げる。しかし、途中で弟のよっちゃんの手を離してしまったという。死者が子供の場合、私の妻が「母」の役を担う。憑依した彼女の手を握り、母親役をするのだ。「ほらおかあさんが一緒だから大丈夫だよ。お母さん怒らないから、光の国へ一緒に行こう」やがて光の輪をくぐる直前「お母さん、もう僕大丈夫。僕もう一人でいけるから」と握っていた手を離す。妻の手は真っ赤に腫れ上がっていた。

NHKスペシャル・心の時代のプロデューサーが同席

Cafe de Monk

参考資料

走れない

「走れない！走れない！」若い女性の声。「どうして走れない？早く逃げて、津波が来るよ」「どうしても走れない」しばらくその様な問答が続く。小一時間程の会話。やっと走れない理由を語る。「走れない・・・だってお腹に赤ちゃんがいるんだもの」「この事は夫や両親は知っているの？」「知らない。両親に教えに行く途中だったの」と言っすすり泣く。すすり泣きはしばらく続く。やがて自分の死を受入儀式に臨み憑依が解ける。無念の想いが伝わった。

Cafe de Monk

参考資料

お母さん・・・お母さん

お母さん・・・お母さん・・・ 幼児が蚊の鳴くような声で母を呼ぶ。「僕、何処にいるの？」「わかんない」「僕名前は？」「わかんない」「僕は死んだんだよ」「死ぬってなに？よくわかんない」この幼児は瓦礫の中に一人取り残され、母の名前を呼びながら死んだらしい。妻が手を握り「お母さんと光が一杯の所に行こうね」と語りかける。儀式が終わり、憑依が解ける。妻の目には涙が溢れていた。

Cafe de Monk

参考資料

俺の帰る場所はどこだ

海岸近くで漁師をしていた老人。津波に巻き込まれる。おばあさん（妻）が一人残る。三陸海岸の方言で語る。「仮設にばあさんが一人で暮らしてる。玄関の靴櫃の上に白いロープが置いてある。ばあさんが心配だ。おらもう年だが死んでも悔いはねえ。んだげど、ばあさんにはもう少し生きて欲しい」「大丈夫、みんなで支えてるから心配しないで、あちらの世界で見守って」「もうすぐ盆が来るんだげど、おらどこさ帰ればいんだ？家流されるし、ばあさんの住んでる仮設住宅は知らねえし」「ちゃんと迎え火焚いてくれるがら大丈夫だ。その光目指して帰って来て。お寺でも大きな迎え火焚くから、目印に大きな迎え火焚くから」老人は納得して儀式に臨む。焼香後、憑依が解ける。

Cafe de Monk

参考資料

沈黙化 浪江からきた犬

「犬がまとわりついてきて騒がしい」「今その犬入ってるの？」「今はいいけど時々私の回りに来てキャンキャンと鳴くの」「どうする？中に入れる？」「犬にはなりたくない・・・」「じゃあやめよう」しばらくして「やっぱり入れる。和尚さん私暴れると思うからしっかりと押さえて。あとご飯にお水をかけお供えて頂戴」ちょうどその場に居合わせた方々に押さえてもらおう。「入れていいよ」しばらく犬の姿を探している様子。「あ、いた！」犬を見つけると同時に暴れ出す。押さえていた二人が飛ばされる。儀式が続く。やがて静かになり、憑依状態が解ける。福島県浪江町の老夫婦が飼っていた犬らしい。原発事故後、急いで避難。犬は繋ぎられたままになっていた。やがて餓死。白い防護服を着た人が来て死体を確認しその場を立ち去って行くのが見えたという。原発事故は山川草木、生きとし生けるもの全てを狂わせてしまった事を強く思った。この犬の憑依を境に彼女の状態は沈黙化していく。

東北大学文学部宗教学教員同席

Cafe de Monk

三陸海岸津波浄

破壊された海は再生を続け、人々は、苦しんだ果てに絞り出された珠玉の言葉を、それぞれの未来への物語に織り込みながら歩み始める。浄土とは遙か彼方にあるのではない。「地震・津波」「破壊と再生」。悲しみを背負った者同士、そして、その悲しみに共感する人々が共に未来への物語を創造していく場所。その「出来事」が立ち上がる場所にそ浄土なのだ。そこには「ケアされる人」「ケアする人」の区別はない。

自然は宗教を創り続け、人々の苦悩は宗教者を生成させる。宗教者には嵐がよく似合うのだ。そして嵐はいつも、そしてどこにでも吹き荒れている。

3 宗教・宗教者の役割と課題

⑤ 脱教団・超出教義



宗教の脱鎖進化 火を囲み、苦悩を共にする 臨床宗教師の試み

資料

焚き火を囲む宗教者達

この日の臨床宗教師実地研修は、石巻市大森仮設住宅集会所で行われた。東北の冬は寒い。特にこの仮設住宅は立地条件が悪い。かつては沼地だった場所に急ごしらえで建てられていた。北西の風が吹き抜け、冬を越す事は容易ではなかった。仏道は焚き火台に炭火をおこし、暖を取りながら活動を進めることにした。やがて一人の住人が、この炭火で焼く芋ではないか、と言い出した。私たちのカフェに焼芋という新しいメニューが加わるようになった。焼きたての芋は、洒落たケーキに増して悲しみを背負った人々の心をほぐした。研修当日、その焚き火台の周りには多くの宗教者が回った。仏教、キリスト教、そしてイスラム教。火をおこすもの、焼く芋を焼くもの、そして焼きたての芋を配るもの、誰が差配せずともそれぞれが役割を果たしていた。そこには人々の苦悩に向き合い、苦悶している宗教者の姿があった。炭の火は人類が初めて発見し、利用した火。そこから文明は起こり、温度の制御は文明のパロメーターになった。焼く芋は恐らく人類が最初に行った料理だろう。人々はその芋を分かち合い、命を繋げてきた。偉大な人類の旅はそうやって始まったのだ。200キロ彼方、福島第一原発では原子の埋火が燃り、ここでは炭火の温もりが人を癒し、焼く芋は疲れた人を慰める。私は研修生に語り掛けた。宗教者よ、現場を見ろ。苦しみ悲しみの現場を見ろ。現場から立ち上がる救済の言葉を届け！ここから絶対離れるな。ここから離れたら教団という悪い巨塔のしがらみに引き寄せられ、バラバラになるぞ。悪い議論をする事なかれ！火を起こし、火を保ち、この焼く芋を上手に焼くのではない！それが宗教者と宗教協働の真の姿なのだ。



## ❖ グリーフケア講座 ❖

|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| テーマ  | スピリチュアルケア                                 |
| 開催日時 | 2024 年 7 月 17 日（水）13:30～17:45             |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室                       |
| 講 師  | 谷山洋三（東北大学大学院文学研究科教授）                      |
| 司 会  | 森田敬史（龍谷大学文学部教授）・鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）           |
| 主 催  | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 参加人数 | 15 名                                      |

## 【開催概要】

2024 年 7 月 17 日（火）15:15 より、本学大宮学舎西翼 2 階大会議室において、グリーフケア講座「スピリチュアルケア」が開催された。座学として谷山洋三氏（東北大学大学院文学研究科教授）によるスピリチュアルケアをテーマとした講演が行われた後、受講者による非公開での会話記録検討会が行われた。

❖ グリーフケア講座 ❖

|      |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| テーマ  | ビハーラ活動—物語を紡ぐ—                                  |
| 開催日時 | 2024 年 12 月 11 日（水） 11:00～12:30                |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                             |
| 講 師  | 新堀慈心氏（あそかビハーラ病院緩和ケア看護課長、浄土真宗本願寺派僧侶）            |
| 主 催  | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 協 力  | 実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム                   |
| 参加人数 | 125 名                                          |

【開催概要】

2024 年 12 月 11 日 11:00 より本学大宮学舎東翼 101 教室において、特別講演「ビハーラ活動—物語を紡ぐ—」が開催された。講師の新堀氏はあそかビハーラ病院に看護師として従事されている。

■ 「他者」と「生老病死」



新堀慈心氏

病気には「治る病気」と「治らない病気」がある。「治らない病気」になっても生きていかないとはいけない。その苦しみに寄り添うには医療以外にも必要なものがあると新堀氏は考えるようになり、やがてあそかビハーラ病院と、その理念に出会った。現在、新堀氏は僧籍を取得し、大阪の寺院の住職もつとめている。

ビハーラには「我から我らへ」という言葉が重要であるという。仏教が大乗仏教へと展開したように、「他者」の存在を等閑視できない、他者を他者として「放って置けない」のである。また、仏教の思想基盤の一つである「生老病死」も大切にしなければならない。ビハーラでは「生老病死」すべてに向き合っていかなければならない。

## ■ビハーラ病院の診療理念

あそかビハーラ病院の診療理念は、「願われないのちをともに生きるひとときに仏のお慈悲に照らされたぬくもりとおかげさまの心で安らぎの医療を実践します」である。一度、内容が難解だということから理念が変更された時期もあったが、経営権が譲渡される際にもとの理念へと戻した。難解かもしれないが、それほど大切な理念であると新堀氏はいふ。

この理念は、誰のことも「健康にする」とは明記されていない。私たちが他者を元気づけるのではない、患者もその家族も職員もすべてが仏の慈悲に照らされている。その理念に新堀氏は胸を打たれ、あそかビハーラ病院の門戸を叩いたという。

新堀氏が看護の際で大切にしていることは、私たちは「生老病死」の当事者ということであるという。

人間は「生老病死」を受け入れがたい。老いたくないし、病にかかりたくないし、死ぬことは怖い。しかしそれは、「生きる」ということに目を逸らしているのではない。私たちは生きれば生きるほどに老いていくし、病を経験していくし、死にも近づいている。それは終末医療を受けた患者さんではなく、私もいずれそうなる存在であることを「生老病死」という言葉から気付かされるという。それでも、当事者の苦しみに寄り添うことは難しい。「寄り添おう」とは思うが、当事者の苦しみに本当に寄り添えているか、ケアをするものには分からないと新堀氏は語る。しかし、いのちを生きている「生老病死」の当事者として、苦しみに寄り添っていく姿勢を忘れてはならない。

## ■かわいそうな人は誰がつくるのか

終末医療の外来患者、子どもにご飯を作りたいという思いからケアを続ける母親。一年間の闘病の末、母親は亡くなり、子どもは施設にいれられることとなる。新堀氏も当初は子どもたちに同情し、「かわいそう」と思った。しかし母親は「私が育てた子どもだから大丈夫」と強く語ったという。その時、新堀氏は「かわいそう」というのは私たちの心が作り出したものにすぎない、自分の価値観でものごとを見ていたことに気付かされたという。



新堀氏と鍋島直樹本学教授

■ 仏の慈悲は平等である

仏さまの視線には一切平等で善悪なしであると教えてもらったという。終末医療の現場では、突然に患者の呼吸が停止する場面も少なくない。すると後悔の念が生まれる。家族に看取ってもらえたらよかった、一人で死なせてしまったとどうしても思ってしまう。しかし仏典には臨終に善悪はないと説かれている。すなわち「私」が臨終に良し悪しを決めていたことを、僧侶との関わりから気づいたという。仏教の教えが医療の現場でも広がっているのである。

「ビハーラ活動はなかなか広がらない」といわれることがあるが、広がらないから不要なのではない。すでにビハーラはあって、それに気づいていくことが重要なんだと新堀氏はいう。「苦悩の中にいる人をひとりぼっちにしない」と仏さまが誓われているのだから、すでに道はひかれている。その道に気づいていくことがビハーラ活動ではないのだろうか。

辛いとき苦しいときには「仏さまが願ってくれている」ということを忘れないでほしいという言葉で講演は締めくくられた。

■ 振り返り



自由討論でコメントを行う実践真宗学研究科大学院生

講演後、鍋島氏により振り返りと自由討論が行われた。

鍋島氏は講演の概要を振り返りつつ、それらを総括するかたちで我われが歩んできた道、歩んでいく道すべてがビハーラであるのだと述べられた。

また、参加者であるビハーラ病院

での研修経験もある実践真宗学研究科の学生から、

・「死への当事者感覚を持つ」ということ、「あなたは先に死ぬ、私は後に死ぬ」ではなく「先に浄土に生まれる、後から浄土にうまれる」という感覚が大切なのだと改めて実感した。

・講演を聞いて心のどこかで、「病を抱えている患者さん」「抱えていない私」という線引きしている、ビハーラ僧は何もできないのかと感じていた。しかし「どちらも生かされているいのち」ということをこれからも考えて行きたい。

とのコメントが寄せられた。

最後に鍋島氏より、寺院活動とビハーラの連関についての質問があり、新堀氏はお釈迦さまが歩いた道がビハーラであるという理念のもと、一人でもお寺を残そうと思う人がいるなら頑張ろうと思っている。世襲を離れて、このような理念を共有できる人によって寺院が維持されていけば幸甚と語られた。



記念写真

## ❖ 特別講義 ❖

|      |                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| テーマ  | 地域に開かれた寺院                                                             |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 11 日（火） 15:15～16:45                                        |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 北翼 101 教室                                                    |
| 講 師  | 柱本 惇（龍谷大学文学部非常勤講師、浄土真宗本願寺派布教使・明覺寺住職、元あそかビハーラ病院ビハーラ僧）                  |
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、国際研究部門                  |
| 協 力  | 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケア—現代日本の 仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） |
| 参加人数 | 12 名                                                                  |

## 【開催概要】

2024 年 6 月 11 日（火） 15:15～16:45、大宮学舎北翼 105 教室において、本学非常勤講師である柱本惇氏を招聘し、特別講義「開かれた寺院」を開催した。講師である柱本氏は、浄土真宗本願寺派明覺寺の住職を務めながら、地域に根ざした寺院の在り方を追求している。今講義では、柱本氏が自坊でおこなっているさまざまな取り組みにを例示しつつ、

これからの寺院の在り方について考える場となった。以下に要点を述べる。

高齢化社会や貧困化、単独世帯の増加や地縁・血縁の希薄化に起因する社会の無縁化など、現代日本にはさまざまな問題が散在している。京都市の寺院で生まれ育った柱本氏は寺院を運営する中で、このような現状に危機感を抱き、地域社会に寺院が貢献できることは何かを模索することとなった。



柱本惇氏と鍋島直樹本学教授

そして明覺寺では現在、コワーキングスペースやヨガ、野菜市など、さまざまな催し物を境内地や堂内で実施し、門信徒・老若男女を問わず、さまざまな人が集まる場所として機

能しているのである。では、このようなさまざまな取り組みを行うためにはどのような点に注意すべきであろうか。柱本氏は以下の（１）～（４）が重要であるという。

（１）自身が預かる寺院はどのような寺院かを知る

「何かしなければ」というのは頭で分かっているけれども「何をすべきか分からない」という事例は多いのではないだろうか。柱本氏はまず行動に移る前に、自身が預かる寺院はどのような寺院であるかを知るところから始めるべきであるという。柱本氏が奉職する明覺寺を例示すると、当寺は1490年開基で柱本氏で21代目である。西本願寺の元塔頭寺院としての歴史を持つことから歴代住職も本願寺との関係性も深く、寺院も2022年には登録有形文化財に登録されている。このように寺院の歴史を知ることが、以下の（２）～（４）にも接続されていく。

（２）地域性、環境、門信徒との関係性などを分析し、長所・短所を見つめ直す。

次にその寺院の長所と短所を導く。柱本氏は明覺寺をとりまく環境を分析し、「京都駅近くの立地」「近隣寺院がすべて本願寺派」「門信徒は遠方が多く相互の関係性は密接ではない」「駐車場がなく境内地も狭い」という長所・短所のあることを導き出したという。

（３）寺院の強み（セールスポイント）は何か

上記の結果をもって次に、自身の寺院の持つ強みについて考える。（１）（２）より「歴史と立地」「本願寺に対する親しみ」といった強みを導き出すことができる。さらに、自身の持つ考えや能力を勘案すると、「寺族の顔が見える」「何でもできる」ということも強みに加えることができた柱本氏は述べる。

（４）どのような寺院の在り方を理想とするか

寺院を分析し行動に移しても、その活動を継続していくことは困難を極める。そこにはやはり、活動を行うことに対する理念や理想が重要となる。柱本氏は自身の活動理念として「伝統的な真宗寺院の在り方」「伝統的な法座の形式を遵守する」「門信徒にとって、社会にとってを考える」等を掲げられた。

また、寺院活動を行う中で、社会の変化にも対応する必要があると柱本氏は述べる。昨今の「イエ」・「ムラ」といったコミュニティの減少により宗教も「イエ」から「個人」のものへと変化している。すなわち、「うちの宗教は〇〇宗」だからという関係性で菩提寺や

所属寺院と付き合う時代ではなくなってきており、消費社会の中で葬儀や住職も商品として「個人」が「選択」する時代へと変遷しようとしているのである。柱本氏はだからこそ、個人との関係性や僧侶としての専門性を維持することも大切であると述べ、同時に寺院は地域の NPO などと協同し地域を盛り上げていくという役割も重要であるとし、講義を締め括った。

その後、質疑応答が行われ、受講生との闊達な意見交換が交わされた。以下に質疑やコメントの内容を要約して示す。

- ・寺院がサードプレイスとして機能しているのが素晴らしい。
- ・料金をいただくことはあるのか？→料金を一切とらずに寺院を開放している。
- ・イベントを通して新規の門徒になる人はいるのか？→実際は分からない。友達を仲介して新たなつながりが増える。寺院を地域の方々の居場所として開放することが願いだ ある。



記念写真

「お寺」をデザインする

柱本 惲

自己紹介

- ・ 柱本 惲(はしらもと じゆん)
- ・ 1987年12月30日生まれ
- ・ 下京区朝覺寺住職
- ・ 長所は声が大きいこと
- ・ 短所は声が大きいこと

お寺と歩み

- ・ 実践真宗学を修了(2015年)
- ・ お寺の現状を見て危機感。
- ・ 布教、研究と同時に寺院の将来  
ということを考えるように。
- ・ お寺について...

「お寺」をデザインする。

01

お寺が持っている  
お寺がどんなお寺  
なのかを伝える。

02

知覚性、価値、こ  
ろあふの空間性、  
場所、知覚...

03

お寺の集いのサークル  
デザイン(お寺)はなに  
か。

04

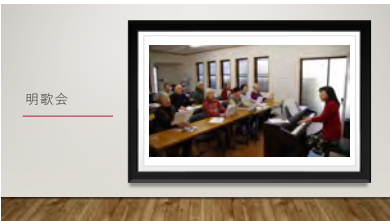
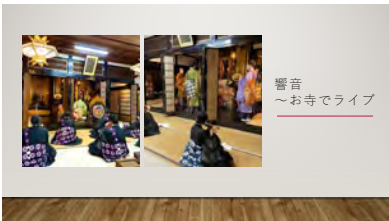
どういふお寺の形  
を空間として  
いるか。

コワーキング  
スペース

夏まつり

日曜学校

寺子屋(はなまる学習会)



01お預かりしているお寺がどんなお寺なのかを知る

1490年創建  
21代目住職

本願寺元住持寺  
院としての歴史

歴代住職を知る  
(仰形・瑞雲・  
増保・武子...)

寺宝・伝承  
有形無形の価値

02地域性、環境、ご門徒との関係性、長所、短所...

本願寺の寺域  
内という立場

近隣の環境は  
全て本願寺領

ご門徒は遠方  
で関係他は皆  
ではない

最寄町がなく  
本堂・境内が  
狭い

03お寺の強み(セールスポイント)はなにか

歴史と立場

本願寺に  
対する優しめ

寺務の強が  
見える

なんでも  
できる

04どういうお寺の在り方を理想としているか

- ・伝統的な真宗寺院の在り方
- ・40分2堂の伝統的な法座の形式
- ・お寺の存在意義...「そもそも何のためにお寺があるのか」
- ・お寺の使命...企業にはそれぞれ理念や使命がある

ファーストリテイリンググループ

服を変え、常識を変え、世界を変えていく。

本当に良い服、今までにない新しい価値を持つ服を創造し、世界中のあらゆる人々に、良い服を着る喜び、幸せ、満足を提供します。

鳥島敏

企業理念

永遠の理念：うぬぼれ

焼鳥屋で世の中を明るくしていきたい、という「うぬぼれ」を永遠に持ち続けます。

コーポレートメッセージ

あなたと、コンビに、ファミリーマート

私たちが大切にすること

- ・地域に寄り添う
- ・お客さま一人ひとりに
- ・家族のように
- ・社員の間

- ・楽しんでやろう
- ・どこでも考えよう
- ・チャレンジしよう
- ・チームで高め合おう
- ・未来を作ろう

04どういうお寺の在り方を理想としているか

- ・伝統的な真宗寺院の在り方
- ・40分2堂の伝統的な法座の形式
- ・お寺の存在意義...「そもそも何のためにお寺があるのか」
- ・お寺の使命
- ・ご門徒にとって、社会にとって、
- ・イエスの宗教から、個人の宗教へ。

宗教は個人の信仰

- ・うちは代々「浄土真宗」
- ・うちは代々「〇〇寺の門徒」
- ・お寺や住職が選ばれる時代  
→選ぶのは個人。
- ・寺域ではないスタッフの存在  
→スタッフを育てる。ターゲットはイベント参加者ではない。
- ・住職は職であれ

スピリチュアルケア

- ・スピリチュアルケアの意義なので...
- ・個人と阿弥陀仏との一対一の関係。
- ・仏徳讃嘆と仏化助成
- ・居場所が与えられる。
- ・教座を下げる？
- ・僧侶としての専門性を高める。

❖ 金子みすゞ～いのちへのまなざし～ ❖

~~~~~

❖ 特別講義 ❖

テーマ	金子みすゞ～いのちへのまなざし～
開催日時	2024 年 6 月 13 日（火） 13:30～15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 209 教室
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	24 名

【開催概要】

「童謡詩人 金子みすゞ展」の開催を記念し、2024 年 6 月 13 日（木）13:30～15:00、東翼 209 教室において特別講義「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」が開催された。第二回目となる特別講演の講師は、本学文学部教授の鍋島直樹氏が担当した。



鍋島直樹本学文学部

金子みすゞは 1903 年、浄土真宗や浄土宗などの信心の篤い山
口県大津郡仙崎村で生まれる。2 歳の頃に父が亡くなると、下
関の上山文英堂の後押しで、金子家は仙崎で唯一の書店、金子
文英堂をはじめめる。母や祖母は浄土真宗の門徒であり、みすゞ
も母や祖母とともにお仏壇に向かい手を合わせていた。このよ
うな環境が、金子みすゞ作品に影響を及ぼしたことは想像に難
くない。本展示会でも「みすゞを育んだもの」として、みすゞ
が読んだであろう児童書や、みすゞ当時の造りである浄土真宗
のお仏壇が展示されている。（金子みすゞの生涯や詩の解説に
ついては、[第 1 回講演報告](#)も併せてご参照ください）

本講演は、そのようなみすゞ作品の源泉を探るべく、彼女の詩
の世界から浮かびあがる「幸せとさみしさ」に焦点をあて考察するものである。以下に要
点を述べていく。

最初に注目すべきは、金子みすゞが綴った「海の生物」に関するいくつかの詩篇である。
第一回の矢崎氏の講演で触れられた「大漁」の詩に加え、みすゞには、「おさかな」「鯨法
会」といった詩が残されている。

■おさかな

海のお魚はかわいそう。/お米は人につくられる、/牛は牧場で飼われてる、/鯉もお池で麩を貰う。/けれども海のおさかなは、/なんにも世話にならないし、/いたずら一つしないのに、/こうして私に食べられる。/ほんとに魚はかわいそう。(金子みすゞ童謡全集 1-12, 13)

■鯨法会

鯨法会は春のくれ、/海に飛魚採れるころ。//浜のお寺で鳴る鐘が。/ゆれて水面をわたるとき、/村の漁師が羽織着て、/浜のお寺へいそぐとき、/沖で鯨の子がひとり、/その鳴る鐘をききながら、/死んだ父さま、母さまを、/こいし、こいしと泣いてます。//海のおもてを、鐘の音は、/海のどこまで、ひびくやら。(同 6-128, 129)

金子みすゞは、自分たちの喜びと対極にある相手の悲しみを感じ取っていることがわかる。「かわいそう」と思いながらも、その魚（いのち）をいただいている、というみすゞの表現は注目すべきであると鍋島氏は語る。これは、「いのちの尊さ」を大切にしたいみすゞならではの表現である。「鯨法会」とは金子みすゞの故郷、仙崎で行われる法事であり、捕鯨でやむなくいのちを失った鯨を追悼し、お寺に漁師たちが集まるものである。実際に仙崎に足を運ぶと、「くじら墓」と書かれた墓石があり、そこには「南無阿弥陀仏」の文字も刻まれている。実は捕鯨をしなくなった現在においてもこの鯨の法事は執り行われているという。それは、岸に打ち上げられたり、網にかかってしまった鯨に向けたものであるという。現在でも亡くなった鯉や鯨に手をあわせる仙崎の人々の姿は尊いものであると鍋島氏は語気を強められた。

今もつづく仙崎での風習からは、すべてのいのちを大切にしたい金子みすゞの源泉が垣間見えるのではないだろうか。また、海の生物だけではなく、今はもうこの世の縁が尽きてしまった大切な人々に向けても、みすゞは「幸せとさみしさ」をそなえた詩を残している。

■星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、/海の小石のそのように、/夜のくるまで沈んでる、/昼のお星は眼に見えぬ//見えぬけれどもあるんだよ、/見えぬものでもあるんだよ。(以下略、同 3-164)

「みえないけれどもある」、まさに母や祖母とお仏壇の前で読んでいた「正信偈」がテーマとなっているのではないかと鍋島氏は考察する。「正信偈」の中で親鸞聖人は、

「われまたかの摂取のなかにあれども、煩惱、眼を障へて見たてまつらずといへども、大悲、倦きことなくしてつねにわれを照らしたまふといへり」(註釈版聖典 207) と讃嘆する。すなわち、仏の救いの光は、煩惱をかかえた私には見えないが、それでも光は私を照らし護ってくれている。そうした安心感が示されているのである。

また、鍋島氏はこの詩を東日本大震災で家族を亡くした方々の前で朗読した時、聴衆が涙を流されていたことという。それは、遺族が「みえないけれども、愛する人は仏となって今も心に生きている」と感じたからであると鍋島氏は述べられた。

また、第 1 回特別講演でも紹介された「私と小鳥と鈴と」は、矢崎氏も指摘したよう

に、この世に存在するすべての者に存在する意義があることを伝えている詩であると考えられる。では、「みんなちがって、みんないい。」という視点はどのように生まれたのか。鍋島氏は母や祖母と一緒に掌を合わせた「お仏壇」が影響しているのだろうと推測する。みすゞにとってお仏壇とは、亡き父に会える場所であり「見えないけれどいる存在を感じる場所」であったのだろう。それは、「私がさびしいときに、仏さまはさびしいの」（さびしいとき、金子みすゞ童謡全集 4-49）と詠んだみすゞの詩のことばから窺うことができるのではないだろうか。

眼に見えないけれど、心の中にいてくれる存在がいる、だからこそ前に向かっていける。みすゞの詩は、そのような明日への勇気を与えてくれるとの鍋島氏の言葉で、本講演は締めくくられた。

その後の参加者からのコメントでは、

- ・金子みすゞの詩に仏さまの存在が生きていることに驚いた。自身が幼少の頃、テストの用紙をお仏壇にお供えしたことを思い出した。

- ・金子みすゞの生きた背景と詩が重なる。詩から金子みすゞの背景が伝わってくるように感じた。

といった意見が寄せられた。



(PD 西村慶哉)

❖ 特別講義 ❖

テーマ	龍谷大学からジェンダー平等をめざして
開催日時	2024 年 6 月 25 日（水） 15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 105 教室
講 師	安食真城（龍谷大学宗教部課長、浄土真宗本願寺派覚浄寺住職、豊郷町教育委員会委員、NPO 法人にじいろ Biwako 理事）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、実践真宗学研究科
協 力	日本学術振興会科学研究費基金特別研究員奨励費「臨床宗教師のケアー現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	15 名

【開催概要】

龍谷大学大宮キャンパスにて、2024 年 6 月 25 日（火）にジェンダーと宗教研究センター嘱託研究員・安食真城氏（本学宗教部課長）による特別講義「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」が開催された。

龍谷大学では「誰一人取り残さない」という世界共通の目標 SDGs に、仏教の思想に根ざした「仏教 SDGs」を掲げ、多様性を認め合う教育と研究を進めている。2017 年には「性のあり方の多様性に関する基本指針」を策定し、「性的指向や性自認など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題」と示した。



安食真城氏

そのような龍谷大学のジェンダー平等の実践に、積極的に取り組んでいるのが安食氏である。今回の特別講義では、LGBTQ に対する時代的な認識の変遷や、ジェンダー平等に向けた龍谷大学の実践について説明した。

「性のあり方の多様性に関する基本指針」策定のきっかけとなったのは、宗教部が実施したアンケート調査である。その結果、回答者 858 人のうち 130 人が性的マイノリティー当事者を自認しているという回答があった。友達との何気ない会話やコミュニケーションのなかで、深く傷ついてしまった経験を持つ方が少なくないことも確認できたという。また、回答からみると性的マイノリティーだが、当事者意識はないという方が 90 人いた。そのようなアンケート結果を踏まえて、安食氏は「LGBTQ や性のアイデンティティといったものは他人が決めるようなものではない。まずは本人がどのように認識しているのかを尊重しなければならない」と述べる。

具体的な実践として、性別にかかわらず利用できる多機能トイレを「だれでもトイレ」という名称に変更したことを紹介した。それによって、学生たちのトイレに対する意見や議論も起こり、「みんなのキャンパストイレフォーラム」というオンラインイベントの開催にまで至った。現在も「オールジェンダートイレ」の設置・増設に向けて精力的に取り組んでいる。安食氏は「社会には、トランスジェンダーや同性愛者のなかの性的マイノリティーに対する攻撃的な言説や排他的な慣習が溢れている。それは決して他人事ではなく、私自身も知らず知らずのうちに他者を傷つけているかも知れないことを自覚する必要がある」と強調した。

鍋島直樹教授からは、浄土真宗本願寺派の開教使チャプレンである宮木 Lee 啓輔氏の紹介があった。彼がチャプレンとして活動するなかで支えとなっていたのが、釈尊の「月愛三昧」である。「月愛」とは月の明かりのように暖かく、全てを受け止めてくれる仏の慈悲をいう。その意義をあらためて繙き、さまざまな偏見に気づいて、その人を大切にする仏教の平等の精神について語った。打本弘祐准教授からは、チャプレンは自らの生育歴を見つめ直すことが重要であり、自らの弱さや固定観念に気づくなかで、一人ひとり異なる苦悩を聞くことができるだろうと話した。院生の長尾菜摘さんは、ジェンダー平等とは、かぎりなく境目がないことであり、分け隔てなく自他を尊重することではないかと語った。

講義後、参加者や龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生を交えて活発な議論が行われた。今回の特別講義を通して、ジェンダー平等に向けた龍谷大学の歩みを知ることができ、社会課題について学び続ける事の重要性を再認識させられた。

❖ 龍谷大学からジェンダー平等をめざして ❖

~~~~~



集合写真

(文責：RA 釋大智)

❖ 特別講義 ❖

|      |                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ  | 実践真宗学のフロンタライン                                                                    |
| 開催日時 | 2024 年 10 月 9 日（水） 11：00～12：30                                                   |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                                                               |
| 講 師  | 長尾菜摘（実践真宗学研究科 2 年・臨床宗教師研究生）<br>長岡阿衣瑠（実践真宗学研究科 2 年・ハワイにおける国際伝道研究生）<br>鍋島直樹（文学部教授） |
| 主 催  | 龍谷大学大学院実践真宗学研究科                                                                  |
| 協 力  | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター                                   |
| 参加人数 | 145 名                                                                            |

【開催概要】



鍋島直樹本学教授

2024 年 10 月 9 日（水） 11:00 より大宮学舎東翼 101 教室において特別講義「実践真宗学のフロンタライン」が開催された。最初に鍋島直樹本学教授による趣旨説明・講演の後、実践真宗学研究科に所属する二名の大学院生による実習報告が行われた。

①「ハワイにおける真宗伝道の実践」長岡阿衣瑠

1889 年より開始された西本願寺のハワイ伝道は、現在 32 寺院、38 名僧侶、メンバー（門徒）4000 人によって活動されている。ハワイ教団ではどのような実践活動がおこなわれているのか、長岡氏は現地実習を踏まえてその一例を紹介・報告された。



長岡阿衣瑠氏

## ■プロジェクトダーナ

モイノリ本願寺から始まる年寄りや障害者を支援するための活動

「ダーナ（布施）」の精神をもとに開始、今ではキリスト教やユダヤ教など宗派を超えて活動が広まっている。理念は「self less giving」見返りを求めないことである。

## ■チャプレン

病院や施設でケアを行う僧侶。チャプレンのブレイン比嘉氏は「不完全な伴走者」と表現する。

後述の臨床宗教師もここに該当する。

## ■ポリスチャプレン

警察官と共に行動する僧侶。警察官と同じ制服を身につける。被害者の話を聞いたり、時には警察官のケアも行う。被害者の遺族に事件を伝えることなどもある。

Peace day, Sunday service, Living treasures などハワイ教団の伝道活動は他にもいくつもある。最後に長岡氏は「ハワイでの活動例を通して、受講者に少しでも真宗伝道に興味関心が高まる機会となってもらえれば幸いである」との言葉で発表を結ばれた。

### ②「実践に学ぶ臨床宗教師」長尾菜摘



長尾菜摘氏

長尾氏は実践真宗学研究科のプログラムである「臨床宗教師」課程を受講した経験を通して、実践真宗学で学ぶべきテーマや問題提起を行った。

まず臨床宗教師とは、苦悩を抱える人々に寄り添う傾聴する宗教者である。傾聴とは臨床宗教師において重要な姿勢であり、その人の零れ落ちてくる話を拾い、その人の立場にな

って理解しようとする姿勢のことである。

医療現場や被災地の仮設住宅、福祉施設など悩みや苦しみを抱えた人に対して、傾聴を通してグリーフ（悲嘆）ケアを行うことが活動の一環である。

臨床宗教師と宗教者の違いは、「公共施設で活動を行う」「布教・勧誘を目的としない」「他宗教者との連携」「患者の宗教、価値観を尊重」「多職種連携」が挙げられる。自身の信仰を押しつけず、傾聴する相手の信仰や価値観を尊重することが特徴である。実践真宗学では、あそかビハワラ病院の終末期医療現場や東北の被災地での現地実習を行う。



長尾氏は最後に「本報告を通して寺院出身ではない、僧侶ではないという方も臨床宗教師や実践真宗学に興味を持ってもらえれば幸甚である」との言葉で締めくくられた。



❖ 特別講義 ❖

| 特別講義 |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| テーマ  | 親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して                              |
| 開催日時 | 2024 年 11 月 20 日（水） 11:00～12:30                |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                             |
| 講 師  | 上杉智英（京都国立博物館主任研究員）                             |
| 主 催  | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター |
| 協 賛  | 文学研究科真宗学専攻、実践真宗学研究科                            |
| 参加人数 | 172 名                                          |

【開催概要】

11 月 20 日（水） 11：00 より東翼 101 教室において、上杉智英氏を招聘し、特別講義「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」が行われた。この上杉氏の特別講義は、文学部教授の鍋島直樹担当「真宗学概論 A2」の受講生とともに学内外の研究者が 221 名参加した。



上杉智英氏

上杉氏は京都国立博物館で主任研究員として昨年度の「親鸞聖人生誕 850 年特別展 親鸞一生涯と名宝～（親鸞展）」に携われた。上杉氏の担当は書跡であり、その中でも仏教典籍が専門である。

「親鸞展」は浄土真宗の開祖である親鸞の生誕 850 年を記念して、2023 年 3 月 25 日～5 月 21 日の期間で京都国立博物館にて開催された。本講義では、「親鸞

展」を振り返り展示品の特色や展示の意図についてお話いただいた。

「親鸞展」の特色は、「親鸞展」であることである。すなわち、「西本願寺展」や「東本願寺展」、「専修寺展」など、特定の宗派に限定した展示ではないことである。

浄土真宗は多くの宗派に分かれており、現在「真宗教団連合」には真宗十派（本願寺派、大谷派、高田派、佛光寺派、興正派、木辺派、出雲路派、誠照寺派、三門徒派、山元派）が加盟しているが、本展ではその真宗教団連合特別協力のもと、宗派の垣根を超えた総合的な展示がなされている。たとえば、親鸞の主著『教行信証』は、鎌倉時代に成立した古写本が三点（西本願寺本、坂東本、専修寺本）現存しており、それぞれ西本願寺・東本願寺・専修寺の寺宝としているが、これら鎌倉三本が揃って展示されたのは史上初のことである。また、親鸞自筆の消息も十二通が現存しており、それぞれ真宗諸派につたわっているが、それらが全て集結したことも史上初のことであった。出陳件数も親鸞に関わる展示会としては過去最多の181件であり、本展ではそれらをテーマごとに分けた7章構成で展示がおこなわれた。本講義では第1章、第2章、第5章を中心に解説がおこなわれた。

第1章では「親鸞を導くもの」として、本尊や所依の經典、親鸞の師である七高僧についての展示がなされた。本尊である阿弥陀仏は、浄土真宗では木像・画像（えぞう）・名号本尊に大別される。中でも特徴的なのは名号本尊である。名号本尊は他宗でも安置されるが、たとえば浄土宗では六字名号（南無阿弥陀仏）は掛けられるが、九字名号（南無不可思議光如来）や十字名号（歸命尽十方無礙光如来）は存在しない。このように本尊からも浄土真宗の独自性が窺える。

また、所依の經典の一つである『仏説阿弥陀経』の經文に親鸞が註を加えた『阿弥陀経註』も必読である。經文の上下左右にある空白に夥しく書き加えられた註記は、親鸞の修学の形跡が窺えるものとして興味深い。さらにもう一点注目すべきは、七高僧の一人である曇鸞の著作に親鸞が加点を施した、版本『往生論註』加點本である。鎌倉時代の木版印刷がすでに貴重である上に、親鸞の訓点や註記が朱筆されているのである。これにより『往生論註』を親鸞がいかにか読んでいたのか、すなわち七高僧の教えが親鸞へといかに相承されたのかが窺えるのである。

これらの典籍より、「南無阿弥陀仏一つで救われる」という念仏の教えの裏には緻密な研鑽があったことが知られるのである。

第2章では「親鸞の生涯を」テーマに展示がなされた。親鸞の生涯を窺う上で不可欠な資料は覚如『親鸞伝絵』である。「伝絵」とは詞書が付された絵巻物であり、親鸞の生涯が鮮やかに映し出されている。その中でも注目すべきは往生の場面である。親鸞の往生は、日本浄土教では非常に珍しく来迎の様子が描かれないのである。平安期以降の日本浄土教では臨終正念が重要視され、臨終行儀のため多くの来迎図が描かれた。しかし親鸞の教えは、「臨終まつことなし来迎たのむことなし」つまり臨終に心を正して

来迎の準備をする必要はなく、信心がさだまるその時に、往生することもまた決定している。まさに親鸞の教えが反映された絵伝なのである。

第5章は「親鸞のことば」として親鸞著作が並べられた。展示された22点中、実に17点が親鸞の自筆である。その中でも、上述の「坂東本」は親鸞自筆の『教行信証』として非常に貴重である。『教行信証』は浄土真宗において「立教開宗の根本聖典」とされており、『本典』とも呼称される。その筆跡からは親鸞が晩年まで何度も改訂を繰り返されていたことが指摘されており、まさに親鸞畢生の大著である。

書面に鏤められる大量の抹消や加筆などの推敲の跡は、親鸞がいかに本書に心血を注いでいたかを物語っており、まさに浄土真宗の至宝である。また坂東本は近年に角筆が発見されたことも話題になった。角筆とは、先の尖った筆記具で墨を染めずに、紙面のくぼみで文字や合点などを書き入れたものであり、現在坂東本には870ヶ所の角筆が発見されている。これらの筆跡は、まさに展示会で実見しなければ体感することのできない特色といえるだろう。



最後に上杉氏は、「親鸞展」を開催した所感として、他宗派の仏教関連の展示と比較すれば地味な展示会であったと語られた。しかし、その地味さが大切なのだと上杉氏は述べる。浄土真宗の文化財には、他宗の展示で出されるような華美な、また迫力溢れた仏教美術がない。それは「阿弥陀仏一仏によって万人がお念仏ひとつで救われる」という浄土真宗の教えを如実にあらわすものである。換言すれば、浄土真宗の教えでは、迫力のある仏像や豪華な写経、壮大な来迎図は往生に必要がないのである。地味であることが浄土真宗の特色であり、そして大切な部分なのである。

そして、「親鸞展」で考えさせられることは、800年前の文化財を今、私が目にしていることの意味である。800年も残っていたということは、念仏の教えをよろこぶ人びとによって、その文化財が大切に守られてきたということである。先人が守り伝えてきてくれた文化財と、そこに込められた想いをこれからも大切に伝えていきたいという言葉で講義は締めくくられた。

講義後、フロアーを代表して井上見淳社会学部教授よりコメントをいただいた。  
「親鸞展」を開催して嬉しかったことは何かとの質問に対して上杉氏は、貴重な文化財  
を実見できたことが何よりも嬉しかったが、それらを借用するときに、所蔵先の寺院や  
施設の人びとの顔も実見できたことが嬉しかったと述べられた。



◆ 特別公演 ◆

| 特別公演 |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ  | みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～                                                                     |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 5 日（水）11:00～12:00                                                                   |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室                                                                             |
| 講 師  | 矢崎節夫（童謡詩人金子みすゞ記念館館長）                                                                           |
| 主 催  | 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會                        |
| 協 力  | 金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center |
| 参加人数 | 210 名                                                                                          |

【開催概要】

2024 年 6 月 5 日（水）10:00 よりはじまった「金子みすゞ展」の開催を記念し、同日 11:00 より本学本館 2 階講堂にて金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫氏をお招きして、特別講演「みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～」が開催された。



鍋島直樹本学教授

最初に鍋島直樹本学教授より本展示会の開催趣旨および金子みすゞの生涯やこれまでのみすゞの詩の展開について説明された。

金子みすゞは 1903 年、浄土真宗や浄土宗などの信心の篤い山口県大津郡仙崎村で生まれ、以降、1930 年に逝去されるまでに現存する限りで 512 もの詩を遺した。みすゞは亡くなる前、弟正祐に三冊の童謡手帳と遺書を届けた。その童謡の大半は未発表のまま、長年等閑に付されてきた。1982 年、

矢崎節夫氏はみすゞの三冊の遺稿手帳が弟正祐の手元にあることを発見した。この発見により、みすゞの童謡が世界中で出版されて甦ったのである。では、みすゞの「みんなちがって、みんないい。」の優しいまなざしはどこから生まれきたのだろうか。それを共に

見つめ直したい。それがみすゞ展の開催趣旨である。

趣旨説明の後、矢崎節夫先生による記念講演が行われた。当時、知る人ぞ知る童謡詩人であった金子みすゞの詩は、いまや国語や道德の教科書に採用されており、現在 34 歳以降の日本で学んできた学生は、かならず金子みすゞの詩を学んでいることになるという。またみすゞの詩は日本だけでなく中国の教科書に採用されたり、英語やハンガール、ジョージア語などさまざまな言語に翻訳され、世界に広がっている。では、金子みすゞの詩がどうしてこのようにさまざまな地域や人々に受け入れられたのか。矢崎氏はいくつかのみすゞの詩を例に挙げつつ、その魅力を語られた。



矢崎節夫氏

#### ■大漁

朝焼小焼だ/大漁だ/大羽鰯の/大漁だ。//濱は祭りの/やうだけど/海のなかでは/何萬の/鰯のとむらひ/するだらう。(新装版金子みすゞ全集 2-101)

「大漁」は矢崎氏が金子みすゞ作品を採求する契機となった作品であるという。若くから児童文学を志していた矢崎氏は、北原白秋や西條八十らを輩出した早稲田に入学する。そこで「大漁」の詩と邂逅した矢崎氏は、他の児童文学・童謡にはない衝撃を覚えた。その詩は、よろこびとかなしみは同時であることを気付かせた。それは、どちらが上か、どちらが先かではない。同じく大切なものである。わたしがいわしに生かされていたことに気付かされ、その詩に衝撃を受けたと語られた。

#### ■こだまでしょうか・さびしいとき

「遊ぼう」つていふと/「遊ぼう」つていふ。//「馬鹿」つていふと/「馬鹿」つていふ。//「もう遊ばない」つていふと/「遊ばない」つていふ。//さうして、あとで/さみしくなつて、//「ごめんね」つていふと/「ごめんね」つていふ。//こだまでせうか、/いいえ、誰でも。(同 3-237, 238)

私がさびしいときに、/よその人は知らないの。//私がさびしいときに、/お友だちは笑ふの。//私がさびしいときに、//お母さんはやさしいの。//私がさびしいときに、/佛さまはさびしいの。(同 2-176)

これらの詩からは、宗教の、「親さま」と呼ばれる阿弥陀仏の大切さ・ありがたさを感じ取ることができる。

これらで注目すべきは、自分がさびしいときに友達に笑い、母は優しく、仏はさびしいという鮮やかな対比である。それは、自身の苦しみを親や仏は、何も言わずに理解し、そ

の人の立場に寄り添うから、「やさしい」であったり一緒に「さびしい」のである。

しかし友達は言葉で説明しないとわからない、でも言葉は不完全である。それなのに我々は苦しいことを伝えているのに「なぜ理解してもらえない」と苦しんでしまう。だからこそ、「さみしい」を「さみしい」とうけとってもらえる存在の大切さが際立つのである。

#### ■私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、/お空はちつとも飛べないが、/飛べる小鳥は私のやうに、/  
地面を速くは走れない。//私がからだをゆすつても、/きれいな音は出ないけど、/あ  
の鳴る鈴は私のやうに/たくさんな唄は知らないよ。//鈴と、小鳥と、それから私、  
/みんなちがって、みんないい。(同 3-145)

この詩には、「できないこと」「知らないこと」しか書かれてない。それが「みんなちがって、みんないい。」と肯定されていく世界に気付かされる。つまり「できなきやいけない」のではなく、「できなくていい」からこそ喜びがあるのだと矢崎氏は語られた。

最後に、矢崎氏は詩を読むことについて、金子みすゞの詩はどんな読み方をしても正解であるから、ぜひ自分にとって嬉しい詩をみつけてほしいと受講者に話された。詩は読むものではなく、覚えるものであるとも語られた。ふと詩を思い出したとき、そのときの思い出が甦ると矢崎氏は語られた。

今回の展示会においても、是非ともみすゞの時代にふれあい、みすゞの詩に触れ、みすゞの世界を体験してほしいという言葉で本講演は締めくくられた。



❖ みすゞの読んだアンデルセン童話 ❖

~~~~~

❖ 特別公演 ❖

特別公演	
テーマ	みすゞの読んだアンデルセン童話
開催日時	2024 年 6 月 19 日 (水)
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂
講 師	柴崎大輔・北尾知子 (JULA 出版局)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター (CHSR)、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	160 名

【開催概要】



JULA 出版局 柴崎大輔氏・北尾知子氏

「童謡詩人 金子みすゞ展」の開催を記念し、2024 年 6 月 19 日 (水) 11:00～12:30、東覺 101 教室において特別講演「みすゞの読んだアンデルセン童話」が開催された。第三回目となる特別講演の講師は、JULA 出版局の柴崎大輔・北尾知子の両氏が担当された。JULA 出版局は 1982 年に設立された子ども向けの書籍を取り扱う出版社である。第 1 回講師である矢崎氏が発見したみすゞの手帳に感銘を受け、その

全集を刊行して以降、金子みすゞに関する遺品の保管や展示会などを行なっている。

最初に鍋島直樹本学文学部教授より金子みすゞの略歴・詩の魅力についての説明がなされた。金子みすゞは幼少期より本に囲まれた生活を過ごした。祖母と母は本屋を営み、またみすゞ自身も 20 歳で下関の書店を手伝いながら、詩の投稿をはじめた。現在、その詩は世界 15ヶ国語に翻訳され、多くの人々に親しまれ続けている。(金子みすゞの生涯については、[第 1 回](#)・[第 2 回](#)講演も併せて参照)

次に JULA 出版局より講演を賜った。金子みすゞと本は切ってもきれない関係性である。幼い頃から本に恵まれた環境にあったみすゞは、おのずと本の虫となる。また、金子みすゞの生まれた時代は、スウェーデンの女性教育家エレン・ケイが唱えた「20 世紀こそ子どもの世紀」の思想を受けて、児童文学がまさに発展しようとする黎明期であった。童謡運動のそのひとつである。童謡については後述するが、当時 15 歳であったみすゞも、最新の芸術であった童謡に惹き込まれていくのである。

さて、本に囲まれて過ごした金子みすゞは、どのような本を読んで育ったのだろうか。JULA 出版局の北尾氏は、みすゞが投稿した詩の端々にそのヒントが隠されているという。例えば日本の童話。金子みすゞデビュー作は『童話』1923 年 9 月号に掲載されるが、そのひとつのタイトルは「打出の小槌」である。他にもみすゞは「こぶとり爺さん」や「花咲爺さん」、「舌切り雀」など、童話にまつわる詩を多く残しているのである。日本だけでなく、アンデルセン童話やグリム童話、ペロー童話、ギリシャ神話をモチーフにした詩もみすゞ作品には多い。みすゞは幼い頃よりさまざまな本や雑誌を読んで育ってきたことは想像に難くない。

ただし、実際にみすゞはどの出版社のどの時代に出版された本を読んでいたか、についてはあまり明らかになっていない。口惜しくもみすゞの遺品や資料は、空襲で焼けてしまったのである。しかし、JULA 出版局の柴崎氏によれば、みすゞの詩をじっくりと読み解いてみると、いくつかの推測を行うことができるのである。例えば「人なし島」という詩はロビンソン・クルーソー



講演風景

(ロビンソン漂流記) をモチーフにしているのだが、ここには「100 枚とばして」という表現がある。この点より類推すれば、みすゞの手沢の『ロビンソン漂流記』は 200 ページ以上の装丁であったと考えられる。そこで当時の 200 ページ以上ある『ロビンソン漂流記』を集めたものが本展示第一室の①である。この中にあるのどれかをみすゞは読んでいたのかもしれない。

また「杉と杉菜」という詩には「青銅（からかね）の豚」という言葉が出てくる。これはフィレンツェを舞台にしたアンデルセン童話の一つであるが、そのタイトルは翻訳者によって種々に異なっているのである。そこで JULA 出版局は、みすゞが活躍した時代に出版されたアンデルセンの本の中から、「青銅（からかね）の豚」という翻訳をおこなっていた本を探索し、楠山正雄『アンデルセン童話全集』（新潮社）がそれに該

当することを発見した。さらに、本書は有名なアンデルセン童話の一つである「人魚姫」を「人魚のむすめ」と翻訳しているが、みすゞの作品にも「人魚のむすめ」という言葉が登場するのである。またこの本は大正 13 年 9 月に発行されていることから、遺稿手帳の収録順序と照らし合わせることで、金子みすゞの詩作の時期を予測することも可能となるのである。

さらに JULA 出版局はみすゞと当時の童謡について言及された。今の「童謡」とイメージが異なり、みすゞの時代に始まった童謡運動には、思想的・芸術的・教育的な意味合いがより深く込められていたと柴崎氏は推察する。当時の「童謡」の意味を尊重して、みすゞを「童謡詩人」と呼び続けたいと考えているのである。

野口雨情『童謡作法問答』には、当時の若者にとって「童謡」は、「それは何か」と友達に聞くのも恥ずかしいほどにトレンドであったことが書き記されている。例えば西條八十が書いた童謡である「かなりや」はレコードで発売されると、たちまち大流行しているのである。みすゞの時代の「童謡」には、新たな詩作としての情熱があり、皆がこぞって心血を注いで創作されたものであったのである。野口は先の書で「どんな童謡が後世に残るか」という問いに対して、「自分自身の心持ちを誰にも遠慮することなしに、自由に歌わなければならない」と答えた。まさにみすゞの詩はこの一言に尽きるものであり、だからこそ、みすゞの詩は後世にも残りつづけているのであろう。

展示会では金子みすゞを育んだ本の世界、そして金子みすゞが心血を注いだ「童謡」という詩の世界を味わってほしい、との言葉で講演は締めくくられた。



記念写真

❖ 他力本願：他者を通して大悲心に生かされる ❖

~~~~~

❖ シンポジウム ❖

| シンポジウム |                                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ    | 他力本願: 他者を通して大悲心に生かされる                                                                                  |
| 開催日時   | 2024 年 5 月 22 日 (水) 11:00~12:30                                                                        |
| 開催場所   | 龍谷大学大宮学舎 東麓 101 教室                                                                                     |
| 講 師    | Mark Ty Unno (University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head) |
| 主 催    | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター                                                         |
| 協 力    | 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケア—現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」(23KF0071) 研究代表者 鍋島直樹 (龍谷大学)                 |
| 参加人数   | 150 名                                                                                                  |

【開催概要】

2024 年 5 月 22 日 (水) 11:00 より Mark Ty Unno (University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head) 氏を招聘し、シンポジ



鍋島直樹本学教授 (左) と Mark Unno 氏(右)

ウム「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」が、本学大宮学舎東麓 101 教室にて開催された。

最初に Unno 氏による基調講演が行われた。Unno 氏は、大乘仏教とりわけ真宗他力の立場を、主体 (subject) と客体 (object) の関係性から示される。すなわち、われわれの住む世界は「私」である主体と、「私以外のもの」である客体とに分かれるが、この主客の関係性が「対」にあるのではなく「共に歩

む」ものであるのが大乘仏教の立場であると Unno 氏は主張されるのである。そして、その事象を分かりやすく説明する例として二つの物語を紹介された。

一つ目は、若いヴァイオリニストの話である。この物語は京都大学で行われた臨床心理学

会でのとある発表内容がベースとなっている。ある日、14歳の若者がカウンセリングを受診しに訪れた。若者は幼少期よりヴァイオリンの才能に恵まれ、自身もヴァイオリンに魅せられ日々練習に没頭していた。しかし、遺伝的に99.9%の確率で将来失聴することが判明した。若者はその事実を受け容れることができず、深い悲しみから自身はすでに死んだと認識した。カウンセラーも何も言うことができず沈黙が続くまま日々が過ぎていった。ある日、若者は祖母の墓参りに訪れ、墓石の前に「なぜ私だけが」と、祖母へ自身の苦しみを吐露した。しかし、病気を遺伝することは苦しみを遺伝することだと気づいた時、「自分だけが」と思っていた苦しみは「自分だけではない」という命の絆に気づいた。その時、苦しみを知り共に歩むという新たな世界が見えた、というエピソードである。

二つ目は、母と子のお話である。この物語はUnno氏の指導を受ける学生が経験に基づいて創作したものだという。反抗期を迎えた娘は、過保護な母の言葉や行動に嫌気が差し、やがてそれが苦しみへと変化していったことで、家出やリストカットをするようになった。しかし、時間が経過することで、母親が苦勞した中で自身を育ててくれたことがだんだんと理解できるようになった。自分が理想とする母親像と、実際の母親との乖離が苦しみを生んでいたが、母親も同じく苦しみを抱え生きていることがわかったと自分のこともだんだんと理解できるようになった。というエピソードである。



以上の2つのエピソードを通してUnno氏は「私だけ」「独りぼっち」というのが「自力の世界」であり、「自分は一人ではない」ことに気づくと開かれる自他・主客が共に歩む世界、これこそが「他力の世界」であると説明された。そして、「私だけ」ではないことに気づくこと、すなわち「他者に聞く」ことや「他者に対する深い理解」「仏の大悲心を知る」それこそが「聴聞」であると示された。

そして、自分だけの世界に固執するのではなく、他者を通して開かれる世界・自他共に歩んでいける社会、すなわち大悲心の世界に気づかされることが肝要であるとして講演を結ばれた。

基調講演のあと、鍋島直樹本学文学部教授との対話が行われた。その中で鍋島氏は、真宗学という学問について言及し、昨今は文献を忠実に読むこと、史料の性質を検証することに比重が置かれており、自分を見つめ直す時間が少なくなっているのではないかと指摘し、理詰めも大切だがUnno氏の本日の講演内容のように、自分の中にある物語も大切にしたいと述べられた。

その後の質疑では、「墓参りのエピソードは、祖母が還相廻向の菩薩となり若者の心の中に戻ってきたと思わされた」といったコメントが寄せられた。Unno 氏は、親鸞が「一切衆生悉有仏性」（『涅槃経』）と味わったように、生きとし生けるものすべてがこの大宇宙の中を生きている、命の絆・繋がりに気づくことが重要であると話されたところで、シンポジウムは幕を閉じた。



記念写真

❖ シンポジウム ❖

| 新春シンポジウム |                                                                             |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| テーマ      | 臨床宗教師の現在と近未来                                                                |
| 開催日時     | 2024 年 1 月 15 日（水）16:00～17:15                                               |
| 開催場所     | 龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂                                                           |
| 講 師      | 講師：谷山洋三（東北大学文学研究科教授）<br>研修報告：佐々木大成・長尾菜摘・廣田智成<br>研修報告 聞き手：森田敬史               |
| 主 催      | 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム |
| 参加人数     | 23 名                                                                        |

【開催概要】

2025 年 1 月 15 日（水）16:00 より、本学大宮学舎本館 2 階講堂において新春シンポジウム「臨床宗教師の現在と近未来」が開催された。本年は阪神・淡路大震災から 30 年の節目であたる。開会に先立って鍋島直樹氏（本学文学部教授）より哀悼の意が表され、その後に開会の辞が述べられた。



鍋島直樹本学教授・森田敬史本学教授

続けて森田敬史氏（同教授）により、臨床宗教師・臨床傾聴士募集要項に関する説明がおこなわれ、併せて 2024 年度の本学における認定臨床宗教師およびスピリチュアルケア師の資格取得者の紹介がなされた。なお募集要項の詳細については本学実践真宗学研究科ホームページにて公開されている。

次に谷山洋三氏（東北大学大学院文学研究科教授）による記念講演「臨床宗教師の現在と近未来」がおこなわれた。谷山氏は臨床宗教師（および臨床傾聴士・スピリチュアルケア師）

の養成を主題に、それぞれの差異や活動の拡がりについて話された。

2012年度に「東北大学実践宗教学寄附講座」の開講より開始された臨床宗教師養成は年々に拡大しており、現在では本学実践真宗学研究科を含むさまざまな大学や付置機関にて受講することが可能となっている。そして、その臨床宗教師を受け入れる場所も全国的に広がっており、臨床宗教師がさまざまな医療・福祉施設などで評価され、受け容れられてきていることが看取できる。



谷山洋三氏

さて、現在本学では臨床宗教師に加えて、スピリチュアルケア師・臨床傾聴士の資格を取得することも可能であるが、それらの役割の差異はどのようなものであろうか。

谷山氏は、心のケアの提供には（A）狭義のスピリチュアルケア、（B）狭義の宗教的ケア、（C）宗教的資源の活用、の三種があるとした上で、スピリチュアルケア師・臨床傾聴士は（A）がケアの主体であるが場合によっては（C）にも跨がる活動であるという。スピリチュアルケア師・臨床傾聴士は宗教や信仰に依拠せずに活動を行うが、患者の要望などによっては神社や寺院などの宗教施設や媒体を利用することも妨げられない。

一方で、宗教者として心のケアを提供する臨床宗教師は（A）、（C）にわたってケアを行うものであると定義できるが、自身の信仰を押しつけたり宗教勧誘を行うことはないため（B）

に抵触することはない。（B）を伴うケアは飽くまでも「宗教者」の領域である。

また、両者には組織性にも差異があるという。臨床宗教師はもともと九州の地域組織から始まり、全国に拡大してきた経緯を持ち、自ずとさまざまな団体が形成されており、組織性が非常に強い。また、宗教者には普段から話すことに慣れている者が多く、発信力が高いことも特徴である。



一方でスピリチュアルケア師は組織性は弱く、臨床傾聴士はまだ組織はないという。換言すれば、活動は個々の有資格者に一任されているというのが現状である。スピリチュアルケアは「形のないケア」であるためスキルよりメタスキル（態度）が問われる。したがって教育方法にも「型」がなく、感情や態度で相手が話しやすい空間を作る必要がある。世の中も常に変化し続けており、ケアには個別性が高く研究の蓄積もいまだに充足しているとはいえない。

その上で谷山氏は、臨床宗教師・スピリチュアルケア師・臨床傾聴士の「あるべき」姿の模索、追求、活動分野の拡大が必要であると述べられた。そのためにも有資格者の増加は今後の課題とも言える。

さて、さらなる資格者の増加を目指すためには SV（指導者）の養成も必要である。ただし「指導する立場」の養成は容易ではなく、時間も要する。谷山氏は、SV には（1）自己をより深く見つめ、自己受容を促進すること、（2）自らに与えられた権威性を意識すること、（3）適切な教育的態度を身につけること、の三点が求められると語気を強められた。

最後に谷山氏は臨床宗教師の今後の展望について、まだまだ未開の領域も多く課題も山積しているが、研究としても活動としてもこれからの更なる広がりが期待できると述べられ、講演は締めくくられた。

講演ののち、今年度の臨床宗教師研修プログラムを終えた受講者 3 名による振り返りが行われ、以下のようなコメントが寄せられた。

・研修を通して自分の何が変わったかには実感がないものの、自分を見つめ直す時間が必要であることに気づいたことが収穫である。この経験は臨床宗教師だけではなく、宗教者としての、また一個人としての自分にも糧になったと感じる。

・他者の苦しみや痛みに寄り添うことの難しさを痛感するとともに、それでも患者

の方や遺族に対して自分にしかできないことがあるんじゃないかと感じた。



研修の振り返りの模様

・研修を重ねていく中で、言葉を介さないスピリチュアルケアもあるということが印象に残った。それは座学では学べないことであった。

受講者の振り返りをうけて谷山氏より「自分自身を見つめる」ことは本当に大事なことだが、放置しておけば「自分自身を見つめ直す」やり方を失ってしまう。繰り返し学んだことを反芻し自分自身を見つめる作業を継続してほしい。そして欠点を見つめるのもいいことだが、自身のいい部分も見つめることも大切である。との言葉が贈られた。

最後に鍋島氏による謝辞が述べられた。鍋島氏は受講者に対し、「臨床宗教師には仲間がいるということ」また親鸞聖人の和讃の言葉、

如来の作願をたづぬれば 苦悩の有情をすてずして

回向を首としたまひて 大悲心をば成就せり（正像末和讃、註釈版聖典 606 頁）

を紹介しつつ、「悪業に悩まれる私を、如来の大慈大悲心が支えてくれている」という言葉を贈られ、本シンポジウムは締めくくられた。



記念写真

❖ 研究会 ❖

| 研究会  |                                       |
|------|---------------------------------------|
| テーマ  | 大乘仏教の国際関係論: 日本の事例からの考察                |
| 開催日時 | 2024 年 6 月 21 日（金） 16:55 ～18:25       |
| 開催場所 | 龍谷大学深草キャンパス 和顔館 306 教室                |
| 講 師  | 林佩瑩 氏（国立政治大学宗教学大学院（台湾）・准教授）           |
| 主 催  | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター |

【開催概要】

本研究会では、清水耕介教授（本学国際学部）著書「The Kyoto School and International Relations: Non-Western Attempts for a New World Order」（ロンドン: Routledge、2022 年）を基として、国際関係論（IR）の研究に対する大乘仏教のアプローチの可能性について議論を行った。

❖ Relations and Roles in China's Internationalism:  
Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World ❖

~~~~~

❖ 新書発表会 ❖

新書発表会	
テーマ	Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義における関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見)
開催日時	2024 年 11 月 22 日 (金) 17:00 ~ 18:30
開催形態	オンライン (Zoom)
講 師	Chih-yu Shih (Professor, School of Political Science & International Relations, Tongji University)
コメンテーター	Ekaterina Koldunova (Associate Professor, Asian and African Studies Department, MGIMO University) Olivia Umurerwa Rutazibwa (Assistant Professor, Department of Sociology, London School of Economics and Political Science) Jungmin Seo (Professor, Department of Political Science and Diplomacy, Yonsei University) Kosuke Shimizu (Professor & Dean, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
司 会	Ching-Chang Chen (Professor, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター

【開催概要】

応用研究部門紛争解決研究班と延世大学の共催で、2024 年 11 月 22 日 (金) に Zoom にて、石之瑜 教授 (同済大学) の新書発表会「Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義に於ける関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見)」を開催した。

❖ システム論から考えるスクールカウンセリング ❖

~~~~~

❖ シンポジウム ❖

| シンポジウム     |                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ        | システム論から考えるスクールカウンセリング                                                         |
| 開催日時       | 2025 年 3 月 23 日（日）10:00 ～ 13:00                                               |
| 開催形態       | 龍谷大学大宮学舎 東翼 301 教室                                                            |
| 講 師        | 村上雅彦（広島ファミリールーム）                                                              |
| シンポジ<br>スト | 荒井久美子（京都府・京都市スクールカウンセラー）<br>西山達二（滋賀県スクールカウンセラー）<br>大石直子（灘中学校・灘高等学校スクールカウンセラー） |
| 司 会        | 赤津玲子（龍谷大学）                                                                    |
| 主 催        | 世界仏教文化研究センター応用研究部門 社会的孤立回復支援班                                                 |

【開催概要】

2025 年 3 月 23 日（日）10:00 より本学大宮学舎東翼 301 教室においてシンポジウム「システム論から考えるスクールカウンセリング」が開催された。司会の赤津玲子氏（本学心理学部教授）による趣旨説明の後、村上雅彦氏（広島ファミリールーム）より基調講演「学校臨床における SC の役割」がおこなわれた。講演ののち、シンポジウム「チーム学校として取り組むために」として 3 名のシンポジストが発題を行った。そののち、指定討論としてパネリストとともに村上氏、吉川悟氏（本学心理学部教授）が登壇され、フロアを含めて闊達な意見交換が行われシンポジウムは締めくくられた。

❖ 研究展示 みんなちがって、みんないい。  
童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～ ❖

~~~~~

❖ 研究展示 ❖

研究展示	
テーマ	みんなちがって、みんないい。 童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～
開催日時	2024 年 6 月 5 日（水）～6 月 26 日 10:00～16:00 ※土・日・月は休館、但し 22 日(土)、23 日(日)は開館します。
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館
主 催	大学世界仏教文化研究センター応用研究部門人間・科学・宗教オープン・ リサーチ・センター／ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館、金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、 龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research C enter
参加人数	854 名

【開催概要】

本展示会は、現在世界中に広がり、親しまれている童謡詩人 金子みすゞの作品がどのようなように生まれたのか、その源泉を辿ることをコンセプトに開催されました。各部屋ごとに展示品の概要を紹介します。

■（北）第一室 みすゞを育んだもの～本・お仏壇・報恩講～

第一室では、みすゞが幼少期に触れあった児童書や仏壇を中心とした展示が行われました。みすゞの幼少期は大正デモクラシーの時代でもあり、児童書発展の時期でもあ



りました。本屋を営んでいたみすゞは幼少期より児童書に接する機会も多く、後のみすゞ作品にも大きな影響を及ぼしたことが窺えます。加えて、みすゞの故郷である山口県大津郡仙崎（現長門市）は、浄土真宗や浄土宗などの信仰の篤い地域でもありました。みすゞの家にも仏壇があり、本尊の阿弥陀さまに掌を合わせてい

❖ 研究展示 みんなちがって、みんないい。
童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～ ❖

たことが、みすゞが遺した数々の作品からも窺うことができます。みすゞの中で阿弥陀さまの存在は決して小さなものではなかったでしょう。

そこで、第一室では、金子みすゞが直接手に取って読んでいたであろう、明治・大正期に刊行されたアンデルセン童話などの児童書や、『少年園』『少女世界』といった少年誌・少女誌、『お伽絵解』『日本昔噺』といった絵雑誌・絵本を中心とした展示が行われました。加えて、金子みすゞが掌を合わせていたであろう近代期の浄土真宗の仏壇も展示されました。

(主な展示品)

女学生時代のみすゞ写真 (パネル)

仙崎マップ J U L A 出版局 令和 5 年 5 月

仙崎名勝絵葉書 昭和初期 5 枚 + 2 枚

お仏壇 (イメージ展示品) 昭和初期 丸三仏壇店

金子家過去帳 (イメージ展示品) 龍谷大学

新譯ロビンソン漂流記 平田禿木 (平田喜一) 訳 富山房 (模範家庭文庫) 大正 6 年 12 月 24 日

アンデルセン御伽噺 長田幹彦訳 富山房 (模範家庭文庫) 大正 6 年 8 月 24 日

アンデルセン童話全集 (第一巻) 楠山正雄訳 新潮社 大正 13 年 9 月 3 日

アンデルセン童話 金の星社編集部 金の星社 (世界少年少女名著大系) 大正 14 年 10 月 13 日 大正 15 年 6 月 25 日 3 版

日本昔噺 第壱編 桃太郎 巖谷小波編 博文館 明治 27 年 7 月 11 日 明治 29 年 10 月 5 日 7 版

西條八十童謡全集 西條八十 新潮社 大正 13 年 5 月 25 日

日本童謡集 1925 年版 童謡詩人會編 新潮社 大正 14 年 6 月 17 日

■ (中) 第二室 金子みすゞの手帳



第二室では、金子みすゞの遺した 3 冊の遺稿手帳のレプリカが展示されました。金子みすゞは 20 歳で「童謡」を書き始めます。これまで抑えられていたものを噴き出すかのように、作品を生み出します。しかし、生前発表されたのはわずかに 90 編ほどでした。しかし、みすゞの没後 50 年が経過した時、矢崎節夫氏がこの手帳の存在をつきとめ、512 編ものみすゞ作品が「甦り」ました。今ではよく目にする「私と小鳥と鈴と」「こだまでしょうか」「星とたんぽぽ」

❖ 研究展示 みんなちがって、みんないい。
童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～ ❖

もこの時に甦った作品たちです。このように第二室では、これらの作品が書かれたパネルとともに、遺稿手帳を観覧していただきました。

(主な展示品)

美しい町 (レプリカ)

空のかあさま (レプリカ)

さみしい王女 (レプリカ)

■ (南) 第三室 みすゞ作品の掲載誌と展開

第三室では、金子みすゞが作品の投稿を行っていた『赤い鳥』などの掲載雑誌から、現在世界中で出版されているみすゞの書籍まで、みすゞ作品の展開をテーマにした展示が行われました。



みすゞは大正 12 (1923) 年 9 月に作品が投稿雑誌に掲載されると、瞬く間に投稿詩人のあいだで話題となりました。西條八十も、みすゞの才能を認める一人でした。みすゞ死後、彼女の作品は次第に忘れられていきましたが、それでも童謡仲間の間では伝説のように語り継がれていきました。しかし、先述の通りに遺稿手帳の発見により金子みすゞ作品が甦ると、みすゞ作品は瞬く間に広がり、現在では世界一五ヵ国語に翻訳され多くの人に親しまれています。

第三室では、金子みすゞ作品を①みすゞ作品が掲載されていた頃、②みすゞが幻の童謡詩人として語り継がれていた頃、③現在の世界中で親しまれていく様子の三期に分けて展示がなされました。

(主な展示品)

みすゞの着物 (再現)

琅玕集 (レプリカ)

童話 大正 12 年 9 月号 第四巻 第九號 コドモ社 大正 12 年 8 月 1 日 金子みすゞ「お魚」「打出の小槌」掲載

金の星 大正 12 年 9 月号 第五巻 第九號 金の星社 大正 12 年 9 月 1 日 金子みすゞ「八百屋のお鳩」掲載

赤い鳥 大正 13 年 10 月号 第十三巻 第四號 赤い鳥社 大正 13 年 10 月 1 日 金子み

❖ 研究展示 みんなちがって、みんないい。
童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～ ❖

すゞ「入船出船」掲載

日本童謡集 1926 年版 童謡詩人会編 新潮社 大正 15 年 7 月 7 日 金子みすゞ「大漁」
「お魚」掲載

児童文芸 1982 年秋季臨時増刊 増刊 12 日本児童文芸家協会 ぎょうせい 昭和 57 年 9
月 25 日 矢崎節夫「金子みすゞー見つかった三冊の遺稿集と写真」掲載

小学国語 5 下 ひろがる言葉 教育出版 矢崎節夫「みすゞさがしの旅」掲載

金子みすゞ いのちへのまなざし 鍋島直樹 古荘匡義編 龍谷大学 人間・科学・宗
教オープン・リサーチ・センター 2012 年 7 月 4 日

Something Nice (英語) D.P. ダッチャー訳 JULA 出版局 1999 年 英語

ARE YOU AN ECHO? (英語オリジナル絵本) デーヴィッド・ジェイコブソン作 サリー・
イトウ 坪井美智子訳 チン・ミュージック・プレス 2016 年 英語

わたしと小鳥とすずと (韓国語) 徐承周訳 図書出版小花 2006 年 韓国語

金子みすゞ童詩全集「明るい方へ」(中国語) 呉菲訳 浙江少年儿童出版社 2023 年 中
国語

「ほしとたんぽぽ」「おひさん、あめさん」「なしのしん」(中国語) 猿渡静子訳 新星
出版社 2017 年 中国語

わたしと小鳥とすずと (ペルシャ語) ジャヘドザデ・ベヘナム ディバーイエ 2011 年
ペルシャ語

花のたましい (スペイン語) 星野由美 マリア・ホセ・フェラーダ訳 サトリ 2019 年
スペイン語

金子みすゞ全集 (限定版) JULA 出版局 1984 年 2 月 28 日

わたしと小鳥とすずと (全国版) JULA 出版局 1984 年 8 月 31 日 現在はフレーベル館
発売

❖ 幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾
「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」 ❖

~~~~~

❖ 講演会 ❖

| 講演会  |                                                      |
|------|------------------------------------------------------|
| テーマ  | 幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」 |
| 開催日時 | 2024年11月26日(火) 13:30~15:00                           |
| 開催場所 | 龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室                                    |
| 講師   | 幾田桃子・千々松由貴                                           |
| 主催   | 大学世界仏教文化研究センター応用研究部門ジェンダーと宗教研究センター                   |
| 協賛   | 龍谷學會                                                 |
| 参加人数 | 24名                                                  |

**【開催概要】**

2024年11月26日(火) 龍谷大学大宮学舎において、幾田桃子氏と千々松由貴氏が「働く—ジェンダーと重圧・社会進出について—」をテーマに、龍谷大学の学生とディスカッションがおこなわれた。

両氏によって、各学生の実体験や、それに裏打ちされた「理想の職場」像など、「働く」ことに対する素直な気持ちや考えが引き出された。

学生にとって素晴らしいディスカッションになった。

今後、社会進出するにあたって、学生たちがこのディスカッションの内容を思い出し、実践することで、より働きやすい環境が生まれることを願う。

ディスカッションの詳細は、龍谷大学ジェンダーと宗教研究センターのウェブサイトよりご覧ください。

▼龍谷大学ジェンダーと宗教研究センター

<https://grrc.ryukoku.ac.jp/>

❖ 自死をみつめて～死と大いなる慈悲～ ❖

~~~~~

❖ 協力事業等 ❖

顕真アワー	
テーマ	自死をみつめて～死と大いなる慈悲～
開催日時	2024 年 10 月 2 日（水）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学宗教部
協 力	世界仏教文化研究センター応用研究部門

【開催概要】



鍋島直樹本学文学部教授

2024 年 10 月 2 日（水）15:15 より本学大宮学舎本館講堂において顕真アワーが開催された。講題は「自死を見つめて～死と大いなる慈悲」として、鍋島直樹氏（本学文学部教授）が講師をつとめた。以下に概要を示す。

本講演は、「自死」をテーマにいのちの重さについて考えることを主題とするものである。鍋島氏は①自死の現実と遺された家族の苦悩、②遺された家族に対する珠玉の言葉、の 2 つの角度から、いのちの重さについて述べられた。

日本における自死者の数は 1998 年に急増し、現代では行政や自治体といった単位でも対策が講じられる社会問題の一つであるといえる。

厚生労働省「自殺の統計」によれば令和 5 年中における自殺者は 21,873 名であり、令和 4 年の 21,881 名より僅かに減少したものの依然として年間 20,000 名以上の方が自死を選んでいるのが現状である。

鍋島氏は自死対策の重要性を訴えるとともにその一例として、京都府の自殺対策について示された。京都府では苦悩を抱えた人びとに向け、臨床宗教師と対話できる場所を提供しており、その場所には龍谷大学・実践真宗学研究科も参加しているという。



鍋島氏は「自死は個人の問題なのか」と会場に投げかける。そこには社会への不安や人間関係など、複合的な要因が考えられることは会場の共通認識であった。加えて、「自死」は本人だけではなく、遺された家族の心の苦しみも問題である。

以前は「自死」ではなく「自殺」という言葉がよく使われていたが、「自殺」とは「自己殺人」の略と言われる。その言葉は遺族の心に深く突き刺さることに鑑み、「自死」の言葉が用いられることとなった。また、遺された家族は、「私にも原因があったのではないか」との苦しみを抱えてしまうこともある。

このような問題を提起した後、鍋島氏は遺された家族に対する言葉として、仏典の言葉を紹介された。

浄土真宗の開祖である親鸞は、主著『教行信証』の中で『涅槃経』を引用し、釈尊が肉親を死においやってしまった阿闍世王の苦悩を取り除く方法を、「月愛三昧」としてを示している。月愛とは月の光のようにやさしく降り注ぐ仏の慈悲のことであり、仏はあらゆる人を慈悲のところでやさしく包みこむことが端的に示されている。

また本願寺八代蓮如は、「仏法には無我にて候ふうへは、人にまけて信を取るべきなり」（蓮如上人御一代記聞書、註釈版 1281）と示される。仏法とは「人に勝りたい、劣っていることはいけないことだ」という我執の世界ではない、仏の無我のまなざしにはそのような優劣はなく、みなを慈悲で包みこむのである。

また親鸞は、「臨終の善悪をば申さず」（註釈版 771）と明確に示され、法然の法語を編集した『西方指南抄』の中では、81歳で自害した「つのと三郎」について「めでたく往生をとげたりけり」（聖典全書 3-1070）と記されている。この言葉は、死を急ぐことを勧めるものではない。親鸞は臨終の死には善悪はなく、死を尊いものとみていたからこそその言葉である。

以上の内容をもって講演は結ばれた。

その他の成果

❖ 2024 年度個人研究業績 ❖

鍋島直樹（龍谷大学文学部教授／人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター センター長）

【雑誌論文】

単著

1. 「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」、『日本仏教看護・ビハーラ学会第二十回大会発表予稿集』1～8 頁、2024 年 6 月 22 日
2. 「死別の悲しみと共に生きるーボランティア僧侶としての遺体安置所での死別悲嘆ケア」、『グリーフ&ビリーブメントケア研究』第 5 集、46～51 頁、2025 年 2 月
3. 「金子みすゞの童謡にみるあらゆるものへの慈しみの源泉―「土」「蜂と神さま」「私と小鳥と鈴と」に注目して」、『龍谷大学論集』503 号、1～25 頁、2025 年 3 月

共著

1. 『みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ展～まなざしの源泉』、井上善幸・岩田真美・古荘匡義・西村慶哉・釋大智・鍋島直樹編、担当論文「童謡詩人金子みすゞ「みんなちがって、みんないい。」～眼差しの源泉」51～60 頁、龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンター、2024 年 6 月 1 日

【学会発表】

1. 「童謡詩人金子みすゞ「みんなちがって、みんないい。」～まなざしの源泉～」、龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門人間・科学・宗教オープン・リサーチセンター、2024 年 6 月 13 日
2. 「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」、大会長講演、日本仏教看護・ビハーラ学会第 20 回年次大会、龍谷大学、2024 年 6 月 22 日
3. 「仏教と病」セッション 5 司会、日本仏教学会第 93 回学術大会、広島大学、2024 年 9 月 29 日
4. 「臨床宗教師の役割と実践～京都府立医科大学 承諾解剖の遺族ケア」、厚生労働省死因究明拠点モデル事業シンポジウム、京都府立医科大学法医学教室、2025 年 1 月 29 日
5. 「厚生労働省・京都府立医科大学 承諾解剖の遺族ケア」、日本臨床宗教師会フォローアップ研修・活動報告、大正大学、2025 年 3 月 3 日

【その他】

1. 「観無量寿経物語～韋提希の歎きと仏の微笑み」、浄土真宗本願寺派福井教区鯖江僧侶研修会、2024 年 6 月 14・15 日
2. 「親鸞聖人の慶びと悲しみ～願われないのちをどう生きるか～」、北御堂いちょうの会、2024 年 7 月 9 日
3. 「自死をみつめて～死と大いなる慈悲」、龍谷大学宗教部顕真アワー、2024 年 10 月 2 日
4. 「人生の終末 心の救い」 京都府立医科大学法医学教室、2024 年 11 月 6 日

5. 「「みんなちがって、みんないい。」金子みすゞのいのちへのまなざし」、神戸市佛教会、神戸別院モダン寺、2024 年 12 月 8 日
6. 「仏教からみた安楽死・尊厳死への視座」、龍谷大学臨床宗教師・傾聴士総合実習、神戸赤十字病院心療内科、2024 年 12 月 13 日
7. 「浄土真宗～親鸞聖人の心の支え」、比較宗教講座、関西臨床宗教師会、2024 年 12 月 13 日
8. 「極楽のハーモニー～願われないのちをどう生きるか～」、鳥取いのちみつめて、とりぎん文化会館、2024 年 12 月 15 日
9. 「亡き人の愛情と共に～阪神淡路大震災 30 年追悼」、浄土真宗本願寺派神戸中組第 37 回
10. 「報恩のつどい」、西本願寺神戸別院モダン寺、2025 年 1 月 25 日

【新聞記事等】

1. 「金子みすゞ展 みんなちがってみんないい。」、本願寺新報、2024 年 6 月 20 日
2. 「亡き人の愛情と共に 阪神淡路大震災 30 年」、本願寺新報、2025 年 1 月 1 日
3. 「こんなつらい思いを他の誰にもさせたくない 広島原爆被爆者の証言」、文化時報、2025 年 1 月 1 日

那須英勝（龍谷大学文学部教授）

【雑誌論文】

1. 「信仰者の自己理解と自己表象の学術的評価の方法についての再検討 ―現代日本仏教研究の現状と課題―」『宗教研究』98 別冊、2024 年 3 月（出版予定）

【学会発表】

1. 「信仰者の自己理解と自己表象の学術的評価の方法についての再検討 ―現代日本仏教研究の現状と課題―」日本宗教学会第 83 回学術大会 公開シンポジウム、2024 年 9 月 13 日
2. 「黙雷と雷夢―宗教的自由と精神的自由のはざまに生きること―」宗教倫理学会 2024 年度・第 1 回研究会、2024 年 4 月 19 日（オンライン）

【その他】

1. 「Localizing the Universal Teaching: Three Issues Surrounding the Propagation of Shin Buddhism in Hawaii」The 65th Annual Honpa Hongwanji Ministers' Association Seminar（浄土真宗本願寺派・ハワイ開教区主催の開教使セミナーでのオンライン講義）、2024 年 6 月 4 日～2024 年 6 月 6 日
2. 「近世仏教の仕舞としての山海里の世界観―大行寺信暁からラフカディオ・ハーンまで―」『心―日曜講演会公演集―』第 42 集（武蔵野大学）、2024 年 4 月、16～38 頁

【新聞記事等】

1. 「日本宗教学会シンポ 「信仰者の自己理解」 議論」『中外日報』、2024 年 9 月 25 日
2. 「信仰と研究どう両立 日本宗教学会学術大会」『文化時報』、2024 年 9 月 27 日

武田晋（龍谷文学部特任教授）

【雑誌論文】

1. 「『浄土論』五念門行への視座—『無量寿経』の誓願とその対象を中心に—」龍谷大学論集 503 号、2025 年 3 月、1～26 頁

玉木興慈（龍谷大学文学部教授）

【その他】

1. 寄稿）「みのりのエッセー」『大乘』本願寺出版社、2025 年 1 月
2. 寄稿）「西別院報 続・和のころ」名古屋別院、2024 年 6 月 16 日、8 月 1 日、10 月 16 日、12 月 16 日、2025 年 2 月 16 日
3. 講演）「『歎異抄』第 2 条に見る親鸞聖人と門弟の対話一人に遇うということ」武蔵野大学日曜講演、2024 年 5 月 19 日
4. 講演）「親鸞聖人の念仏思想～『教行信証』の思想～」福井教区雛川組夏期講習会、6 月 22 日、23 日
5. 講演）「如来大悲の恩徳」第 45 回西本願寺近畿地区仏教婦人会大会、2024 年 12 月 4 日
6. 講演）「自力ということ」津村別院日曜講演、2025 年 3 月 2 日

井上善幸（龍谷大学文学部教授）

【著書】

共著

1. 嵩満也・佐野東生編『仏教・イスラーム・キリスト教』【龍谷大学仏教文化研究叢書 54】、第九章「親鸞思想に至る念仏の思想と実践の展開」、法藏館、2025 年 2 月、245～273 頁

【雑誌論文】

1. 「親鸞における真如の体系的理解について」『龍谷大学論集』502 号、2024 年 10 月

【講演】

1. アンカラ大学神学部宗教史セミナー 大乘仏教と日本浄土教：思想的・教義的背景「真宗教義の構造」2025 年 2 月 18 日アンカラ大学

History of Religions Seminars I-Buddhism (Japanese Pure Land Buddhism)

Mahayana and Japanese Pure Land Buddhism: Philosophical and Doctrinal BackgroundAnkara

University Faculty of Divinity (Tuesday, February 18, 2025, 13:30)

Prof. Inoue Yoshiyuki (Ryukoku University, Shin Buddhism Studies) "Shin Buddhism Doctrinal Structure"

高田文英（龍谷大学文学部教授）

【著書】

共著

1. 森田眞円先生古稀記念論集刊行会編『真宗の教学と実践』法藏館、2025年3月31日（予定）「結城称名寺蔵『往生要集云』の抜き書き意図—親鸞の宿善観の一側面—」（41頁～57頁）を執筆担当。

【雑誌論文】

1. 「『往生要集』の尋常の念仏」『真宗学』152号、2025年3月1頁～21頁

【学会発表】

1. 「『往生要集』の念仏思想」真宗学研究学会、2024年9月5日

森田敬史（龍谷大学文学部教授）

【学会発表】

1. 岩井未来・中井珠恵・森田敬史「チャプレンのグリーフケアとしての流死産児への数珠の提供—看護職へのアンケート調査から—」第47回日本死の臨床研究会年次大会（札幌）、2024年10月12日（土）
2. 「宗教的背景のない医療現場における臨床宗教師の実際」龍谷大学真宗学会第78回大会（京都）、2024年11月7日（木）
3. 岩井未来・秋山美智子・中井珠恵・森田敬史・大河内大博・谷山洋三「周産期喪失への宗教的ケア—JU-ZUプロジェクトの実践報告—」第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会学術大会（大阪）、2025年3月15日（土）（予定）

【その他】

1. 「医療の現場を通して見えてきた宗教者（ビハーラ僧）や寺院の可能性」『中外日報』2024年11月6日（水）

岩井未来（龍谷大学文学部教授・実践真宗学研究科教授）

【学会発表】

1. 「宗教的ケアとしての流死産児への数珠の提供-ペリネイタルロスへのケアの取組み」真宗学研究学会、2024年9月5日
2. 「チャプレンのグリーフケアとしての流死産児への数珠の提供—看護職へのアンケート調査から—」死の臨床年次研究大会、2024年10月4日
3. 「周産期喪失への宗教的ケア—JU-ZUプロジェクト実践報告—」グリーフ&ビリーブメント学会学術大会、2025年3月15日

【新聞記事等】

1. 「働く女性の流産・死産 どうケアする？」 かんさい熱視線 初回放送日:2024 年 6 月 7 日
2. 「数珠作り遺族ケア—死別した赤ちゃんしのぶ」 文化時報 2024 年 12 月 20 日

能美潤史（龍谷大学法学部准教授）

【雑誌論文】

1. 「『御文章』に関する新たな解釈への疑義」 『真宗学』151 号、2025 年 3 月刊行予定

打本弘祐（龍谷大学農学部准教授）

【著書】

1. (企画協力) 滋賀県総合企画部企画調整課企画第二係『えっ！ 死ぬとか生きるとか、知事命令？ 滋賀県庁「死生懇話会」ドキュメント』文芸社、2025 年 2 月 5 日、241 頁

【雑誌論文】

1. 「病者に向き合う仏教者の養成—龍谷大学「臨床宗教師研修」の試み」『日本佛教学会年報』第 88 号、2025 年 3 月末発刊予定（入稿済）

【学会発表】

1. 原信太郎, 河南真吾, 池内龍太郎, 岩本信治, 打本弘祐, 金田諦晃, 倉田恒雄, 田中至道, 谷山洋三, 隠一哉, 沼口諭, 南千代「臨床宗教師と医療者との協働の発展を目指して～緩和医療学会交流集会とアンケート結果の総括」第 29 回日本緩和医療学会学術大会、2024 年 6 月 15 日
2. 水野久代, 打本弘祐, 小澤理香, 山崎正幸, 塩尻かおり, 高林純示, 熊谷誠慈「仏式礼拝堂内における香気成分の機能—龍谷大学 3 礼拝堂の香気構成成分比較—」日本味と匂学会第 58 回大会、2024 年 9 月 11 日

【その他】

1. 山本佳世子, 打本弘祐, 平山恵美子, 山田慎也「病院は死者をいかに遇することができるか—病院における「死者へのケア」『スピリチュアルケア研究 2024』 No.008、2024 年 9 月、51-53 頁（シンポジウム報告）
2. 「第 24 回臨床パストラル教育研究会全国大会「『共に生きる』～無力～」参加報告」『スピリチュアルケア』第 5 号 2024 年 9 月 1 日 4-5 頁（全国大会参加報告）
3. 「仏教者と考えるスピリチュアルケアと宗教的ケア」臨床パストラル教育研究会 1 日研修会 2024 年 11 月 16 日（招待講演）
4. 「スピリチュアルケア講演会 河合紀子氏による「多様性が求められる環境における死のケア」へのコメント」科学研究会「病院は死者をいかに遇することができるか：医療現場での『無宗教』者への死者へのケア」2024 年 12 月 21 日 龍谷大学
5. 第 5 回死生懇話会「行政が逃げずに考えた「死」、考える意味」打本弘祐 越智眞一 楠神渉 ミウラユウ 上田洋平 三日月大造、2025 年 3 月 23 日滋賀県庁&Zoom

【新聞記事等】

「別れとお酒と親鸞聖人」食と農の楽しさを伝える Web マガジン Moglab (モグラボ) 2024 年 12 月、<https://mog-lab.com/2024/12/post-335.html>

佐々木大悟（龍谷大学短期大学部准教授）

【雑誌論文】

1. 「『無量寿経』「見敬得大慶 則我善親友」の思想背景」、『印度学仏教学研究』第 73 巻第 2 号、2025 年 3 月 31 日、掲載頁現在未定
2. 龍谷教学会議「インドの浄土信仰」のなかのパネル発表「無量寿経類を中心とする古い時代の仏国土の描写」『龍谷教学』58, 2025 年 3 月 29 日、掲載頁現在未定

【学会発表】

1. 「『無量寿経』「見敬得大慶 則我善親友」の思想背景」日本印度学仏教学会、2024 年 9 月 8 日
2. 「インドの浄土信仰」のなかのパネル発表「無量寿経類を中心とする古い時代の仏国土の描写」龍谷教学会議シンポジウム、2024 年 6 月 19 日

【その他】

1. 講演)「『大無量寿経』と『教行信証』一大経の註釈からみる視点ー」真宗興正派安居、2024 年 6 月 6 日

■ジェンダーと宗教研究センター

清水耕介（龍谷大学国際学部教授／ジェンダーと宗教研究センター センター長）

【雑誌論文】

1. Kosuke Shimizu, and Sei. Noro.2024, *Political Healing and Mahāyāna Buddhist Medicine: a critical engagement with contemporary international relations*. Third World Quarterly, pp1-16. <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/01436597.2021.1891878>.
2. 清水耕介「量子論、仏教、実在」『年報政治学』 2024(2)、2024 年 12 月 18 日

【学会発表】

1. Kosuke Shimizu, “Relationality and IR theory: An approach of Mahayana Buddhism,” International Studies Association Annual Conference, San Francisco,2024-4-4.
- 2.Kosuke Shimizu, “Mahayana Buddhism and Japanese Imperialism,” International Studies Association Annual Conference, San Francisco,2024-4-4.
- 3.Kosuke Shimizu, “Thinking Globally about World Politics: Roundtable,” WISC,2024-7-24.
- 4.Kosuke Shimizu, “Interrogating the International,” WISC, Warsaw,2024-7-26.
5. Kosuke Shimizu, “Transformations in Global Order: Politics and Geopolitics,” East-West Forum, Taichun,2024-9-5.
- 6.Kosuke Shimizu, Buddhism in IR or IR in Buddhism: what does living in the Pluriversal World

mean?”, Pluriversal International Relations, Shanghai, 2024-12-15.

7. Kosuke Shimizu, “Postcolonialism and Pluriversity in International Relations: An investigation into the embedded temporality,” Meta-theoretical Knowledge Cultivation in International Relations Studies and Beyond, Chuncheon, 2025-2-14.

1. Kosuke Shimizu, and Sei. Noro. 2024, *Political Healing and Mahāyāna Buddhist Medicine: a critical engagement with contemporary international relations*. Third World Quarterly, pp1-16. <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/01436597.2021.1891878>.

2. 清水耕介「量子論、仏教、實在」『年報政治学』 2024(2)、2024年12月18日

野呂靖（龍谷大学心理学部准教授／世界仏教文化研究センター 副センター長）

【著書】

1. 金天鶴・張文良・野呂靖編『징 관澄觀의 불교세계에 대한 해석 동아시아 불교의 관점에서 (澄觀の仏教世界の解釈 —東アジア仏教の視点から—)』（東国大学出版文化院、2024年4月）

2. 奥田勲・平野多恵・前川健一編『増補改訂版 明恵上人夢記訳注』（勉誠社、2024年11月）

【雑誌論文】

1. Kosuke Shimizu, and Sei Noro. 2024. *Political Healing and Mahāyāna Buddhist Medicine: a critical engagement with contemporary international relations*. Third World Quarterly, pp1-16. <https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/01436597.2021.1891878>.

2. 野呂靖『『教行信証』撰述の背景を探る—法然聖人・親鸞聖人・明恵上人を通して—』『龍谷教学』57、2024年5月、シンポジウム講演録

3. 野呂靖「日本仏教対李通玄思想的密教解釈 —以明恵の三聖円融思想為中心」『2024 華嚴思想国際学術研究会論文集』2024年8月

4. 野呂靖「久米田寺の華嚴」（神奈川県立金沢文庫編『特別展 久米田寺』、2024年9月）

5. 野呂靖「我を抱擁せよ—『華嚴經』の婆須蜜多女をめぐる教理解釈と明恵」（大谷由香編 65『性なる仏教』勉誠社、2025年1月）

6. 野呂靖「日本華嚴における天台教学批判—東大寺戒壇院・久米田寺の談義文献に注目して—」『印度学仏教学研究』73・1、2025年3月

【学会発表】

1. 「日本仏教対李通玄思想的密教解釈 —以明恵の三聖円融思想為中心」（2024 華嚴思想国際学術研究会、於中国山西省、2024年8月24日）

2. 「日本華嚴における天台教学批判—東大寺戒壇院・久米田寺の談義文献に注目して—（第75回日本印度学仏教学会、於駒澤大学、2024年9月8日）」

3. 「久米田寺における華嚴談義の特質」（ミニシンポジウム「中世久米田寺と東アジア世界」、於神奈川県立金沢文庫、2024年10月19日）

4. 「日本華嚴における宋代仏教の受容」（シンポジウム「宋代文化と日本」、於東京大学東洋文化研究所、2025年3月23日）

水尾文子（龍谷大学文学部教授）

【雑誌論文】

- 1.水尾文子「'a version of *Pride and Prejudice*'—コルム・トビー『ブルックリン』におけるオースティン受容」『ジェイン・オースティン研究』第18号、2024年6月、1～29頁

【学会発表】

- 1.Ayako Mizuo, 'The Neo—Historical Austen: Sisterhood, Female Autonomy, and the Ethics of Care', *The Neo—Historical in British Literature and Visual Arts*, 2024.10.21

岩田真美（大阪大谷大学教授）

【著書】

- 1.岩田真美「高楠順次郎の女子教育と仏教女子青年会」武蔵野大学高楠順次郎研究会編『高楠順次郎と近代日本』吉川弘文館、2024年11月

【学会発表】

- 1.岩田真美「近代仏教と女性」佛教大学オープンラーニングセンター講座「性なる仏教」、佛教大学、2024年9月6日

【その他】

- 1.岩田真美「仏教からジェンダー問題を考える」真宗興正派大和教区人権研修会、奈良県産業会館、2024年4月27日 招待講演
- 2.岩田真美「仏教とジェンダー」ハルカス大学（大阪大谷大学2024年度公開講座）「日本文化の歴史をたずねて～日本人にとっての「神様」と「仏様」～」、大阪大谷大学ハルカスキャンパス、2024年9月27日
- 3.岩田真美「特集 仏教界におけるジェンダー問題」『全仏』663号、公益財団法人全日本仏教会、2024年10月、4～10頁
- 4.岩田真美「浄土真宗と女性——近世から近代へ」東本願寺日曜講演、しんらん交流館、2024年11月10日、招待講演
- 5.岩田真美「明治期の真宗大谷派婦人法話会——仏教教団と女性の国民化」『中外日報』「論」2024年11月13日
- 6.コメント掲載「寺で突然、性暴力 住職「逆らえば地獄に」尼僧支配した聖域の構造」毎日新聞デジタル（有料版）2024年12月11日配信
- 7.コメント掲載「性暴力の住職 心を支配」毎日新聞（東京本社版）社会面、2024年12月17日
- 8.岩田真美「ジェンダーと仏教」曹洞宗総合研究センター教化研修部講演、曹洞宗宗務庁、2025年2月28日、招待講演

大谷由香（京都大学白眉センター特定准教授）

【著書】

- 1.大谷由香編『性なる仏教』アジア遊学 300、勉誠社、2025 年 1 月、208 頁

【雑誌論文】

- 1.大谷由香「東アジアにおける比丘尼受戒譚と三人の尼」、『性なる仏教』アジア遊学 300（勉誠社）、2025 年 1 月

【学会発表】

- 1.大谷由香「日本仏教のなかの女性たち」、法華宗教学研究発表大会講演（招待）、2025 年 3 月 14 日（予定）

【その他】

- 1.大谷由香「女性もさとりを得られると釈尊が説いた本意（1）」、『月刊住職』2024 年 4 月号、2024 年 4 月 1 日
- 2.大谷由香「女性もさとりを得られると釈尊が説いた本意（2）」、『月刊住職』2024 年 5 月号、2024 年 5 月 1 日
- 3.大谷由香「女性もさとりを得られると釈尊が説いた本意（3）」、『月刊住職』2024 年 6 月号、2024 年 6 月 1 日
- 4.大谷由香、企画展「紫式部と祈りの世界」関連講座「日本仏教の中の女性たち—比丘尼戒壇をめぐる—」、大津市歴史博物館、2024 年 5 月 17 日
- 5 大谷由香、コラム「僧侶の美醜」、『性なる仏教』アジア遊学 300（勉誠社）、2025 年 1 月

【新聞記事等】

- 1.大谷由香「紫式部のその後」、『京都新聞』現代のことば、2024 年 12 月 23 日

大島幸代（大正大学専任講師）

【雑誌論文】

- 1.大島幸代・郷司泰仁「陸信忠再考—新出の「阿弥陀三尊像」を手がかりに—」『鹿島美術研究』年報第 41 号別冊、2024 年 11 月、152～162 頁
- 2.大島幸代「玄奘の肖像と玄奘イメージの系譜」『アジア遊学 300 性なる仏教』勉誠社、2025 年 1 月、118～135 頁

【その他】

- 1.大島幸代・井並林太郎・降幡順子「制作当初の法華経絵巻のすがた—修理と顔料分析の成果から—」『法華経絵巻と千年の祈り』香雪美術館、2024 年 10 月、84～94 頁
- 2.濱田瑞美・神野祐太・一本崇之・萩谷みどり・大島幸代「〔調査報告〕堺市博物館観音菩薩立像、大和文華館如来立像—日本所在の中国木彫仏像の調査記録」『美術史研究』第 62 冊、2024 年 12 月、103～114 頁

近藤俊太郎（本願寺史料研究所研究員）

【著書】

- 1.近藤俊太郎「高津正道の反宗教運動」『高津正道の僧籍剥奪を問う』法藏館、2024年6月、56～99頁

【学会発表】

- 1.近藤俊太郎「服部之總の親鸞・蓮如論が問いかけるもの—戦後日本宗教史研究の一断面—」（親鸞仏教センター第6回「現代と親鸞」公開シンポジウム「戦後歴史学と宗教研究—教科書からこぼれおちたものを「民衆」「宗教」からみる—」、2024年6月29日）
- 2.近藤俊太郎「親鸞の流罪をめぐる読みの運動—「承元の法難」という遺産—」（駒沢宗教学研究会「第201回宗教学研究会＜ミニパネルセッション＞ 近代日本の「宗教弾圧」言説を解きほぐす」、2024年7月20日）
- 3.近藤俊太郎「『近代仏教とは何か』を読む—仏教史学の視点から—」（第32回「仏教と近代」研究会「碧海寿広『近代仏教とは何か—その思想と実践』書評会」、2024年10月13日）
- 4.近藤俊太郎「1930年代の日本におけるマルクス主義と仏教」（ソウル大学校奎章閣韓国学研究院「シンポジウム 帝国日本と植民地朝鮮、そして近代日本仏教」、2024年11月16日）

【その他】

- 5.近藤俊太郎「書評 佐々木政文著『近代日本の思想変動と浄土真宗—教化・連帯・転向—』（『日本史研究』第748号、日本史研究会、2024年12月、104～111頁）

【新聞記事等】

- 1.歴史記述 民衆・宗教の視点で再考 親鸞仏教センターシンポ」『中外日報』2024年7月5日、5面
- 2.「親鸞仏教センター 「国」「天皇」から「民衆」「宗教」へ 戦前戦後の研究を再考」『仏教タイムス』2024年7月18日、2面
- 3.「高津正道の僧籍剥奪撤回を訴え 三原の本願寺派出身 戦前から社会主義運動」『中国新聞』2024年10月21日、7面
- 4.「高津正道巡り討論 僧籍剥奪処分再考 当時の教団姿勢考察 広島・南光寺」『中外日報』2024年10月23日、8面
- 5.「教団の近現代史を開設 本願寺史料研究所「戦後80年」で講義」『中外日報』2025年1月15日、2面

坂口満宏（京都女子大学教授）

【著書】

- 1.坂口満宏「バンクーバーの日本人健康相談所—その結核予防への取り組み(1932～1942年)—」（河原典史・佐藤量編著『移民の衣食住Ⅱ —海を渡って住むこと—（仮）』文理閣、2025年3月刊行予定、112～127頁）

■国際紛争解決班（国際紛争解決班グローバル・アフェアーズ研究センター）

陳慶昌（龍谷大学国際学部教授／国際紛争解決班長）

【雑誌論文】

1. Chen, Ching-Chang, and Nina C. Krickel-Choi. (2024) "Reimagining IR's biomedical foundations: East Asian medicine and the need for cosmological plurality." *Cambridge Review of International Affairs*, online first. DOI: 10.1080/09557571.2024.2417057

【学会発表】

1. Ching-Chang Chen, "Why is relationality inherently embodied (and why does it matter for International Relations)?" International Studies Association, San Francisco, USA, April 2024.
2. Seoyoung Choi & Ching-Chang Chen, "Reporting Taiwan, Rediscovering Japan? Representations of Taiwan by Conservative Japanese Media as an Identity Strategy," World International Studies Committee World Congress, Warsaw, Poland, July 2024.
3. Ching-Chang Chen, "Before the 'Indo-Pacific': The Taiwan Expedition (1874), Japanese imperialism, and the construction of maritime order in East Asia," East-West Forum, National Chung Hsing University, Taichung, Taiwan, September 2024.
4. Ching-Chang Chen, "How does alliance politics play out in Sino-North Korean relations?" Conference on China's Foreign Policy in a Complex World, National Chung Hsing University, Taichung, Taiwan, October 2024.
5. Ching-Chang Chen, "Reconnecting IR's Dichotomized Metatheoretical Foundations through Qi: A Daoist Intervention in Thinking about Power and Relationality," Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan, November 2024.

【新聞記事】

"US-North Korea relations: could a Trump-Kim summit be on the cards again?" *South China Morning Post*, December 1, 2024.

■社会的孤立回復支援センター

黒川雅代子（短期大学部社会福祉学科教授／社会的孤立回復支援センター長）

【雑誌論文】

1. 「地域にひらかれたグリーフサポート：セルフヘルプグループとサポートグループ」『緩和ケア』34(6)、488～492頁、2024年11月

【学会発表】

1. 黒川雅代子、赤田ちづる「あいまいな喪失というレンズを通して考える遺族の語り」、第23回日本トラウマテック・ストレス学会、2024年8月10日

赤津玲子（龍谷大学心理学部教授）

【雑誌論文】

1. 「呼び名を巡るセラピストの物語」『N ナラティブとケア』16号、2025年1月

【学会発表】

1. 赤津玲子、高林学、上野温子、中島陽大、田上貢「間接的アセスメントに関する研究—不登校、ひきこもりの当事者不在の保護者面接について—」日本心理臨床学会第43回大会、8月23日（金）
2. 「IP不在の保護者面接に関する一考察—3事例の初回面接の分析から」日本家族療法学会第41回金沢大会、9月29日（日）
3. 「本人不在の保護者面接に関する一考察」第4回日本公認心理師学術集会千葉大会、12月15日（日）

金 尚均（龍谷大学法学部教授）

【雑誌論文】

1. 「AIによる差別発言？」『情報法制研究 / Journal of law and information system』16号2～13頁、2024年11月
2. 「EU デジタルサービス法(DSA)について」『ヒューマンライツ / Human rights』439号、2024年10月、18～25頁
3. 「ドイツ刑法第13条の相応性条項について」『比較法雑誌』58巻3号105～24頁
4. 「第三者供賄罪と詐欺罪に問われた事案」『龍谷法学』57巻4号、2025年3月、1～30頁

■応用研究部門 PD・RA

西村慶哉（世界仏教文化研究センター応用研究部門 PD）

【著作】

1. 共著）『森田眞円先生古稀記念論文集』法蔵館、担当：「無縁社会における墓と真宗」301-324頁、2025年3月

【雑誌論文】

1. 『みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ展～まなざしの源泉』、井上善幸・岩田真美・古荘匡義・西村慶哉・釋大智・鍋島直樹編、担当論文「金子みすゞ作品に通底する浄土真宗の精神」61-62頁、龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチセンター、2024年6月1日
2. 「良忠撰『安楽集私記』の諸本について」、記主禅師研究所紀要(7)、104-130頁、2024年7月6日
3. 「称名寺聖教『安楽集論義』に関する一考察」、日本印度学佛教学研究 73-1、頁数未定、2024年12月

4. 「大分県西光寺蔵 新出の＜六巻本＞『考信録』について」、真宗学 152、頁数未定、2025 年 3 月予定
5. 「玄智『考信録』の基礎的研究（その 3）」塚本一真、西村慶哉、世界仏教文化研究論叢 63、頁数未定、2025 年 3 月
6. 「＜資料翻刻＞称名寺聖教『安楽集論義』」日本研究 70、213-232 頁、2025 年 3 月

【学会発表】

1. 「大分県西光寺蔵 新出の六巻本『考信録』について」龍谷大学真宗学会第 78 回大会 2024 年 11 月 7 日
2. 「称名寺聖教『安楽集論義』に関する一考察」日本印度学仏教学会第 75 回学術大会 2024 年 9 月 7 日

【その他】

1. 寄稿)「出来上がるまでに一果てしない思惟と修行のすえに—」、『本願寺新報』本願寺出版社 2024 年 9 月 10 日
2. 寄稿)「みのりのエッセー」『大乘』本願寺出版社、2024 年 11 月
3. 講演)「法事・追悼について」、東洋大学「現代社会に生きる仏教 B」(担当：春本龍彬) 第 13 回 2025 年 1 月

釋大智（龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 RA）

【雑誌論文】

1. 「七里恒順の説教と倫理」『真宗学』150、2025 年 3 月刊行予定
2. 「真宗カウンセリングからみる真宗実践論」『世界仏教文化研究論叢』63、2025 年 3 月予定

【学会発表】

1. 「浄土真宗における聞くことの実践—西光義敏の真宗カウンセリング論を手がかりとして」仏教看護ビハーラ学会、2024 年 6 月 23 日
2. 「七里恒順の説教と倫理」龍谷大学真宗学会第 78 回大会、2024 年 11 月 7 日

山本未久（龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 RA）

【学会発表】

1. 「演劇改良会とその周辺—法的・政治的次元—」2024 年度龍谷史学会史学大会 2024 年 11 月 1 日

 応用研究部門 2024 年度研究活動一覧表

 ❖ グリーフケア講座 ❖

グリーフケア講座	
テーマ	傾聴のコツ: 話を「否定せず、遮らず、拒まず」
開催日時	2024 年 7 月 9 日 (火) 15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
講 師	金田諦應 (カフェデモンク主宰)
司 会	鍋島直樹 (龍谷大学文学部教授)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
参加人数	15 名

グリーフケア講座	
テーマ	スピリチュアルケア
開催日時	2024 年 7 月 17 日 (水) 13:30～17:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
講 師	谷山洋三 (東北大学大学院文学研究科教授)
司 会	森田敬史 (龍谷大学文学部教授) ・ 鍋島直樹 (龍谷大学文学部教授)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
参加人数	15 名

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

グリーフケア講座	
テーマ	ビハラー活動一物語を紡ぐー
開催日時	2024 年 12 月 11 日（水） 11:00～12:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講 師	新堀慈心氏（あそかビハラー病院緩和ケア看護課長、浄土真宗本願寺派僧侶）
主 催	龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
協 力	実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム
参加人数	125 名

❖ 特別講義 ❖

特別講義	
テーマ	地域に開かれた寺院
開催日時	2024 年 6 月 11 日（火） 15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 101 教室
講 師	柱本惇（龍谷大学文学部非常勤講師、浄土真宗本願寺派布教使・明覚寺住職、元あそかビハラー病院ビハラー僧）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター 、国際研究部門
協 力	日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケアー現代日本の 仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	12 名

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

特別講義	
テーマ	金子みすゞ～いのちへのまなざし～
開催日時	2024 年 6 月 13 日（火）13:30～15:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 209 教室
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	24 名

特別講義	
テーマ	龍谷大学からジェンダー平等をめざして
開催日時	2024 年 6 月 25 日（水）15:15～16:45
開催場所	龍谷大学大宮学舎 北翼 105 教室
講 師	安食真城（龍谷大学宗教部課長、浄土真宗本願寺派覚浄寺住職、豊郷町教育委員会委員、NPO 法人にじいろ Biwako 理事）
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター、ジェンダーと宗教研究センター、実践真宗学研究科
協 力	日本学術振興会科学研究費基金特別研究員奨励費「臨床宗教師のケアー現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」（23KF0071） 研究代表者 鍋島直樹（龍谷大学）
参加人数	15 名

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

特別講義	
テーマ	実践真宗学のフロンタライン
開催日時	2024 年 10 月 9 日（水）11：00～12：30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講師	長尾菜摘（実践真宗学研究科 2 年・臨床宗教師研究生） 長岡阿衣瑠（実践真宗学研究科 2 年・ハワイにおける国際伝道研究生） 鍋島直樹（文学部教授）
主催	龍谷大学大学院実践真宗学研究科
協力	龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
参加人数	145 名

特別講義	
テーマ	親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して
開催日時	2024 年 11 月 20 日（水）11:00～12:30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講師	上杉智英（京都国立博物館主任研究員）
主催	龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
協賛	文学研究科真宗学専攻、実践真宗学研究科
参加人数	172 名

❖ 特別公演 ❖

特別公演	
テーマ	みんなちがって、みんないい。～みすゞ甦りとまなざし～
開催日時	2024 年 6 月 5 日（水） 11:00～12:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
講師	矢崎節夫（童謡詩人金子みすゞ記念館館長）
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	210 名

特別公演	
テーマ	みすゞの読んだアンデルセン童話
開催日時	2024 年 6 月 19 日（水）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂
講師	柴崎大輔・北尾知子（JULA 出版局）
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
参加人数	160 名

ディスカッション形式講演会	
テーマ	幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾 「働く－ジェンダーと重圧・社会進出について－」
開催日時	2024 年 11 月 26 日（火）13：30～15：00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室
講師	幾田桃子・千々松由貴
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 ジェンダーと宗教研究センター
協賛	龍谷學會
参加人数	24 名

❖ シンポジウム ❖

シンポジウム「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」	
開催日時	2024 年 5 月 22 日（水）11：00～12：30
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 101 教室
プログラム	■基調講演 Mark Ty Unno（University of Oregon Professor of Religious Studies, Religious Studies, Department Head） 「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」 ■対談 Mark Ty Unno 鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主催	龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門・国際研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

協 力	日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費「臨床宗教師のケアー現代日本の仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」(23KF0071) 研究代表者 鍋島直樹(龍谷大学)
参加人数	150 名

新春シンポジウム「臨床宗教師の現在と近未来」	
開催日時	2025 年 1 月 15 日(水) 16:00~17:15
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館講堂
プログラム	■開幕挨拶 16:00-16:05 森田敬史・鍋島直樹(龍谷大学文学部教授) 「2025 龍谷大学実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師研修募集要項」 ■基調講演 16:05-16:35 谷山 洋三(東北大学文学研究科教授) 「臨床宗教師の現在と近未来」 ■研修生 Graduate School of PSBS, Fellows 16:35-17:00 佐々木大成・長尾菜摘・廣田智成 「感動と夢 2 年間養成教育プログラムを終えて」 聞き手 森田敬史 ■Advisory board 17:00-17:10 谷山洋三(東北大学文学研究科教授) ■謝辞 17:10-17:15
主 催	世界仏教文化研究センター応用部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター 実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム
参加人数	23 名

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

❖ 研究会 ❖

研究会	
テーマ	大乘仏教の国際関係論: 日本の事例からの考察
開催日時	2024 年 6 月 21 日 (金) 16:55 ~18:25
開催場所	龍谷大学深草キャンパス 和顔館 306 教室
講師	林佩瑩 氏 (国立政治大学宗教学大学院 (台湾) ・准教授)
主催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター

❖ 新書発表会 ❖

新書発表会	
テーマ	Relations and Roles in China's Internationalism: Rediscovering Confucianism in a Pluriversal World (中国の国際主義における関係と役割: プルリバーサル世界における儒教の再発見)
開催日時	2024 年 11 月 22 日 (金) 17:00 ~ 18:30
開催形態	オンライン (Zoom)
講師	Chih-yu Shih (Professor, School of Political Science & International Relations, Tongji University)
コメンテーター	Ekaterina Koldunova (Associate Professor, Asian and African Studies Department, MGIMO University) Olivia Umurerwa Rutazibwa (Assistant Professor, Department of Sociology, London School of Economics and Political Science)

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

	Jungmin Seo (Professor, Department of Political Science and Diplomacy, Yonsei University) Kosuke Shimizu (Professor & Dean, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
司 会	Ching-Chang Chen (Professor, Faculty of International Studies, Ryukoku University)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 グローバル・アフェアーズ研究センター

❖ シンポジウム ❖

シンポジウム	
テーマ	システム論から考えるスクールカウンセリング
開催日時	2025 年 3 月 23 日 (日) 10:00 ~13:00
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 301 教室
講 師	村上雅彦 (広島ファミリールーム)
シンポジ スト	荒井久美子 (京都府・京都市スクールカウンセラー) 西山達二 (滋賀県スクールカウンセラー) 大石直子 (灘中学校・灘高等学校スクールカウンセラー)
主 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門 社会的孤立回復支援班

❖ 2024 年度研究活動一覧表 ❖

❖ 研究展示 ❖

研究展示	
展覧会名	みんなちがって、みんないい。 童謡詩人 金子みすゞ展～まなざしの源泉～
開催日時	2024 年 6 月 5 日（水）～26 日（水） 10:00～16:00 ※土・日・月は休館、但し 22 日（土）、23 日（日）は開館。
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館展覧室
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）、ジェンダーと宗教研究センター、龍谷學會
協 力	金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、J U L A 出版局、龍谷大学真宗学会、実践真宗学研究科、Yunus Social Business Research Center
来館者数	854 名

❖ 協力事業等 ❖

日本仏教看護・ビハーラ学会第 20 回年次大会	
開催日時	2024 年 6 月 22 日（土）～23 日（日）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 東翼 301・302 教室
テーマ	「ビハーラの原点に返って未来へ～願われないのちを共に～」
主 催	日本仏教看護・ビハーラ学会第 20 回年次大会実行委員
共 催	世界仏教文化研究センター応用研究部門

顕真アワー	
テーマ	自死をみつめて～死と大いなる慈悲～
開催日時	2024 年 10 月 2 日（水）
開催場所	龍谷大学大宮学舎 本館 2 階講堂
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	龍谷大学宗教部
協 力	世界仏教文化研究センター応用研究部門

釈尊成道会	
テーマ	金子みすゞの眼差し みんなちがって、みんないい。
開催日時	2024 年 12 月 8 日（日）
開催場所	本願寺神戸別院
講 師	鍋島直樹（龍谷大学文学部教授）
主 催	神戸市佛教連合会
協 力	世界仏教文化研究センター応用研究

日本臨床宗教師会理事会・フォローアップ研修	
開催日時	2025 年 3 月 2 日（日）～3 日（月）
開催場所	大正大学 7 号館 751 教室
主 催	日本臨床宗教師会
協 力	世界仏教文化研究センター応用研究部門

Special Symposium

「他力本願：他者を通して大悲心に生かされる」

2024 May 22 Wed 11:00-12:30 龍谷大学大宮学舎東覺 101



開幕挨拶 Opening Greeting 11:00-11:10

基調講演 Plenary Address 11:10-12:00

Mark Ty Unno

University of Oregon



Professor of Religious Studies, Religious Studies,
Department Head

Ph.D., 1994, Stanford University

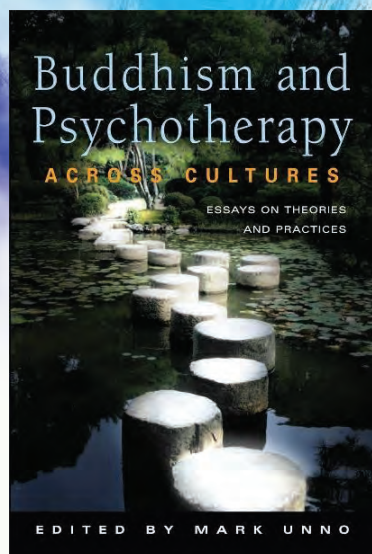
「他力本願：

他者を通して大悲心に生かされる」

Buddhism and Psychotherapy, 2006, *Shingon Refractions*, 1997
Translator of *The Buddhist Priest Myoe: A Life of Dreams*, 1992

Table Talk and Free Impression 12:00-12:30

Mark Unno, Naoki Nabeshima & Students



開催日時: 2024年5月22日(水) 11:00~12:30

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 東覺101教室

科研費
KAKENHI

協力: 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費 「臨床宗教師のケア—現代日本の
仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」(23KF0071) 研究代表者 鍋島直樹(龍谷大学)

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 & 国際研究部門
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

「真宗学概論 A1」特別講演 受講生・学内の申込者に限定

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc.app@gmail.com 075-343-3812

特別講義 Special Lecture

「地域に開かれた寺院」

2024 June 11 Tue 15:15-16:45 龍谷大学大宮学舎北翼 105



開幕挨拶 Opening Greeting 15:15-15:20

基調講演 Plenary Address 15:20-16:20

講師 柱本 惇

龍谷大学文学部非常勤講師

浄土真宗本願寺派布教師・明覚寺住職

元あそかビハーラ病院ビハーラ僧

テーマ「地域に開かれた寺院」

論文「高齢者福祉における親鸞の人間観」163-188 頁

『仏教・親鸞浄土教を機軸とした宗教実践と社会実践の研究』2023 年

Table Talk and Free Impression 16:20-16:45

院生 佐々木大成・杵築一照・鍋島直樹ほか



開催日時: 2024年6月11日(火) 15:15~16:45

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 北翼105教室

科研費
KAKENHI

協力: 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費 「臨床宗教師のケア—現代日本の
仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」(23KF0071) 研究代表者 鍋島直樹(龍谷大学)

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門 & 国際研究部門
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

「ビハーラ・スピリチュアルケア論研究」受講生・事前申込者に限定

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc@ad.ryukoku.ac.jp 075-343-3812

特別講義 Special Lecture

「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」

2024 June 25 Tue 15:15-16:45 龍谷大学大宮学舎北翼 105



開幕挨拶 Opening Greeting 15:15-15:20

基調講演 Plenary Address 15:20-16:20

講師 安食 真城 氏

龍谷大学宗教部課長

浄土真宗本願寺派覚浄寺住職

豊郷町教育委員会委員 NPO 法人にじいろ Biwako 理事

テーマ

「龍谷大学からジェンダー平等をめざして」

Table Talk and Free Impression 16:20-16:45

院生 長尾菜摘・豊原優哉(実践真宗学研究科)ほか



開催日時: 2024年6月25日(火) 15:15~16:45

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 北翼105教室

科研費
KAKENHI

協力: 日本学術振興会科学研究費基金 特別研究員奨励費 「臨床宗教師のケア—現代日本の
仏教チャプレンとスピリチュアルケア運動」(23KF0071) 研究代表者 鍋島直樹(龍谷大学)

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

ジェンダーと宗教研究センター 実践真宗学研究科

「ビハーラ・スピリチュアルケア論研究」受講生・事前申込者に限定

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc@ad.ryukoku.ac.jp 075-343-3812

You, Unlimited

龍谷大学

世界仏教文化研究センター 応用研究部門

人間・科学・宗教オープンリサーチセンター



グリーフケア講座

講師 **金田 諦應 氏**

(カフェ・デ・モンク主宰)

テーマ 「傾聴のコツ: 話を「否定せず、
遮らず、拒まず」

映画『グリーフケアの時代に』2023 年にご出演

[グリーフケアの時代に \(grief-care-movie.com\)](http://grief-care-movie.com)

東日本大震災のご遺族や被災者に寄り添いつづけておられます

日付・場所

開催日時: 2024 年 7 月 9 日(火)午後 3 時 15 分～4 時 45 分

開催場所: 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

[大宮キャンパス](#) [キャンパスマップ](#) | 龍谷大学 [You, Unlimited \(ryukoku.ac.jp\)](http://ryukoku.ac.jp)

司会: 鍋島直樹(龍谷大学文学部教授)

※ご講演の後に意見交換を行いたいと思います。

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館)

rcwbc.app@gmail.com

075-343-3812

主催: 世界仏教文化研究センター(RCWBC)応用研究部門

人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

協力: 龍谷大学大学院実践真宗学研究科

グリーフケア講座 Special Lecture 「スピリチュアルケア」

2024 July 17 Wed 13:30 龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室



開幕挨拶 Opening Greeting 13:30-13:35

鍋島直樹 & 森田敬史

特別講義 Special Lecture 13:35-14:30

質疑応答 14:30-14:45

講師 谷山 洋三 氏

東北大学大学院文学研究科教授

臨床死生学(スピリチュアルケア、宗教的ケア、グリーフケア)

テーマ「スピリチュアルケア」

[東北大学 研究者紹介 - 谷山 洋三 \(tohoku.ac.jp\)](https://tohoku.ac.jp)

非公開 会話記録検討会 14:20-17:20

臨床宗教師・臨床傾聴士研修生



開催日時: 2024年7月17日(水) 13:30~17:45

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室

主催: 龍谷大学大学院実践真宗学研究科

世界仏教文化研究センター応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター 事前申し込み必要

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc@ad.ryukoku.ac.jp 075-343-3812

特別講義 Special Lecture

「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」

2024 Nov 20 Wed 11:00-12:30 龍谷大学大宮学舎東覺 101



開幕挨拶 Opening Greeting 11:00-11:10

基調講演 Plenary Address 11:10-12:10

講師 上杉 智英 氏

京都国立博物館主任研究員

龍谷大学大学院文学研究科真宗学専攻修了生

「親鸞 生涯と名宝～特別展を開催して」

Free discussion and Impression 12:10-12:30



(出典：京都国立博物館 2023 年「親鸞展」より)

開催日時: 2024年11月20日(水) 11:00～12:30

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 東覺101教室

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

協賛: 龍谷大学大学院文学研究科真宗学専攻 & 実践真宗学研究科

文学部「真宗学概論 A2」受講生・事前申込者に限定

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc.app@gmail.com 075-343-3812

You, Unlimited

龍谷大学世界仏教文化研究センター

Research Center for World Buddhist Cultures



開幕挨拶 Opening Greeting 11:00-11:10
鍋島 直樹 龍谷大学文学部教授

基調講演 Plenary Address 11:10-12:10

「ビハーラ活動～物語を紡ぐ～」

講師 Keynote Speaker

新堀 慈心 氏

あそかビハーラ病院緩和ケア 看護課長
浄土真宗本願寺派僧侶

自由討論 Free discussion 12:10-12:30

開催日時: 2024年12月11日(水) 11:00～12:30

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 東翼101教室

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

協力: 実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム
「真宗学概論 A2」受講生・学内者限定

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc.app@gmail.com 075-343-3812

You, Unlimited

龍谷大学世界仏教文化研究センター

Research Center for World Buddhist Cultures



開幕挨拶 Opening Greeting 16:00-16:05

**「2025 龍谷大学実践真宗学研究科
臨床宗教師・臨床傾聴師研修募集要項」**

日本臨床宗教師会認定教育プログラム

日本スピリチュアルケア学会「スピリチュアルケア師」認定教育プログラム

森田敬史・鍋島直樹 龍谷大学文学部教授

祝 NEW 認定臨床宗教師・スピリチュアルケア師 資格取得者の紹介

基調講演 Plenary Address 16:05-16:35

講師 Keynote Speaker

谷山 洋三 氏 東北大学文学研究科教授

「臨床宗教師の現在と近未来」

研修生 Graduate School of PSBS, Fellows 16:35-17:00

佐々木大成 長尾菜摘 廣田智成

「感動と夢 2年間養成教育プログラムを終えて」

聞き手 森田敬史

Advisory bord 17:00-17:10

谷山 洋三 氏 東北大学文学研究科教授

謝辞 Acknowledgements 17:10-17:15

開催日時: 2025年1月15日(水) 16:00~17:15

開催場所: 龍谷大学大宮学舎 本館2階講堂

主催: 龍谷大学 世界仏教文化研究センター応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター

実践真宗学研究科臨床宗教師・臨床傾聴師養成教育プログラム

学部生・学内者参加自由 学外者は事前申込をお願いいたします。

問い合わせ先: 世界仏教文化研究センター共同研究室(白亜館) rcwbc.app@gmail.com 075-343-3812



日本仏教看護・ビハーラ学会 第20回年次大会

ビハーラの原点に 返って未来へ

〜願われないのちを共に〜

令和6(2024)年

6月22日(土) ▶ 23日(日)

※詳細の日程は裏面をご覧ください

開催場所

龍谷大学大宮学舎 ※詳細は裏面をご覧ください

開催方式

対面およびオンライン(ハイブリッド開催)

参加申込

Googleフォーム

<https://forms.gle/o3tHCAMNzNjKxUu86>



※Peatixをご利用の方は
下記URLよりお支払い下さい

<https://peatix.com/event/3866465>



お問合せ

日本看護仏教・ビハーラ学会第20回年次大会実行委員会事務局

龍谷大学大宮学舎 森田敬史研究室内 E-mail: vihara2024@gmail.com

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門(白亜館)

TEL:075-343-3812 mail:rcwbc.app@gmail.com

日本仏教看護・ビハーラ学会 第20回年次大会 プログラム

6月22日(土) オンライン参加URL および

6月23日(日) 研究発表1 オンライン参加URL

6月23日(日) 研究発表2・シンポジウム オンライン参加URL

<https://us02web.zoom.us/j/85482237516?pwd=vra7vpE94iyiJqRrLzggWOZmt5FZgp.1>

ミーティング ID: 854 8223 7516

パスコード: 555101

2024年6月22日(土) 大会第1日目

11:00～ イクスカーションⅠ	特別展「みんなちがって、みんないい。 童謡詩人金子みすゞ」 展示会場 龍谷大学大宮学舎本館1階 予約不要 入館料無料
13:00	開場 受付 大会会場 龍谷大学大宮学舎 東翼302
13:30 東翼302	開会式 会長挨拶 今井洋介 (長岡西病院ビハラ病棟) 大会長講演 鍋島直樹 (龍谷大学文学部教授) 「ビハラの原点に返って未来へ ～願われないのちを共に～」
14:00 東翼302	講師紹介 郷堀ヨゼフ (淑徳大学大学院教授) 特別講演 田宮仁 氏
	～休憩～
15:00 東翼302	対談 田宮仁 氏 × 藤腹明子 氏 ファシリテーター: 郷堀ヨゼフ
	～休憩～
16:15～ 17:00 東翼302	総会
18:00～ 清和館	懇親会 会場 清和館2階
20:00～ 清和館	ラートリカサガ 清和館2階

2024年6月23日(日) 大会第2日目

6:00～6:45 イクスカーションⅡ	晨朝のおつとめ 西本願寺 御影堂 阿弥陀堂
9:00 東翼3階302	開場 受付
9:30～12:00 東翼301・302	研究発表 会場1 東翼301 会場2 東翼302 発表15分 討論10分
12:00～ 13:00	昼食休憩
13:00～ 13:30 東翼101	『自然法爾』画文集完成発表会と朗読 朗読者: 上藤美紀代 氏 (元静岡放送アナウンサー) 田久保園子 氏 × 若麻績敏隆 氏
13:40～ 15:30 東翼101	シンポジウム 会場 東翼302 テーマ「仏教看護の今、そしてこれから ～全ての人の利益(りやく)を願って」 発題者紹介 森田敬史 進行: 今井洋介 ・ 郷堀ヨゼフ 発表① 台湾 王淑貞 先生 (花蓮慈濟醫院護理部) 発表② 米国 ホン・グエン 先生 (ミネソタ大学) 発表③ 日本 吉田厚子 先生 (訪問看護ステーションさとさんが願生寺) 指定発言(質問): 伊藤奈津子 氏 (淑徳大学) 高瀬園子 氏 (弘前医療福祉大学) 中島小乃美 氏 (佛教大学)
15:40 東翼101	閉会式

主催: 日本仏教看護・ビハーラ学会
第20回年次大会実行委員会

共催: 龍谷大学世界仏教文化研究センター
応用研究部門

お問い合わせ:

日本看護仏教・ビハーラ学会第20回年次大会実行委員会事務局

龍谷大学大宮学舎森田敬史研究室内

E-mail: vihara2024@gmail.com

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門(白亜館)

TEL:075-343-3812 mail:rcwbc.app@gmail.com



龍谷大学大宮学舎 (〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1)

交通アクセス

JR東海道本線・近鉄京都線・京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分(市バス約3分)

JR山陰本線(嵯峨野線)「梅小路京都西」駅下車、北東へ徒歩約10分

京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分

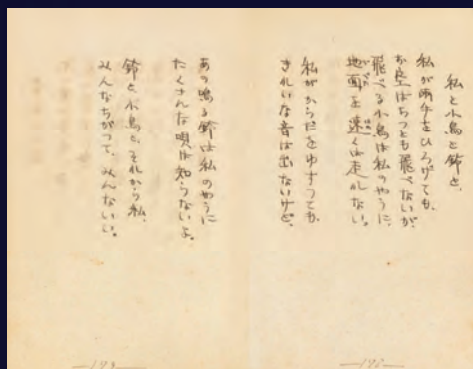
阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分(市バス約5分)

最寄りのバス停:市バス 七条大宮・京都水族館前

みんなちがって、

童謡詩人金子みすゞ展
～まなざしの源泉～

みんないい。



みすゞ自筆「私と小鳥と鈴と」



金子みすゞは全ての存在を大切に重んじました。
彼女の優しさはどこから生まれてきたのでしょうか。

入場
無料

開催期間

2024年6月5日～26日

展示会場

10:00～16:00

龍谷大学大宮学舎本館

特別講演

※参加無料・事前申込制（※学外の方）

写真提供：金子みすゞ著作権保存会

6/5

矢崎節夫（童謡詩人 金子みすゞ記念館館長）
「みんなちがって、みんないい。
～みすゞの魅力とまなざし～」

11:00～12:00 本館2階講堂

6/13

鍋島直樹（龍谷大学文学部 教授）
「金子みすゞ～いのちへのまなざし～」

13:30～15:00 東翼209教室（※学内者限定）

6/19

柴崎大輔・北尾知子（JULIA出版局）
「みすゞの読んだアンデルセン童話」

11:00～12:30 東翼101教室

※右記のQRコードもしくは
URLよりお申し込みください。



<https://forms.gle/q4NbZaQKsRDcFck37>

お問い合わせ

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 TEL: 075-343-3812 Mail: rcwbc.app@gmail.com

主催：龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター
／ジェンダーと宗教研究センター 龍谷學會

協力：金子みすゞ記念館 金子みすゞ著作権保存会 フレーベル館 JULIA出版局
龍谷大学真宗学会 実践真宗学研究科 Yunus Social Business Research Center

6 June 開館スケジュール 2024						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	1	1
2	3	4	5 特別講演	6	7	8
9	10	11	12	13 特別講演	14	15
16	17	18	19 特別講演	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

各展示室のコンセプト

(北) 第一室 みすゞを育んだもの～本・お仏壇・報恩講～

みすゞの故郷・山口県大津郡仙崎（現在の長門市）は、浄土真宗や浄土宗等の信仰の厚い土地でした。家には大きな仏壇があり、阿弥陀仏の存在は、みすゞの心の中で小さなものではなかったでしょう。また、みすゞの幼少期は、大正デモクラシーの時代であり、我が国における児童書発展の時期でもありました。彼女が15歳の時に雑誌「赤い鳥」が創刊されたことにより、「童謡運動」がはじまります。貴重なお仏壇や当時の書籍、雑誌をご覧くださいながら、作品の背景となった思想を探っていきましょう。



(中) 第二室 金子みすゞの手帳



みすゞは20歳で「童謡」を書き始めます。これまで抑えられていたものを噴き出すかのように、作品を生み出します。しかし、生前発表されたのは90編ほど。みすゞが忘れ去られ、没後50年が経って、矢崎節夫が手帳の存在をつきとめ、512編の作品が甦りました。「私と小鳥と鈴と」も「こだまでしょうか」も「星とたんぽぽ」も生前未発表。この手帳の発見がなければ、現在私たちはみすゞを知ることはありませんでした。みすゞの遺した3冊の遺稿手帳の精巧なレプリカをご覧ください。

(南) 第三室 みすゞ作品の掲載誌と展開

みすゞが投稿した作品は、大正12年（1923）9月号の4誌の雑誌に掲載されてから、投稿詩人仲間へ瞬く間に話題となりました。しかし時代が昭和恐慌から戦争への道に進んでいくうちに次第に忘れられてしまいます。それでも彼女の作品は、当時の童謡仲間たちの間で伝説のように語られ続けました。第三室では、みすゞ作品が、発表されたころの様子、幻の童謡詩人としてかすかに存在していたころの様子、そして手帳の発見以降、今日世界15カ国語までに広がっていく様子を実物の掲載誌の形でご覧いただけます。



会場アクセス



〒600-8268

京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1

代表TEL 075-343-3311: FAX 075-343-4302

- JR東海道本線・近鉄京都線・京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）
- JR山陰本線（嵯峨野線）「梅小路京都西」駅下車、北東へ徒歩約10分
- 京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分
- 阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）
- 最寄りのバス停：市バス 七条大宮・京都水族館前

You, Unlimited



ジェンダーと宗教研究センター

働く

ージェンダーと重圧・社会進出についてー

幾田桃子氏・千々松由貴氏ディスカッション形式講演会 第2弾

好評を博した昨年に引き続き、デザイナー、社会活動家、教育者、芸術家として、国内外の様々な場で活躍されている幾田氏と千々松氏をお招きし、働くことについて、ジェンダーの観点から重圧と社会進出について皆さんと考えてみたいと思います。

2024年11月26日(火)

13 : 30 ~ 15 : 00

大宮学舎
西翼2階 大会議室



▼参加対象

積極的にディスカッションに参加できる龍谷大学文学部・心理学部・短期大学部・文学研究科・実践真宗学研究科の学生。

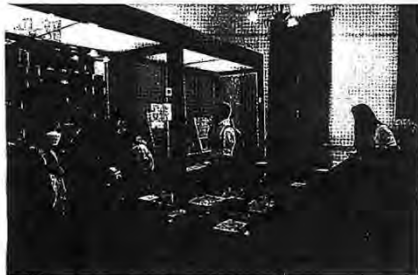
▼イベントの詳細・お申込みはこちら

<https://grrc.ryukoku.ac.jp/news/news-544/>



【主催】 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門(RCWBC) ジェンダーと宗教研究センター

【協賛】 龍谷學會



金子みすゞゆかりの展示物に只入る来場者ら

慈愛の童謡詩人紹介

銅島教授ら「みすゞ展」

命あるものへの慈愛にあふれた童謡詩人、金子みすゞ（1903～30）の企画展「みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ展～まなざしの源泉」が、龍谷大学大宮学舎本館（京都市下京区）で開かれてい

る。みすゞの作品と生涯にみる仏教的生命観について研究を重ねてきた龍谷大学文学部真宗学科の鍋島直樹教授らが展示に携わり、作品に通じる思想のルーツをひもといている。(佐々木雄満)

成。第2巻には、みずまきと3巻は、
青んだ山(八景仙傳村・現・現
最勝市)が多岐の作の錫
箔に覆うたといふことを説く。
紹介。浄土宗や浄土の
僧侶が、土地にこの信仰を
持ち込、神に与えた文化
的風景を述べた。

第7巻は、寛政52年(西暦
で発見された遺稿本に依り
ブリー)を示す。第8巻
は、世界万国誌(蘭館文)
に出版物から、投後生
界中の人を驚かし、怪し
むを伝える。

銅鑄銀貨は必ずしも作品の「魅力」を『みんなが持つて

歴々の日の日には、金
門寺の記念館(山田國
子)を訪ね、山田國子
の特別講義が行われ、約
200名が参加した。

矢崎館長は「大須一私
と小島 結」と「たま
しいうた」がの代表を
通じ、みずがきとあ
な、生死が裏一體あ
ることを述べた。

「1編でも覚えて」
と云って、命のながのの
舞臺からさげられた経
典「入道入道」を今
時な編も覚えてみたら
どうか、きつとのおま
なはながさしあひび
く。

26日まで、入館無料
午前10時午後5時土
日は休館、ただたあ
はに開館。

存する全ものものを鑑
し、舞臺を真にすま
しは、仏の慈悲通し

みな「レ」の
きき、人間たけ
存する全ものものを鑑
し、舞臺を真にすま
しは、仏の慈悲通し

と指摘、泉流の行動
を、観客が行動
るものがあると思
た。

『文化時報』2024年6月14日

news

「優しさの源泉」に仏さま

龍谷大学／金子みすゞ展「みんなちがって、みんないい。」

京門校の龍谷大学は6月5日から26日まで、京都市下京区の大宮学舎本館で「みんなちがって、みんないい。童謡詩人金子みすゞ展—まなざしの源泉」を開催。こくなる前日(昭和5年3月9日)に写されたみすゞ最後の写真、遺稿手帳(レプリカ)、形見の着物などのほか、当時の掲載雑誌「童謡」などを展示した。26年の生涯と童謡詩人としての歩みを振り返った(写真)。

13日には学生向けの講演会を開き、同展のスタッフを務めた鍋島直樹教授が「金子みすゞ〜いのちのまなざし」と題して、作品と生涯を照らし合わせながら、みすゞの根底に流れる浄土真宗の思想を探究



た。「さびしいとき」という詩に、『…私がさびしいときに、お母さんはやさしい。私がさびしいときに、仏さまはさびしい』と『お父さん』が出てこないのが長い間の疑問だった。みすゞは2歳の時に父を亡くし、それをご縁として、祖母や母と一緒にのお仏壇に手を合わせていた。詩の中に『お父さん』がいないのは

ではなく、『お父さん』が『仏さま』となってみずゞを見守っていたのである。どんなに寂しくても一人ではな
い。眼には見えなくても、自分のそばにいてくれる存在が
ある。それが仏さま」と味わいを述べ、「みずゞの優し
さの源流は、すべての存在を分け隔てなく尊重し、誰
一人取り残されることなく仏さまの慈恵がある。この
一瞬でそこに舞ってもちがった」と語った。

同大学は、「自省利他」（自分を省みて、他（自然・社会・人）の幸せや利益を追求すること）を理念に、社会に貢献できる人や活動を生み出そうと、「仏教SDGs」を掲げてSDGsに取り組む。今回の展示もその一環。

『本願寺新報』2024年7月1日

原点見つめ未来へ 田宮氏、藤腹氏ら対談



登壇する田宮氏と藤腹氏（右から）

日本仏教看護・ビハーラ学会（会長・井井井長岡西病院緩和ケア科部長）は6月22、23の両日、観谷大学大聖舎（東京都中央区）で第20回年次大会「ビハーラの原点に返って未来へ」を開催し、いかに共にを行った。ビハーラ用語解説Ⅱの提議者で学会発起人代表の田宮仁氏、同じく発起人代表で学会会長の藤腹明子氏が登壇。参加者はビハーラについて改めて学びを深めた。

（松井里）

同学会は、田宮氏が「大切な人の命の問題や、日本的なミナラルケアの在り方について改めて取り組みたい」と考え、2004年（平成16年）に設立。今井会長によれば、20周年の節目を迎えることで、ビハーラの原点を振り返り、考え直す契機したいという。

1日目の特別講演では、田宮氏が「仏教の中に仏教看護があり、その中にビハーラケアがある。仏教看護はビハーラケアはイコールではない」と強調。「ビハーラケアは、ビハーラという場におけるケアの総称。とてあっても実質で生きるものと定義を述べ、活動の場が緩和ケア病棟や福祉施設に限らないのを見方を示した。また、田宮氏は「ビハーラの概念は日本にうまく定着しなかった」と振り返り、その後の藤腹氏との対談でもビハーラや仏教看護が世間にならなっていないことを話した。

藤腹氏は、仏教という言葉がつたないで拒否感を持つ人や、仏教看護が看護の授業で扱われないと分れている現状があると分析。宗派や人によってそれぞれ特徴ある仏教看護が生まれることを肯定しつつも「仏教看護を理論として確立していくことが、普及には必要となるだろう」と伝えた。

長年看護学生らを教えた経験を持つ藤腹氏は「医療という科学と、仏教という非科学をバランスよく身に付けた看護者を育てたい」と展望を語り、田宮氏は「看護師としてどうあるべきかを決定してくれる看護師が一人でも増えてくれるとありがたい」と応じた。

『文化時報』2024年7月2日

命の尊さ味わう

神戸市佛教連合会

神戸市佛教連合会は8日、浄土真宗本願寺派本願寺神戸別院（神戸市中央区）で釈尊成道会Ⅱ用語解説Ⅱを開いた。法要と共に、インド巡礼中の真言宗須磨寺派大本山須磨寺の小池陽人寺務長から届いた録画を上映。鍋島直樹龍谷大学教授が記念講演を行い、参加者約80人が命の尊さを味わった。

法要は、善本秀樹会長（本願寺派順照寺住職）の導師で営み、三帰依文Ⅱ用語解説Ⅱを唱和した後、各宗派が重用する経典を誦経。小池寺務長がブツダガヤなどを巡拝する様子を録画で伝え、善本会長は「インドと日本でつながって成道会ができることをありがたく思う」と話した。

金子みすゞの感性と聖典の関係を伝える鍋島龍谷大学教授



鍋島教授は、童謡詩人の金子みすゞ（1903～30）の生涯や作品を紹介。みすゞが、親鸞聖人の言葉を掲載した聖典を読んでいたことを説明し、「目に見えなくても大切にすべきものがある」という感性を育んだことを伝えた。

成道会



巣鴨地藏通り商店街を練り歩く学生ら＝東京都豊島区

『文化時報』2024年12月17日

神戸市佛教会

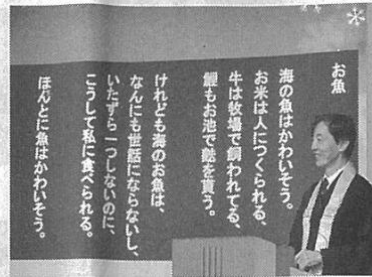
金子みすゞに深い仏教心

インド・ブッダガヤ動画も

神戸市佛教連合会（善本秀樹会長）は12月8日、釈尊成道会を兵庫県神戸市中央区の浄土真宗本願寺派神戸別院（モダン寺）で厳修した。約1

20人の僧侶が参列。善本会長を大導師に、市内各区の仏教会会長らが随喜して超宗派で報恩法要を営んだ。また会員功勞者表彰では1950年生まれの6人が表彰された。

記念講演は中央区・本願寺派眞覺寺住職の鍋島直樹氏（龍谷大学教授）。「金子みすゞの眼差し―みんなちがって、みんないい」の題で、仏教思想に基づいて生命を詩に綴ったみすゞについて語った。



「お魚」を解説する
鍋島氏

漁村である山口市

けではない。みすゞさんはかわいそうだからと魚を食べなかつたのではない、そう感じつつ『こうして私に食べられる』と書いていく」とし、かわいそうだと思ひながらもその生命を食べることに本當の感謝があると共感した。

中に見えないけれどもあるんだよという意味の言葉がある」とし、それは正信偈の中の「大悲無倦常照我」だと指摘。「煩惱が深くて仏さまが見えなくても、仏さまはいつも私を照らしてくださっている」という思いが代表作「星とたんぽぽ」に込められていることを解説した。

講演に先立ち、小池陽人氏（須磨区・真言宗須磨寺派大本山須磨寺副住職）が成道の地であるブッダガヤのマハボディ寺などで礼拝・法樂する動画が流された。小池氏ら十数名がちょうどインド仏跡を巡礼中だったことから善本会長が依頼した

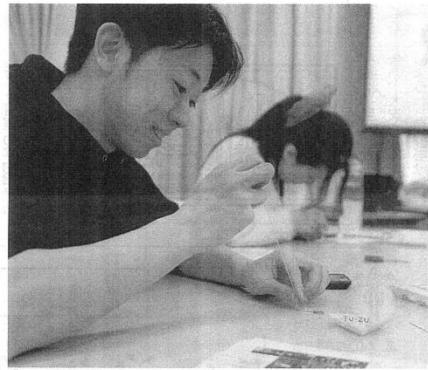
もので、プログラムには書かれていないサプライズ。小池氏はマハボディ寺住職から直々に案内を受けたことを報告し、仏縁に深く感謝。来場者も6千キロ離れた遙かなる聖地に想いを馳せた。

成道会

赤ちゃん思う数珠

龍大院生ら授業で手作り

JUJUZUプロジェクト



ビーズで赤ちゃん用の数珠を作る院生

て自分と學がこんな目に
遭わなければならぬの
か」といった当時の気持ちを
振り取り、「もう二度と
笑えないな」と感じるほ
どの苦悶を抱え続けたと
明かした。その上で、どの
ような言葉をかけられたら
つらいか、うれしいかを伝
え、「赤ちゃんを一人の人
として大切に扱ってくれる
とありがたい」と語った。
数珠作りでは、赤ちゃん
の体の大きさに合わせられ
るよう、さまざまなサイ
ズのビーズを使い、糸を通す
のに苦戦しながら思いを込
めて仕上げていった。
岩井特任教授によると、
数珠は火葬の時に一緒に入
れて送り出す場合もあれ
ば、その子の代わりとして
持ち歩いたり飾ったりする
人もいるという。小原さん
は「つながりを感じられる
ものがあると、生きる力に
なる」と話していた。

龍谷大学大学院実践宗教
学研究科で、亡くなった赤
ちゃんのために数珠を作る
「JUJUZUプロジェクト」
の授業が行われた。院生ら
は死産経験者の話を聞き、
実際に数珠を作ることで
活動への理解を深めた。
同団体の理事長を務める
岩井未来特任教授と森田敏
史特任教授のゼミが合同で
実施し、9人が参加。死産
流産経験者の自助グルー
プを立ち上げた小原弘美さん
が、妊娠41週で息子を死産

した経験を語った。
小原さんは「何のために
生きていめるのか」というこ

『文化時報』2025年1月17日

「臨床宗教師の現在と近未来」

龍谷大で新春シンポジウム

研修修了した院生3人が登壇

宗門校・龍谷大学の宗教勧誘、営利を目的とした世界仏教文化研究センターとせず、相手の価値観を尊重しながら、苦悩や悲しみを抱える人々に寄り添い、生きる力を育んと近未来を開いた。でもらおうと活動して臨床宗教師とは、専ら門の教育プログラムを同大学大学院実践真受け、医療福祉機関など専門職とチームを教師養成教育プログラム組、人々の苦悩や悲しみに向きあい、対象者の宗教性を尊重し、スピリチュアルケアと宗教的ケアを行っていく宗教者のこと。布教・



座学をはじめ、緩和ケア病棟、被災地などでの実習を振り返り、2年生の長尾菜摘さんは「ご遺族や終末期の患者の方々の深い悲し

みや苦しみは、（同じ経験を持たない）私には理解できるものではないということを学んだ。しかし、あるご遺族から『あなたの言葉にすごく共感した』と言っていたが、ご遺族や患者さんに私にしかできないこともあらないのではないかと悩んでいるのではないかと悩んでいる。常々自分を見つめ直しながらい、傾聴などを通して相手に寄り添っていき

龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門

2024 年度研究活動報告書

2025 年 3 月 31 日

編 集 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門 (PD 西村慶哉 RA 山本未久)

発行者 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門

人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター (センター長 鍋島直樹)

〒600-8266 京都府京都市下京区上之町 4 2 1 - 1 白亜館 3F

電話 : 075-343-3812 URL: <https://chsr.ryukoku.ac.jp/>
